

平成30年度

# 名古屋市美術館年報

2 0 1 8

# 目次

序	1
沿革	2
展覧会事業	3
1 常設展	3
(1)名品コレクション展	4
(2)常設企画展	12
2 特別展	18
教育普及事業	44
1 教育プログラム	44
1 一般成人対象の事業	45
(1)講演会・解説会	45
(2)コレクション解析学	45
(3)上映会	46
(4)コンサート	47
2 子ども対象の事業	48
(1)学校休業日の体験活動の推進	48
(2)夏休みこどもの美術館	49
(3)芸術と科学の杜	52
3 学校対象事業	53
(1)ボランティアによる学校団体向け ガイドトークの実績	53
(2)アートカード貸出実績	53
(3)出前アート体験	54
(4)就業・職業・職場体験及び 職場訪問受け入れ	56
(5)教員対象の講座	57
(6)その他	57
2 ボランティア	58
(1)ボランティア登録者	58
(2)定例会	58
(3)ガイド活動	58
(4)サポート活動 系の活動	59
(5)その他	59
3 学生向け優待事業	60
4 協力会	61
5 図書室	61
6 出版	62
資料	63
1 収集	63
(1)購入	64
(2)受贈	64
(3)資料収集状況一覧	73
2 保存・修復	74
3 調査・研究	75
4 貸出	76
5 寄附金	78
入館者一覧	79
組織・予算	80
1 組織図	80
2 美術館協議会	80
(1)名古屋市美術館協議会委員	80
(2)名古屋市美術館協議会開催状況	80
3 職員	80
4 運営予算	80

# 序

## PREFACE

名古屋市美術館の平成30年度の活動をまとめた年報を発行いたします。

平成30年度は開館から30周年の記念の年にあたります。美術館が開館した1988年は、日本の高度経済成長が最終局面ともいべきバブル時代に突入する直前で、あらゆるものが熱気に包まれているような状況でした。当館だけでなく、日本各地に新しい美術館が次々と誕生し、高額な美術作品の収集や、大規模な展覧会の開催といった話題が、新聞やテレビ等のマスコミを通じて盛んに報道される毎日でした。日本画家の加山又造氏が、美術館の目覚ましい活動ぶりを評して、「現代は美術館学芸員の時代だ」と語ったのもこの頃のことです。それほどまでに美術館の存在と活動が華やかで、世間の耳目を集めていた時代でした。それから30年の時が瞬く間に過ぎ去り、美術館そのものも、それを取り巻く日本の状況も大きく変わっています。揺れ動く時代の中で、美術館が果たすべき真の役割は何か。改めてその本質を厳しく問われる時代を迎えているのではないかと思います。これまでの30年をじっくりと検証しつつ、これからの美術館のあるべき姿を追求していきたいと思います。

開館当初800点あまりで始まった美術館のコレクションも、30年間に6千数百点を数えるまでに成長しました。近年は厳しい財政事情もあり、受贈や受託が中心となっていたコレクションですが、平成30年度は、ゆめ・プレミアムアートコレクションの寄附金を充当し、藤田嗣治作の高額作品を購入することができました。また地元作家、メキシコや日本の現代美術作品、地元コレクターの関連資料など、計85点が新たにコレクションに加わりました。さらに赤瀬川原平の千円札裁判関連資料を含む257点が寄託されました。

特別展については、30周年を記念する大規模な海外展から、コレクションの精華を紹介する展覧会、そして建築と現代美術に焦点を当てた展覧会など、5本を開催しました。知名度の高い作家の展覧会が含まれていたこともあり、非常に多くの方々にご覧いただくことができ、その数は40万人を超えました。さらに常設展や教育普及事業の参加者数を加えると60万人を超えましたが、この数字は実に開館10周年以来20年ぶりの記録となりました。

常設展は例年通り、収集方針ごとに小テーマを設け、それぞれの作品の特徴を浮かび上がらせるように工夫してご覧いただきました。今年度は特に収集方針を超えて共通するテーマを設け、展示全体の統一感を高めるような工夫も行っています。特別展に比べると、どうしても地味な印象を持たれがちな常設展ですが、コレクションこそが美術館活動の根幹、という基本理念を忘れることなく、個々の作品の魅力をより明らかにできるような展示を心がけていきたいと考えています。

教育普及活動については、例年通り講演会や講座、常設展、特別展でのギャラリートーク、「キッズの日」や「夏休みこどもの美術館」といった子どもたち向けの事業、出前授業、教師のための美術館利用研修など、精力的に展開しました。毎年11月初めに白川公園一帯を舞台に科学館や近隣商店街と共催で開催している「サイエンス&アート・フェスティバル」も、すっかり定着しています。また美術館を支える両輪となっているボランティアと協力会のうち、協力会の会員の人数が近年急増しており、今年度はついに200名を超えるまでになりました。会員になっていただいた皆様方の期待を裏切らぬよう、充実した美術館活動を継続していきたいと思います。

平成30年度は、開館30周年という節目の年に相応しい、充実した活動を展開することができました。これからも多くの方々へ愛され親しまれる美術館を目指して努力を重ねていきたいと考えております。どうぞ、今後とも名古屋市美術館の活動にご理解を賜り、これまで以上のご支援、ご協力をお願いいたします。

2019年8月

名古屋市美術館

## 沿革 HISTORY

- 昭和52年12月 「名古屋市基本構想」策定、同構想において美術館建設をめざす
- 昭和56年1月 市長、年頭記者会見において、美術館の具体化検討を発表  
12月 市会、美術館建設のための調査費を議決
- 昭和57年2月 美術館調査委員会（委員長 豊岡益人愛知県立芸術大学学長）設置、美術館のあり方について諮問  
4月 「名古屋市市民文化振興のための基金に関する条例」制定
- 昭和58年1月 美術館調査委員会「名古屋市美術館（仮称）基本構想について」答申  
7月 美術館建設委員会（委員長 伊藤延男東京国立文化財研究所所長）設置  
8月 美術館基本設計委託（黒川紀章建築・都市設計事務所）  
10月 美術館資料収集審査委員会設置、資料の収集を開始
- 昭和59年3月 建築基本設計完了  
9月 美術館実施設計委託（黒川紀章建築・都市設計事務所）
- 昭和60年1月 建築実施設計完了  
2月 名古屋市文化顧問（安達健二 東京国立近代美術館長）委嘱  
7月 美術館建設工事着手
- 昭和61年11月 「名古屋市美術館（仮称）収集作品展」を市博物館で開催
- 昭和62年4月 美術館開設準備顧問（谷隆夫 元名古屋市助役）委嘱  
7月 美術館本体工事完成  
10月 外構工事完成
- 昭和63年3月 「名古屋市美術館条例」制定  
4月 美術館顧問（河北倫明氏）委嘱  
4月 開館（館長 谷隆夫）
- 平成元年9月 博物館登録
- 平成5年9月 南側エレベーターの設置
- 平成7年6月 美術館長（剣持一郎 元名古屋市教育長）委嘱  
美術館顧問（谷隆夫 元館長）委嘱
- 平成10年10月 美術館参与（馬場駿吉 元名古屋市立大学教授）委嘱
- 平成11年6月 美術館長（小林龍郎 元名古屋市総務局長）委嘱
- 平成14年6月 美術館長（宮澤明倫 元名古屋市教育長）委嘱
- 平成18年6月 美術館長（渡辺豊彦 元名古屋市選挙管理委員会事務局長）委嘱  
美術館参与（石黒鏘二 名古屋造形芸術大学名誉教授）委嘱
- 平成21年5月 美術館長（松永恒裕 元名古屋市総務局長）委嘱  
6月 開館以来1,000万人目の入館者を迎える
- 平成26年5月 美術館長（横井政和 元名古屋市選挙管理委員会事務局長）委嘱
- 平成29年4月 美術館参与（早瀬弘親 元名古屋市鶴舞中央図書館長）委嘱
- 平成29年7月 美術館長（早瀬弘親 元名古屋市美術館参与）委嘱

平成30年度の常設展（名品コレクション展）は、「エコール・ド・パリ」「メキシコ・ルネサンス」「現代の美術」「郷土の美術」の4つコーナーで、特別展開催の会期に合わせて、第Ⅰ期前・後期、第Ⅱ期、第Ⅲ期前・後期に分け、代表作品を展示するとともにテーマを設けて、コレクションを多角的に紹介しました。第Ⅱ期では、開館30周年を記念して収蔵した藤田嗣治の《ベルギーの婦人》をお披露目しました。

本年度の「エコール・ド・パリ」では、第Ⅰ期前・後期に「フランスで描く」と題して、フランスに渡った作家が、現地で描いた作品を紹介しました。藤田嗣治、田中保、郷土の作家である荻須高德、鬼頭鍋三郎、三岸節子らの作品を展示しました。第Ⅱ期では、新収蔵作品の藤田嗣治《ベルギーの婦人》の展示に合わせて、エコール・ド・パリの作家が描いた女性像を紹介しました。また今期は「美術と文字」を4つのコーナーの共通テーマにし、ここではマルク・シャガールの版画《聖書》より「出エジプト記」を展示しました。第Ⅲ期前・後期は「エコール・ド・パリと大正の美術」をテーマに、大正時代にフランスと日本で描かれた作品を展示し、時代や地域の持つ同一性と多様性の一様相を紹介しました。

「メキシコ・ルネサンス」では、第Ⅰ期前・後期に「ガイコツ（生きる屍）たちの饗宴」と題して、ホセ・ガダルーベ・ポサダの風刺画を中心に展示しました。ポサダが描いたガイコツたちは時にユーモラスに、時にドラマチックに「生き生き」と活躍し、富裕層や権力者を批判し、民衆の心をつかみました。あわせて北川民次、フリーダ・カーロの作品からメキシコの死生観についても取り上げました。第Ⅱ期では、「美術と文字」をテーマに、壁画運動の中心人物ディエゴ・リベラの壁画に着目しました。壁画は識字率が低かった時代に文字の代わりに民衆にメキシコの歴史や未来を伝える手段の一つでした。展示ではティナ・モドッティが撮影したリベラの壁画の写真も展示し、リベラの豊かな描写力と表現力を紹介しました。第Ⅲ期では戦前にメキシコに滞在しメキシコ美術の紹介に努めた北川民次の作品と、岡本太郎がメキシコのホテルから依頼された壁画《明日の神話》の下絵を展示し、メキシコ・ルネサンスと昭和の美術のかかわりの一端を紹介しました。

「現代の美術」の第Ⅰ期では「収集熱」をテーマに、「ものを集めて、分類して、見せる」行為をベッ

ジャー、荒川修作、庄司達、藤本由紀夫らの作品に見出し、そこで語られているストーリーを読み解いていきました。第Ⅱ期の「美術と文字」では、アルファベットの単語が見られる荒川修作《自画像》や「9.11」の数字が描かれている中村宏の作品など、文字や記号が表現された作品に着目し、作品におけるその役割について探りました。第Ⅲ期では「平成の美術」に注目しました。30周年を迎えた当館は、まさに平成の歩みとともに活動してきました。平成とそれ以前に制作された作品を同じ空間に展示することで、平成を生きた作家の価値観や美意識を紹介しました。

「郷土の美術」のコーナーでは、第Ⅰ期では、前衛芸術集団「ゼロ次元」の中心人物として、またロック歌舞伎の演出家として当地で活躍し、2017年に亡くなった岩田信市と岩田の高校の後輩である岸本清子の二人を取り上げました。岩田の《ランニングマン》や岸本の16メートルにおよぶ《創世記の破壊—そして、海》を展示し、期間中にはフィルム作品の上映会も実施しました。第Ⅱ期の「美術と文字」では、浅野弥衛と杉本健吉を取り上げました。浅野の〈ハムラビ法典〉の版画では、線と点が記号のようにも文字のようにも見え、観る者のイメージネーションを刺激する世界が広がっています。杉本健吉は吉川英治文学の世界観を伝える挿絵を描き人気を博し、このたびは『新・水滸伝』の挿絵の原画を一部ではありましたが、収蔵後初めて展示しました。第Ⅲ期では、西洋の絵画技法を身につけたこの地域にゆかりのある作家（河野次郎、鈴木不和、野崎華年、山本鼎ら）の作品を通して、明治から大正にかけて展開した新しい美術を取り上げました。

常設企画展では、第Ⅰ期では、「北川民次とメキシコの教え子たち」を開催しました。北川民次はメキシコで児童画教育に携わり、現地の子どもたちを指導しました。ここでは、このたび美術館が収蔵した教え子たちの作品を、北川の作品とともに展示しました。第Ⅱ期では「名古屋市庁舎竣工85年 建築意匠と時代精神」と題し、市庁舎の設計競技の入選作や、その前後に各地で開催された設計競技の資料と写真から1930年代に現れた建設意匠の展開について紹介しました。第Ⅲ期は「坂田稔—『造型写真』の行方」を開催しました。戦前に前衛写真家として活躍した坂田稔のこれまで知られてこなかった、前衛美術終焉後活動について、海外宣伝報道要員としてジャワ島に派遣された際に撮影した写真を含む作品からたどり着きました。

# (1)名品コレクション展

Selected Works from the Collection of Nagoya City Art Museum

## 名品コレクション展 I

会期：2018年4月25日(水)～9月24日(月・休)

常設展示室 1・2

\*：受託作品

I：[前期] 2018年4月25日(水)～7月1日(日)

II：[後期] 2018年7月28日(土)～9月24日(月・休)

### 出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ (cm)	
1	ティナ・モドッティ	操り人形としてのルネ・ダルノンクール	1929	ゼラチンシルバークラフト・紙	23.7×18.7	I
2	ティナ・モドッティ	ブルケリアー犬、マリオネット、ステージセット	1929	ゼラチンシルバークラフト・紙	18.7×20.2	I
3	赤瀬川原平	零円札と両替された現金の瓶詰	1967	零円札、現金、瓶	高さ32.0	II
4	赤瀬川原平	押収品・模型千円札パネル作品	1963	模型千円札、写真、ボルト・パネル	82.0×79.0	II

### コレクション解析学

1	ティナ・モドッティ	操り人形としてのルネ・ダルノンクール	1929	ゼラチンシルバークラフト・紙	23.7×18.7	I
2	ティナ・モドッティ	ブルケリアー犬、マリオネット、ステージセット	1929	ゼラチンシルバークラフト・紙	18.7×20.2	I
3	赤瀬川原平	零円札と両替された現金の瓶詰	1967	零円札、現金、瓶	高さ32.0	II
4	赤瀬川原平	押収品・模型千円札パネル作品	1963	模型千円札、写真、ボルト・パネル	82.0×79.0	II

### エコール・ド・パリ：フランスで描く

1	岡 鹿之助	魚	1927	油彩・キャンヴァス	60.0×73.0	I・II
2	荻須高德	洗濯場(オーベルヴィリエ)	1958-59	油彩・キャンヴァス	116.3×89.2	I・II
3	荻須高德	ボールガール通り	1958-59	油彩・キャンヴァス	73.2×60.2	I・II
4	海老原喜之助	群鳥	1931	油彩・キャンヴァス	100.0×73.2	I・II
5	海老原喜之助	風景	1927	油彩・キャンヴァス	81.4×100.3	I・II
6	鬼頭鍋三郎	エル モニック	1954	油彩・キャンヴァス	90.9×72.2	I・II
7	鬼頭鍋三郎	セーヌ河畔	1955	油彩・キャンヴァス	60.0×72.2	I・II
8	佐分 真	風景	1927-28頃	油彩・キャンヴァス	60.9×73.2	I・II
9	三岸節子	雷がくる	1979	油彩・キャンヴァス	89.0×116.3	I・II
10	田中 保	ソリタ・ソラノの肖像	1923	油彩・キャンヴァス	103.0×73.5	I・II
11	藤田嗣治	自画像	1929	油彩、鉛筆、金箔・キャンヴァス	81.4×65.5	I・II
12	矢橋六郎	サンポール2(南仏)	1932	油彩・キャンヴァス	61.2×73.2	I・II
13	キスリング	マルセル・ジャンタルの肖像	1935	油彩・キャンヴァス	116.0×81.0	I・II
14	キスリング	新聞のある静物	1913	油彩・キャンヴァス	81.0×100.0	I・II
15	アメデオ・モディリアーニ	おさげ髪の少女	1918頃	油彩・キャンヴァス	60.1×45.4	I・II
16	ジュール・パスキン	クララとジュヌヴィエーヴ	1925	油彩・キャンヴァス	92.0×73.0	I・II
17	ハイム・スーチン	セレの風景	1922頃	油彩・キャンヴァス	79.8×87.2	I・II

### 現代の美術：収集熱一集めて、分類して、見せる

1	浅野弥衛	作品	1975	油彩・キャンヴァス	97.0×145.4	II
2	浅野弥衛	作品	1975	油彩・キャンヴァス	97.0×145.4	II
3	荒川修作	「何」を繰り返すこと。置き換えること。大地、いや、しかしそれは多くの瞬間的なもの。変わることなく不連続な世界へ立ち返ること。この過程が問題だ。	1987-88	鉛筆、アクリル、ミクストメディア・キャンヴァス 3キャンヴァス/8ボード	349.7×685.8/ 245.0×490.0	I・II
4	荒川修作	名前のない耐えているもの No.2	1958(1986)	セメント、綿、絵具	253.5×123.1×22.7	I・II
5	荒川修作	眠っている断片 No.1	1959(1986)	セメント、綿、木綿	228.0×97.7×20.4	I・II
* 6	今村哲	宇宙飛行士最後の夢	2001	ミクストメディア	サイズ可変	II
7	河口龍夫	関係一時のフロッターージュ	1996-97	和紙、蜜蝋、天然黄土、スチレンボード	46.3×36.3×4.2	I・II
8	河原 温	「I Got Up」シリーズ	1976	スタンプ、絵葉書	9.0×14.0	I
9	河原 温	APR. 5, 1987	1987	リキテックス・キャンヴァス	25.5×33.0	II
10	河原 温	APR. 6, 1987	1987	リキテックス・キャンヴァス	25.5×33.0	II
11	河原 温	APR. 7, 1987	1987	リキテックス・キャンヴァス	25.5×33.0	II
12	河原 温	APR. 8, 1987	1987	リキテックス・キャンヴァス	25.5×33.0	II
13	河原 温	APR. 9, 1987	1987	リキテックス・キャンヴァス	25.5×33.0	II
14	河原 温	APR. 10, 1987	1987	リキテックス・キャンヴァス	25.5×33.0	II
15	河原 温	APR. 11, 1987	1987	リキテックス・キャンヴァス	25.5×33.0	II

16	庄司達	白い布による空間 '68-6	1968	綿布・糸・塗装金属フレーム	216.0×202.0×202.0	I・II
17	藤本由紀夫	(seven memos) MEMO FOR M-U-S-I-C	1980	インク、紙	29.5×20.9	I
18	藤本由紀夫	(seven memos) MEMO FOR FROTTAGE	1981	インク、クレヨン・紙	25.8×18.1	I
19	藤本由紀夫	(seven memos) MEMO FOR TABLE MUSIC	1987	インク、鉛筆・紙	25.7×18.0	I
20	藤本由紀夫	(seven memos) MEMO FOR VOICE OF GALLERY	1988	インク、紙	25.7×18.1	I
21	藤本由紀夫	(seven memos) MEMO FOR EARS WITH CHAIR	1990	モノクロコピー、アクリル、紙	26.2×20.0	I
22	藤本由紀夫	(seven memos) MEMO FOR BROOM(TILE) II	1995	インク、紙(鉛筆)	29.0×20.0	I
23	藤本由紀夫	(seven memos) MEMO FOR ROOM(VENICE)	2001	インク、鉛筆・紙	18.1×25.8	I
24	村井正誠	私の履歴書	1979	油彩・キャンヴァス	145.5×576.7	I・II
* 25	加納光於、大岡信	アララットの船あるいは空の蜜 No.11	1971-1972	木、金属、ガラス他	68.0×44.2×22.8	I・II
* 26	中西夏之、武満徹、岡崎和郎、野中ユリ、瀧口修造、荒川修作、加納光於、赤瀬川原平、多田美波	漂流物 標本函	1974	ミクストメディア	33.0×33.0×5.7	I・II
27	ベルント／ヒラ・ベッヒャー	巻上げ機	1980	モノクロ写真	154.2×165.6	I
28	アンゼルク・キーファー	シベリアの女王	1988	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5	I・II
29	リサ・ミルロイ	皿	1992	油彩・キャンヴァス	188.0×243.8	I・II
30	フランク・ステラ	説教	1990	アルミニウム、ミクストメディア	345.5×365.8×139.7	I・II

## メキシコ・ルネサンス：ガイコツ(生ける屍)たちの饗宴ーポサダの芸術

1	北川民次	トラルバム霊園のお祭り	1930	油彩・キャンヴァス	99.5×89.8	I・II
2	マニエル・アルバレス・ブラボー	死後の肖像	1939	ブラチナパラジウムプリント・紙	28.0×35.0	I
3	マニエル・アルバレス・ブラボー	トウルムのマヤの子供	1942	ブラチナパラジウムプリント・紙	28.0×35.0	I
4	フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	1938	油彩・ブリキ	14.9×11.0	I・II
5	ティナ・モドッティ	ユダ[メキシカン・フォークウェイズ]1926年6月号掲載	1926	印刷・紙		I
6	ティナ・モドッティ	オランダの玩具[メキシカン・フォークウェイズ]1927年4月号掲載	1927	印刷・紙		II
7	ホセ・クレメンテ・オロスコ	メキシコ風景	1932	油彩・キャンヴァス	76.1×93.9	I・II
8	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]1-1 芸術の煉獄	1890-1913	金属版・紙	60.0×40.0(紙サイズ)	I
9	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画](144枚)5-1 山高帽子を被った骸骨	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	I
10	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画](144枚)6-1 山高帽子を被った骸骨	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	I
11	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画](144枚)7-1 愛情深い骸骨	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	I
12	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画](144枚)9-1 愛の巨大墓地	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	I
13	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画](144枚)10-1 骸骨掃除人	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	I
14	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画](144枚)11-1 骸骨の贈物	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	I
15	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画](144枚)12-1 骸骨新聞社	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	I
16	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画](144枚)13-1 骸骨フランスコ・マテロ	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	I
17	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画](144枚)14-1 骸骨エミリアーノ・サバタ	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	I
18	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画](144枚)17-1 骸骨の大舞踏会	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	I
19	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画](144枚)18-1 骸骨モレリアーナ	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	II
20	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画](144枚)20-1 骸骨の大統領選挙	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	II
21	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画](144枚)21-1 コレラに罹った骸骨	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	II
22	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画](144枚)22-1 偉大な骸骨!エミリアーノ・サバタ	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	II
23	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画](144枚)23-1 骸骨ココーテの給仕	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	II
24	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画](144枚)24-1 ここでは骸骨が紳士です	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	II
25	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画](144枚)25-1 骸骨のテノーリオ	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	II
26	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画](39枚)1 骸骨ドン・キホーテ	1890-1913(1960's)	金属版・紙	28.0×43.4(紙サイズ)	II
27	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画](39枚)2 骸骨の自転車乗り	1890-1913(1960's)	金属版・紙	28.0×43.4(紙サイズ)	II
28	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画](39枚)3 骸骨の山	1890-1913(1960's)	金属版・紙	28.0×43.4(紙サイズ)	II
29	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画](39枚)4 愛情深い骸骨	1890-1913(1960's)	金属版・紙	28.0×43.4(紙サイズ)	II
30	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[メキシカン・フォークウェイズ]1926年10-11月号掲載	1926	印刷、紙		I・II
31	ディエゴ・リベラ	ヘンリー・ノーウェップの肖像	1935	油彩・板	115.1×91.2	I・II
32	ディエゴ・リベラ	ホコの葬列	n. d.	油彩・キャンヴァス	59.7×69.0	I・II
33	ディエゴ・リベラ	プロレタリアの団結	1933	フレスコ・石膏(3層)、ワイヤラス(金網)、合板	161.9×201.3	I・II
34	ダビッド・アルファロ・シケイロス	カウテモックの像	1947	ピロキシリン・メジナイト	75.5×62.0	I・II
35	ダビッド・アルファロ・シケイロス	奴隷	1961	アクリル・板	86.4×64.8	I・II
36	ルフィーノ・タマヨ	黒人の仮面(カーニバル)	1939	テンペラ・リンネル	44.8×60.4	I・II
37	ルフィーノ・タマヨ	黙示録の四騎士:[死](《聖ヨハネの黙示録》より)	1959	Rives紙・カラー、リトグラフ	32.8~33.0×25.0~25.3	II
38	ルフィーノ・タマヨ	黙示録の四騎士:[戦争](《聖ヨハネの黙示録》より)	1959	Rives紙・カラー、リトグラフ	32.8~33.0×25.0~25.3	II
39	ルフィーノ・タマヨ	黙示録の四騎士:[飢饉](《聖ヨハネの黙示録》より)	1959	Rives紙・カラー、リトグラフ	32.8~33.0×25.0~25.3	II
40	ルフィーノ・タマヨ	黙示録の四騎士:[征服者](《聖ヨハネの黙示録》より)	1959	Rives紙・カラー、リトグラフ	32.8~33.0×25.0~25.3	II

郷土の美術：名古屋のパフォーマンス 追悼岩田信市と岸本清子

1	岩田信市	ゼロ次元1	1962頃	油彩、ペンキ・合板	183.5×184.5	I・II
2	岩田信市	ゼロ次元2	1962頃	油彩、ペンキ・合板	183.5×184.5	I・II
3	岩田信市	ゼロ次元3	1962頃	油彩、ペンキ・合板	183.5×184.5	I・II
4	岩田信市	赤と緑	1965頃	油彩、ペンキ・発泡スチロール、アクリル、合板	152.8×152.8	I・II
5	岩田信市	ランニングマン(青)	1965頃	発泡スチロール・合板(青)	高さ148.0	I・II
6	岩田信市	ランニングマン(青)	1965頃	発泡スチロール・合板(青)	高さ148.0	I・II
7	岩田信市	ランニングマン(ピンク)	1965頃	発泡スチロール・合板(ピンク)	高さ148.0	I・II
8	岩田信市	ファイティング・ビューティ(キック)	1981	アクリル・キャンヴァス	150.5×302.0	I・II
9	岸本清子	[Look Left!!の断片]	1967頃	アクリル・キャンヴァス	21.9×27.1	I・II
10	岸本清子	[Look Left!!のための習作]	1967頃	鉛筆、水彩・紙	37.6×53.6	I・II
11	岸本清子	[昨日のキリスト]	1970頃	アクリル・キャンヴァス	116.5×73.0	I・II
12	岸本清子	創世記の崩壊—そして、海	1980	アクリル(クレヨンなど)・キャンヴァス	139.0×1651.0	I・II
13	岸本清子	創世記の崩壊—そして、海の下絵	1/12 1980	パステル、色鉛筆・紙	34.5×49.5(紙寸)34.5×32.5(画寸)	I
14	岸本清子	創世記の崩壊—そして、海の下絵	2/12 1980	パステル、色鉛筆・紙	34.5×32.5(画寸)	I
15	岸本清子	創世記の崩壊—そして、海の下絵	3/12 1980	パステル、色鉛筆、ボールペン、水彩・紙	34.5×32.5(画寸)	I
16	岸本清子	創世記の崩壊—そして、海の下絵	4/12 1980	パステル、色鉛筆・紙	34.5×32.6(画寸)	I
17	岸本清子	創世記の崩壊—そして、海の下絵	5/12 1980	パステル、色鉛筆・紙	34.5×36.5(画寸)	I
18	岸本清子	創世記の崩壊—そして、海の下絵	6/12 1980	パステル、色鉛筆・紙	34.5×36.5(画寸)	I
19	岸本清子	創世記の崩壊—そして、海の下絵	7/12 1980	パステル、色鉛筆・紙	34.5×36.5(画寸)	II
20	岸本清子	創世記の崩壊—そして、海の下絵	8/12 1980	パステル、色鉛筆・紙	34.5×31.0(画寸)	II
21	岸本清子	創世記の崩壊—そして、海の下絵	9/12 1980	パステル、色鉛筆・紙	34.5×30.0(画寸)	II
22	岸本清子	創世記の崩壊—そして、海の下絵	10/12 1980	パステル、色鉛筆・紙	34.5×31.0(画寸)	II
23	岸本清子	創世記の崩壊—そして、海の下絵	11/12 1980	パステル、色鉛筆・紙	34.5×25.5(画寸)	II
24	岸本清子	創世記の崩壊—そして、海の下絵	12/12 1980	パステル、色鉛筆・紙	34.5×25.5(画寸)	II

# 名品コレクション展Ⅱ

会期：2018年10月6日(土)～11月25日(日)

常設展示室1・2

## 出品作品

\*：受託作品 ★：初出品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ (cm)
<b>コレクション解析学</b>					
屋外 1	マグダレーナ・アバカノヴィッチ	黒い立像	1988	ブロンズ	168.9×57.1×36.8
2	マグダレーナ・アバカノヴィッチ	顔一1 (「白い顔」より)	2004	墨・グアッシュ・紙	42.0×30.0
3	マグダレーナ・アバカノヴィッチ	顔一2 (「白い顔」より)	2004	墨・グアッシュ・紙	42.0×30.0
4	マグダレーナ・アバカノヴィッチ	顔一3 (「白い顔」より)	2004	墨・グアッシュ・紙	42.0×30.0
5	マグダレーナ・アバカノヴィッチ	顔一4 (「白い顔」より)	2004	墨・グアッシュ・紙	42.0×30.0
6	マグダレーナ・アバカノヴィッチ	顔一5 (「白い顔」より)	2004	墨・グアッシュ・紙	42.0×30.0
7	マグダレーナ・アバカノヴィッチ	顔一6 (「白い顔」より)	2004	墨・グアッシュ・紙	42.0×30.0

## エコール・ド・パリ:新収蔵作品藤田嗣治《ベルギーの婦人》とエコール・ド・パリの時代の女性像 美術と文字:シャガールの版画「聖書」より

★ 1	藤田嗣治	ベルギーの婦人	1934	水彩・パステル・紙	61.0×44.5
2	藤田嗣治	家族の肖像	1932	鉛筆・パステル・紙	86.5×67.2
* 3	藤田嗣治	那覇	1939	油彩・キャンバス	17.8×14.2
4	マリー・ローランサン	アポリネールの娘	c. 1924	油彩・キャンヴァス	73.1×54.0
5	ジュール・バスキン	クララとジュヌヴィエーヴ	1925	油彩・キャンヴァス	92.0×73.0
6	キスリング	ルネ・キスリング夫人の肖像	1920	油彩・キャンヴァス	73.7×54.6
7	アメデオ・モディリアーニ	立てる裸婦(カリアティードのための習作)	c. 1911-12	油彩、水彩・紙、板	83.0.×47.8
8	キース・ヴァン・ドンゲン	コルセットの女	1908	油彩・キャンヴァス	65.0×50.0
9	東郷青児	帽子をかむった男(歩く女)	1922	油彩・キャンヴァス	60.9×49.9
10	田中 保	ソリタ・ソラノの肖像	1923	油彩・キャンヴァス	103.0×73.5
11	マルク・シャガール	「聖書」より 26 川から助け出されたモーセ(出エジプト記)	1931-39/52-56(1957)	エッチング、ドライポイント・紙(モンヴァル紙)	ed. 205/275 46.0×35.0(紙寸)
12	マルク・シャガール	「聖書」より 27 燃えるしば(出エジプト記)	1931-39/52-56(1957)	エッチング、ドライポイント・紙(モンヴァル紙)	ed. 205/275 46.0×35.0(紙寸)
13	マルク・シャガール	「聖書」より 28 モーセとアロンの出会い(出エジプト記)	1931-39/52-56(1957)	エッチング、ドライポイント・紙(モンヴァル紙)	ed. 205/275 46.0×35.0(紙寸)
14	マルク・シャガール	「聖書」より 29 バロの前のモーセとアロン(出エジプト記)	1931-39/52-56(1957)	エッチング、ドライポイント・紙(モンヴァル紙)	ed. 205/275 46.0×35.0(紙寸)
15	マルク・シャガール	「聖書」より 30 モーセと蛇(出エジプト記)	1931-39/52-56(1957)	エッチング、ドライポイント・紙(モンヴァル紙)	ed. 205/275 46.0×35.0(紙寸)
16	マルク・シャガール	「聖書」より 31 エジプトをおおう闇(出エジプト記)	1931-39/52-56(1957)	エッチング、ドライポイント・紙(モンヴァル紙)	ed. 205/275 46.0×35.0(紙寸)
17	マルク・シャガール	「聖書」より 32 過越祭の食事(出エジプト記)	1931-39/52-56(1957)	エッチング、ドライポイント・紙(モンヴァル紙)	ed. 205/275 46.0×35.0(紙寸)
18	マルク・シャガール	「聖書」より 33 出エジプト(出エジプト記 XIII、18-22)	1931-39/52-56(1957)	エッチング、ドライポイント・紙(モンヴァル紙)	ed. 205/275 46.0×35.0(紙寸)
19	マルク・シャガール	「聖書」より 34 紅海の道(出エジプト記)	1931-39/52-56(1957)	エッチング、ドライポイント・紙(モンヴァル紙)	ed. 205/275 46.0×35.0(紙寸)
20	マルク・シャガール	「聖書」より 35 モーセの姉ミアムの踊り(出エジプト記)	1931-39/52-56(1957)	エッチング、ドライポイント・紙(モンヴァル紙)	ed. 205/275 46.0×35.0(紙寸)
21	マルク・シャガール	「聖書」より 37 神から石板を授かるモーセ(出エジプト記)	1931-39/52-56(1957)	エッチング、ドライポイント・紙(モンヴァル紙)	ed. 205/275 46.0×35.0(紙寸)
22	マルク・シャガール	「聖書」より 38 黄金の子牛(出エジプト記)	1931-39/52-56(1957)	エッチング、ドライポイント・紙(モンヴァル紙)	ed. 205/275 46.0×35.0(紙寸)

## 現代の美術:美術と文字:文字・記号・物語

1	ベン・シャーン	リディツェ	1942	テンペラ、板	129.5×99.1
2	中村 宏	絵図連鎖2	2002-06	アクリル・キャンバス 7点1組	162.0×455.0
3	デイヴィッド・ホックニー	6つのグリム童話 11湖	1969(1970)	エッチング、アクアチント・紙	44.2×31.8
4	デイヴィッド・ホックニー	6つのグリム童話 12庭に生えているラプンツェル	1969(1970)	エッチング、アクアチント・紙	44.0×32.7
5	デイヴィッド・ホックニー	6つのグリム童話 13庭にいる魔女	1969(1970)	エッチング、アクアチント・紙	23.2×13.0
6	デイヴィッド・ホックニー	6つのグリム童話 14魔女と幼児ラプンツェル	1969(1970)	エッチング、アクアチント・紙	27.0×23.1
7	デイヴィッド・ホックニー	6つのグリム童話 15成長したラプンツェル	1969(1970)	エッチング、アクアチント・紙	22.0×24.5
8	デイヴィッド・ホックニー	6つのグリム童話 16ひとつ窓のある塔	1969(1970)	エッチング、アクアチント・紙	33.5×15.0
9	デイヴィッド・ホックニー	6つのグリム童話 17ラプンツェル、ラプンツェル、おまへの髪をたらしおくれ	1969(1970)	エッチング、アクアチント・紙	25.8×24.3
10	荒川修作	無題	1964	油彩・キャンヴァス・コラージュ	162.1×130.3
11	荒川修作	自画像	1967	油彩・鉛筆・キャンヴァス	173.0×62.0
12	河原 温	FEB. 23, 1966	1966	アクリル・キャンヴァス	20.5×25.5
13	河原 温	JUNE 5, 1967	1967	アクリル・キャンヴァス	25.5×33.0
14	河原 温	20 ABR. 68	1968	アクリル・キャンヴァス	25.5×33.0
15	河原 温	17 ENE. 69	1969	アクリル・キャンヴァス	20.5×25.5
16	河原 温	31 AOUT 1970	1970	アクリル・キャンヴァス	25.5×33.0
17	河原 温	MAY 29, 1971	1971	アクリル・キャンヴァス	20.5×25.5
18	河原 温	OCT. 12, 1972	1972	アクリル・キャンヴァス	45.5×61.5
19	河原 温	3 MARS 1973	1973	アクリル・キャンヴァス	25.5×33.0
20	河原 温	SEPT. 18, 1974	1974	アクリル・キャンヴァス	25.5×33.0
21	河原 温	DEC. 4, 1975	1975	アクリル・キャンヴァス	45.5×61.5
22	河原 温	27. JULI 1976	1976	アクリル・キャンヴァス	25.5×33.0
23	河原 温	OCT. 26, 1977	1977	アクリル・キャンヴァス	20.5×25.5
24	河原 温	APR. 1, 1978	1978	アクリル・キャンヴァス	33.0×44.0
25	河原 温	NOV. 15, 1979	1979	アクリル・キャンヴァス	25.5×33.0
26	河原 温	JAN. 8, 1980	1880	アクリル・キャンヴァス	33.0×44.0
27	河口龍夫	DARK BOX 2008	2008	鉄	37.0×60.0×35.0
28	藤本由紀夫	THE SEPARATED	2005	プラスチック・木など	102×70×5
29	エドワード・アーリントン	サチュルヌス	1988	インク・乳剤・紙・キャンバス	183.0×244.0
30	ジェニー・ワトソン	この絵は画家が長距離ドライブに出掛けた後に描かれた/眠る少女	1992	アクリル・絹/アクリル・キャンヴァス 2点1組	50.0×104.0/41.0×30.0
31	エドワード・ルッシュェ	20世紀	1988	油彩・キャンバス	150.0×368.0
* 32	サイモン・バターソン	大熊座	1992	オフセット印刷・紙	109.0×136.0×5.0
33	アンゼラム・キーファー	シベリアの女王	1988	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5
34	フランク・ステラ	説教	1990	アルミニウム、ミクストメディア	345.5×365.8×139.7
35	野水信	コの記号	1965	鉄	147.0×42.0×25.0
36	野水信	コの記号	1966	鉄	160.0×100.0×100.0

## メキシコ・ルネサンス:美術と文字:リベラの壁画と革命

1	ディエゴ・リベラ	プロレタリアの団結	1933	フレスコ・石膏(3層)・ワイヤラス(金網)・合板	161.9×201.3
2	ディエゴ・リベラ	自画像	1930	リトグラフ・紙	44.9×32.8
3	ディエゴ・リベラ	野外学校	1932	リトグラフ・紙	38.9×53.8
4	ディエゴ・リベラ	エミリアーノ・サパタ	1932	リトグラフ・紙	57.5×40.3
5	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画:統一戦線	c. 1928	ゼラチンシルバープリント・紙	24.1×18.9
6	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画:抗議	1928	ゼラチンシルバープリント・紙	24.1×18.6
7	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画:ABCの学習	c. 1928	ゼラチンシルバープリント・紙	25.5×20.2
8	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画:ABCの学習/脱穀	1928	ゼラチンシルバープリント・紙	23.4×19.2
9	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画:雨(部分)	1928	ゼラチンシルバープリント・紙	25.3×20.2
10	ディエゴ・リベラ	タコスを持つ子供	1932	リトグラフ・紙	44.5×31.8
11	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画:大地の果実(部分)	1928	ゼラチンシルバープリント・紙	20.2×25.3
12	ディエゴ・リベラ	大地の果実	1932	リトグラフ・紙	55.3×39.9
13	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画:眠り—貧者の夜	c. 1928	ゼラチンシルバープリント・紙	25.3×20.3
14	ディエゴ・リベラ	夢	1932	リトグラフ・紙	42.5×30.5
15	ダビッド・アルファロ・シケイロス	カウテモックの肖像	1947	ピロキシリン・メジナイト	75.5×62.0
16	ダビッド・アルファロ・シケイロス	婦人像	1934	油彩・メジナイト	152.7×78.7
17	ディエゴ・リベラ	ホコの葬列	n. d.	油彩・キャンヴァス	59.7×69.0
18	ホセ・クレメンテ・オロスコ	白い神々	c. 1947	油彩・メジナイト	71.0×91.5
19	ルフィーノ・タマヨ	苦悶する人	1949	油彩・キャンヴァス	100.0×80.0
20	北川民次	メキシコ水浴の図	1930	油彩・キャンヴァス	78.6×68.5
21	ルーゴ・アマドール	戦いの後のメキシコの女	1939	ピロキシリン・キャンバス・板	98.0×80.7

## 郷土の美術：文字と美術：挿絵とイメージーション

1	浅野弥衛	作品	1975	油彩・キャンバス	91.1×91.1
2	浅野弥衛	作品	1975	油彩・キャンバス	72.8×72.5
3	浅野弥衛	浅野弥衛銅版画集 15 ハムラビ法典 No.1	1989	エッチング・紙	23.6×17.9
4	浅野弥衛	浅野弥衛銅版画集 19 ハムラビ法典 No.2	1989	エッチング・紙	23.8×17.8
5	浅野弥衛	浅野弥衛銅版画集 17 ハムラビ法典 No.3	1993	エッチング・紙	23.8×17.8
6	浅野弥衛	浅野弥衛銅版画集 33 黒い太陽(ハムラビ法典 No.4)	1993	エッチング(凸版)・紙	23.8×17.7
7	浅野弥衛	浅野弥衛銅版画集 24 ハムラビ法典 No.5	1993	エッチング・紙	23.7×17.9
8	浅野弥衛	浅野弥衛銅版画集 46 ハムラビ法典 No.6	1993	エッチング(凸版)・紙	23.9×17.9
9	浅野弥衛	浅野弥衛銅版画集 16 ハムラビ法典 No.7	1993	エッチング・紙	23.8×17.8
10	浅野弥衛	浅野弥衛銅版画集 22 ハムラビ法典 No.8	1989	エッチング・紙	23.6×17.9
11	浅野弥衛	浅野弥衛銅版画集 20 ハムラビ法典 No.9	1989	エッチング・紙	23.7×17.9
12	浅野弥衛	浅野弥衛銅版画集 25 ハムラビ法典 No.10	1993	エッチング・紙	23.7×17.9
13	浅野弥衛	浅野弥衛銅版画集 26 ハムラビ法典 No.11	1989	エッチング・紙	23.6×17.9
14	浅野弥衛	浅野弥衛銅版画集 23 ハムラビ法典 No.12	1993	エッチング・紙	23.8×17.8
15	浅野弥衛	浅野弥衛銅版画集 18 ハムラビ法典 No.13	1989	エッチング・紙	23.7×17.8
16	浅野弥衛	浅野弥衛銅版画集 21 ハムラビ法典 No.14	1994	エッチング・紙	23.9×17.9
17	浅野弥衛	浅野弥衛銅版画集 92 Work 30	1988	エッチング・紙	23.7×17.8
18	浅野弥衛	浅野弥衛銅版画集 120 Work 55	1993	エッチング(凸版)・紙	11.4×7.6
19	浅野弥衛	浅野弥衛銅版画集 128 タマゴのMetaphor 7	1993	エッチング(凸版)・紙	23.8×18.0
20	浅野弥衛	浅野弥衛銅版画集 129 タマゴのMetaphor 8	1993	エッチング(凸版)・紙	24.0×17.9
21	浅野弥衛	浅野弥衛銅版画集 130 タマゴのMetaphor 9	1993	エッチング(凸版)・紙	24.0×18.1
22	浅野弥衛	浅野弥衛銅版画集 154 タマゴのMetaphor 9	1993	エッチング(凸版)・紙	23.8×18.1
23	杉本健吉	名古屋城再建基金ポスター原画	1956	ポスターカラー・銀箔・雲母・板	74.1×51.4
24					
★	1	杉本健吉	新・水滸傳挿絵原画	c.1958	墨・紙
41					

# 名品コレクション展Ⅲ

会期：2018年12月8日(土)～2019年3月31日(日)

常設展示室1・2

\*：受託作品 ☆：初出品

I：[前期] 2018年12月8日(土)～2019年2月3日(日)

II：[後期] 2019年2月16日(土)～3月31日(日)

## 出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(cm)	
-----	-----	-----	-----	-------	---------	--

## コレクション解析学

☆ 1	海老原友忠	田端機関庫	1972	コンテ・紙	25.8×47.5	I・II
2	アメデオ・モディリアーニ	おさげ髪の少女	c.1918	油彩・キャンヴァス	60.1×45.4	I・II

●No.2はエコール・ド・パリのコーナーに展示。

## エコール・ド・パリ：エコール・ド・パリと大正の美術(大正期：1912-1926)

☆*	1	安藤邦衛	赤い帽子をかぶった女	1919	油彩・キャンヴァス	38.0×30.5	I・II
	2	鬼頭壘二郎	風景	1925	油彩・キャンヴァス	60.0×73.0	I・II
	3	佐分真	静物	1924	油彩・キャンヴァス	91.2×116.6	I・II
	4	田中保	ソリタ・ソラノの肖像	1923	油彩・キャンヴァス	103.0×73.5	I・II
	5	鶴田吾郎	落合村	1921	油彩・キャンヴァス	116.8×90.7	I・II
	6	東郷青児	帽子をかむった男(歩く女)	1922	油彩・キャンヴァス	60.9×49.9	I・II
	7	横井礼以	蜜柑を持つK坊	1922	油彩・キャンヴァス	51.3×51.6	I・II
	8	マルク・シャガール	二重肖像	1924	油彩・キャンヴァス	130.0×100.0	I・II
	9	キスリング	新聞のある静物	1913	油彩・キャンヴァス	81.0×100.0	I・II
	10	キスリング	ルネ・キスリング夫人の肖像	1920	油彩・キャンヴァス	73.7×54.6	I・II
	11	ジュール・バスキン	クララとジュヌヴィエーヴ	1925	油彩・キャンヴァス	92.0×73.0	I・II
	12	ディエゴ・リベラ	スペイン風景(トレド)	1913	油彩・キャンヴァス	89.0×110.0	I・II
	13	ハイム・スーチン	農家の娘	c.1919	油彩・キャンヴァス	80.0×45.0	I・II
	14	モーリス・ユトリロ	ラバン・アジュール	c.1913	油彩・キャンヴァス	50.0×65.0	I・II

## 現代の美術：平成の美術(平成期：1989-2019)

*	1	イケムラレイコ	赤の中に立って	1996	油彩・綿布	70.1×70.1	I・II
*	2	イケムラレイコ	紫の中に横たわる	1998	施釉テラコッタ	93.0×45.0×36.0	I・II
☆*	3	伊藤誠	船の肉	2003	FRP・鉄	202.0×200.0×30.0	I・II
	4	嶋谷自然	凧の日	1992	紙本着彩	223.0×169.0	I
	5	鷺見麿	13人の青紀 No.3	1990	油彩・キャンヴァス	162.1×130.3	I
	6	鷺見麿	13人の青紀 No.6	1990	油彩・キャンヴァス	162.1×130.3	I
	7	平松礼二	2011311-日本の祈り	2011	紙本着彩、金泥(屏風、六曲一隻)	180.0×420.0	II
	8	藤本由紀夫	RECORD	2001	ミクストメディア	30.0×30.0×10.0	II
	9	真島直子	密林にて	2009	鉛筆・紙	114.0×300.0	II
☆*	10	三輪美津子	話の中の話	1991-92	油彩・キャンヴァス	181.8×227.3・97.0×130.3(2点1組)	II
	11	村井正誠	歩く人	1992	油彩・キャンヴァス	228.0×182.0	I
	12	村上友晴	マリア礼拝堂	2009	油彩、鉄筆・キャンヴァス	91.0×72.5	I
	13	森村泰昌	兄弟(虐殺I)	1991	カラー写真、メディウム・パネル	240.0×309.0	I・II
	14	森村泰昌	兄弟(虐殺II)	1991	カラー写真、メディウム・パネル	240.0×309.0	I・II
	15	李禹煥	風とともに	1990	油彩・キャンヴァス	260.0×776.0	I・II
	16	アンゼルム・キーファー	シベリアの女王	1988	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5	I・II
	17	アグネス・マーチン	無題No.3	1992	アクリル・キャンヴァス	183.0×183.0	I・II
	18	リサ・ミルロイ	皿	1992	油彩・キャンヴァス	188.0×243.8	I・II
	19	フランク・ステラ	説教	1990	アルミニウム、ミクストメディア	345.5×365.8×139.7	I・II
	20	ジェニー・ワトソン	この絵は画家が長距離ドライブに出掛けた後に描かれた/眠る少女	1992	アクリル・絹、アクリル・キャンヴァス	50.0×104.0・41.0×30.0(2点1組)	I・II

## メキシコ・ルネサンス:メキシコ・ルネサンスと昭和の美術(昭和期:1926-1989)

1	岡本太郎	明日の神話	1968	油彩・キャンヴァス	132.7×728.9	I・II
2	北川民次	トラルパム霊園のお祭り	1930	油彩・キャンヴァス	99.5×89.8	I・II
3	北川民次	雑草の如くII	1948	油彩・キャンヴァス	162.0×130.9	I・II
4	フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	1938	油彩・ブリキ	14.9×11.0	I
5	ホセ・クレメンテ・オロスコ	メキシコ風景	1932	油彩・キャンヴァス	76.1×93.9	I・II
6	ディエゴ・リベラ	プロレタリアの団結	1933	フレスコ・石膏(3層)、ワイヤラス(金網)、合板	161.9×201.3	I・II
7	ダビッド・アルファロ・シケイロス	カウテモックの肖像	1947	ビロキシリン・メジナイト	75.5×62.0	I・II
8	ダビッド・アルファロ・シケイロス	母と子	1962	デュコ・メジナイト	80.2×61.2	I・II
9	ルフィーノ・タマヨ	苦悶する人	1949	油彩・キャンヴァス	100.0×80.0	I・II

## 郷土の美術:明治・大正の美術(明治期:1868-1912 大正期:1912-1926)

1	大沢鉦一郎	裸婦	1917	油彩・キャンヴァス	45.5×33.3	I
2	大沢鉦一郎	老人	1917	油彩・キャンヴァス	40.9×31.8	I
3	加藤静児	海岸風景	1913	油彩・キャンヴァス	61.0×100.0	I・II
4	加藤静児	婦人像	[1910's]	油彩・キャンヴァス	100.5×73.2	I・II
5	河野次郎	[名古屋時代の習作素描(西洋人物)]	1876	墨、水彩・紙	37.6×26.7	I
6	河野次郎	[名古屋時代の習作素描(ムクゲ)]	1877	墨、水彩・紙	25.0×17.5	I
7	河野次郎	[名古屋時代の習作素描(ザクロ)]	1877	鉛筆、水彩・紙	17.1×22.9	I
8	河野次郎	[名古屋時代の習作素描(ケン)]	1878	鉛筆、水彩・紙	36.2×29.4	II
9	河野次郎	[名古屋時代の習作素描(サフラン[正しくは、サフランモドキ])]	1878	鉛筆、水彩・紙	30.6×23.9	II
10	河野次郎	[名古屋時代の習作素描(ナシ)]	1878	水彩・紙	13.7×23.7	II
11	河野次郎	[服制原画]	1882	インク・紙	20点1組 各21.8×14.5	I
12	河野次郎	[無題(ザクロ・ブドウ・アンズ・ナシ・ミカン)]	n.d.	インク・紙	24.0×46.0	I
13	河野次郎	[無題(スモモ)]	n.d.	水彩・紙	19.1×25.9	I
14	河野次郎	三州豊橋芸妓種吉	n.d.	墨・紙	33.7×22.4	II
15	河野次郎	[無題]	n.d.	水彩・紙	33.0×24.0	II
16	河野次郎	[無題]	n.d.	水彩・紙	24.0×18.0	II
17	河野次郎	[無題]	n.d.	鉛筆、水彩・紙	17.1×23.0	II
18	河野次郎	[無題]	n.d.	鉛筆、水彩・紙	18.2×24.1	II
19	河野次郎	[無題]	n.d.	鉛筆・紙	18.2×28.9	II
20	河野次郎	[無題]	n.d.	鉛筆・紙	19.6×28.7	II
21	河野次郎	[無題]	n.d.	鉛筆、水彩・紙	25.5×38.0	II
22	河野次郎	[無題]	n.d.	水彩・紙	27.1×38.0	II
23	五姓田芳柳(二世)	大兵士	1899	油彩・キャンヴァス	164.0×123.0	I・II
24	鈴木不知	冬瓜	n.d.	油彩・キャンヴァス	45.5×61.0	I・II
25	野崎華年	老女	1903	油彩・キャンヴァス	45.6×33.3	I・II
☆26	野崎華年	姑蘇城外 虎丘塔之景	1913	絹本着彩、軸装	131.5×42.7	I
☆27	野崎華年	神田	c.1915	絹本着彩、軸装	115.5×41.5	II
28	野崎華年	木曾三留野	[1910's]	水彩・紙	50.5×64.5	I
29	野崎華年	洛北紅葉	[1910's]	水彩・紙	47.5×62.0	I
☆*30	野崎華年	富士山水	n.d.	絹本着彩、軸装	99.4×50.4	II
31	宮脇晴	母の像	1921	油彩・キャンヴァス	68.8×61.0	I
32	村山槐多	信州の農家	1915	木炭・紙	46.5×62.5	II
33	村山槐多	房州風景	1917	油彩・キャンヴァス	31.3×43.4	II
34	山本鼎	手	1897	鉛筆・紙	30.5×22.0	I
35	山本鼎	[つつじの花]	1902	墨・紙	31.0×25.0	II
36	山本鼎	[椅子の男]	1902	鉛筆・紙	18.0×13.0	I
37	山本鼎	[筋肉図]	1902	鉛筆・紙	18.0×13.0	II
38	山本鼎	[人間の形と寸法]	1902	鉛筆・紙	18.5×13.1	II
39	山本鼎	[裸婦]	1902	鉛筆・紙	17.5×13.0	I
40	山本鼎	[田舎家]	1907	水彩・紙	24.0×33.0	I
41	山本鼎	[セザンヌ模写II]	1912	鉛筆、水彩・紙	29.0×38.0	II
42	山本鼎	[男のヌード]	1912	鉛筆、水彩・紙	27.0×18.0	II
43	山本鼎	[踊り子]	1912	鉛筆・紙	27.7×18.2	I
44	吉田博	富嶽図	1920	絹本着彩、軸装	126.4×51.1	II

## (2)常設企画展 Thematic Exhibition

### 特集 北川民次とメキシコの教え子たち

KITAGAWA TAMIJI and His Students in Mexico

会期：2018年4月25日(木)～7月1日(日)

#### 会場

常設展示室3

#### 内容

1914(大正3)年、早稲田大学予科を中退した民次は渡米、西海岸からシカゴを経て、1916(大正5)年にニューヨークに到達した。ニューヨークでは、働きながら美術学校の夜学に通ったが、その生活ぶりは画家よりもむしろ「移民」のそれに近いものであった。5年の滞在の後、ニューヨークを「脱出」した彼は、キューバを経て、メキシコにたどり着く。1924(大正13)年、日本を発って9年にも及ぶ「放浪」の末に、民次はようやく絵画制作に集中する生活を送ることになった。同地の国立美術学校で3か月学んだ民次は、その後チュルプスコにあった旧僧院で美術学校からの絵の具や画材の支援を受け、制作三昧の生活を手に入れることができた。僧院での生活が1年に及んだ1925(大正14)年、メキシコ政府は、文部省直属として「民衆啓蒙」のために新たに3つの〈野外美術学校〉を設立、開校している。

北川民次は、そのうちの一つ、トラルパムの野外美術学校に助手として勤務した。開校に当たって、百人の希望者が集まり、民次は彼らのために絵の具を練り、キャンヴァスを張り、内戦と貧困に虐げられたメキシコの子供たちに対して、「生徒の心に自由への願望を沸き立たせること」を目指した。

フェリシアーノ・ペーニャ(Feliciano PEÑA:1915-1982)は、3か年の小学校教育を修了して、トラルパムに入学した。装飾的傾向を見せるその作風によって、トラルパムのなかで最も秀れた表現を見せ、後に、〈メキシコ版画協会〉を設立する等、メキシコ美術の中心的画家として活動することになった。

マヌエル・エチャウリ(Manuel ECHAURI:1914-2001)もトラルパムで学んだ。内向的な少年は、やがて独創的な表現の世界を開拓していった。

1932(昭和7)年秋、メキシコ政府は野外美術学校の撤廃を検討、トラルパムの学校をタスコに移し存続することを決定、その結果民次が校長となり、60人の子供たちを一人で受け持つことになった。7年に及ぶトラルパムでの実践を経て、民次はタスコの子供たちに、「想像画を描かせない」「実際のモチーフを与え、現場で写生させた」「彼等の生活から出発し、日々の記録を絵で表す」ことを伝えた。

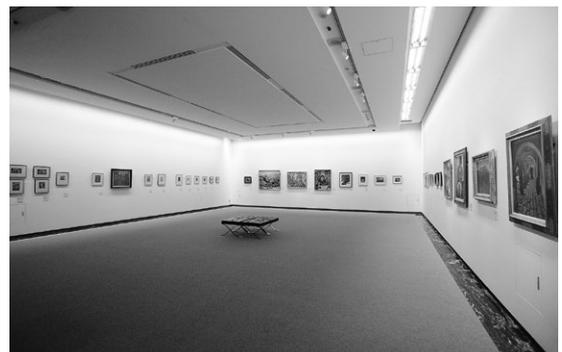
アマドール・ルーゴ(Amador LUGO:1921-2002)は、民次に出会うまで、「絵を描く」ということ自体を知らなかった。はじめて「色彩」を見て、塗って以来、絵を描くことに熱中し、その後画家となった。

タスコの野外美術学校に於いて、民次が逸早くその才能を見出

したことも、デルフィーノ・ガルシア(Delfino GARCIA:1917-没年不詳)であった。観察に裏付けられた表現は、民次が指導したメキシコの児童画の豊饒な成果を見せてくれる。

ルーゴとガルシアの二人は、タスコの野外美術学校の最後の、つまり民次のメキシコでの最後の生徒となった。

今回の展示では、斎藤譲氏からご寄贈いただいた作品によって北川民次とその教え子たちの表現を紹介した。



会場風景

出品作品

\* : 初出品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ (cm)
1	北川民次	チュルプスコのコンベント回廊	1925/1955	油彩・キャンヴァス	71.3×61.5
2	北川民次	メキシコ水浴の図	1930	油彩・キャンヴァス	78.6×68.5
3	北川民次	老人	1932	油彩・キャンヴァス	76.0×61.0
4	北川民次	タスコの山B	1934	油彩・板	45.5×60.6
5	北川民次	Exlibris Susan Smith	1929頃	木版・紙	9.2×6.4
6	北川民次	結婚通知状	1929頃	木版・紙	11.0×8.0
7	北川民次	字を書くメキシコの女	1935.1	リノカット・紙	13.0×8.5
8	北川民次	メキシコの女	1937頃	セルロイド凸版・紙	22.3×15.0
9	北川民次	牛	1937頃	木版・紙	8.0×11.0
10	北川民次	メキシコの浴み	1941頃	木版・紙	26.0×29.0
11	北川民次	タスコの裸婦	1941頃	木版・紙	24.0×43.0
12	北川民次	瀬戸の工場	1936	グワッシュ・紙	39.0×40.0
13	北川民次	瀬戸風景(中学生のいる風景)	1936	グワッシュ・紙	38.5×38.5
14	北川民次	索道	1936	グワッシュ・紙	39.8×40.6
15	北川民次	瀬戸風景(まちかど)	1936-37	グワッシュ・紙	38.8×38.5
16	北川民次	珪砂工場	1936-37	グワッシュ・紙	36.0×39.5
17	北川民次	酸素熔接工場	1937	グワッシュ・鉛筆・紙	38.9×38.5
18	北川民次	瀬戸風景	1937	グワッシュ・紙	39.5×38.5
19	北川民次	『版画集 瀬戸十景』より (表紙) 工場の一角	1937	リノカット・紙	11.3×11.3
20	北川民次	『版画集 瀬戸十景』より (1) 窯小屋	1937	リノカット・紙	13.5×19.5
21	北川民次	『版画集 瀬戸十景』より (2) 土掘り場	1937	リノカット・紙	12.7×9.0
22	北川民次	『版画集 瀬戸十景』より (3) 煙突のある風景	1937	リノカット・紙	19.7×13.2
23	北川民次	『版画集 瀬戸十景』より (4) 夜の工場	1937	リノカット・紙	12.5×19.4
24	北川民次	『版画集 瀬戸十景』より (5) 工場の中	1937	リノカット・紙	19.7×13.0
25	北川民次	『版画集 瀬戸十景』より (6) ろくろを廻す男	1937	リノカット・紙	19.6×12.3
26	北川民次	『版画集 瀬戸十景』より (7) 山の中の窯場	1937	リノカット・紙	11.9×16.0
27	北川民次	『版画集 瀬戸十景』より (8) 窯焼き	1937	リノカット・紙	13.3×19.5
28	北川民次	『版画集 瀬戸十景』より (9) 窯入れ	1937	リノカット・紙	19.4×12.2
29	北川民次	『版画集 瀬戸十景』より (10) 瀬戸市街	1937	リノカット・紙	19.4×12.3
30	アマドール・ルーゴ	戦いの後のメキシコの女	1939	ピロキシリン・キャンバス、板	98.0×80.7
31	アマドール・ルーゴ	龍舌蘭とサボテンと樹	1939	テンペラ・キャンヴァス	80.3×100.3
32	アマドール・ルーゴ	鉾山の跡	1960	油彩・板	100.9×121.8
* 33	アマドール・ルーゴ	ウイステコ山と帽子山、タスコ	1978	油彩・板	21.8×27.5
* 34	アマドール・ルーゴ	タスコの路地	1936	グワッシュ・紙	70.2×50.8
* 35	アマドール・ルーゴ	オトミ族の若い女	1934	グワッシュ・紙	28.9×22.6
* 36	アマドール・ルーゴ	木々の中の家、タスコ	1936	グワッシュ・紙	70.2×50.8
* 37	アマドール・ルーゴ	タスコ風景	c. 1934-36	リノカット・紙	16.0×20.1
* 38	デルフィーノ・ガルシア	タスコの口バ	1935	油彩・キャンヴァス	51.3×60.9
* 39	デルフィーノ・ガルシア	機械	1933	リノカット・紙	20.9×16.6
* 40	フェリシアーノ・ペーニャ	ギターを弾く老人	1934	木版・紙	10.9×9.0
* 41	フェリシアーノ・ペーニャ	牛と少年	c. 1934-36	木版・紙	9.9×8.7
* 42	フェリシアーノ・ペーニャ	婦人の顔	1934	木版・紙	10.8×9.8
* 43	フェリシアーノ・ペーニャ	大きな木と婦人	1934	木版・紙	11.2×9.2
* 44	フェリシアーノ・ペーニャ	森の中の二人	1935	木版・紙	16.9×12.9
* 45	フェリシアーノ・ペーニャ	木馬	1934	リノカット・紙	12.5×9.9
* 46	マヌエル・エチャウリ	樹の下で	n.d. (1930s)	エッチング・紙、手彩色	20.4×16.2
* 47	マヌエル・エチャウリ	少女	n.d. (1930s)	銅版・紙	16.9×11.9

# 特集 名古屋市庁舎竣工85年 建築意匠と時代精神

The 85th Anniversary of Nagoya City Hall  
-A Story on the Style of Architecture in 1930's.

会期：2018年10月6日(土)～11月25日(日)

## 会場

常設展示室3

## 内容

名古屋市役所本庁舎は、2014(平成26)年12月、隣接する愛知県庁本庁舎とともに、重要文化財(建築物)に指定された。大津通に面し、中央に塔を配し、あるいは重厚な瓦屋根を載せて並ぶ両庁舎の壮観は、名古屋のランド・マークとして長く、市民に愛されてきた。

1933(昭和8)年9月に竣工した名古屋市役所本庁舎は、それを遡ること3年、1930(昭和5)年に行われた〈名古屋市庁舎建築意匠設計競技〉によって審査、採用されている。同審査は、建築設計競技に一般の注目が集まり始めた時期に当たり、その結果は、その後の建築意匠に影響を与える“起点”となるものであった。

現在の名古屋市庁舎にも確認できるように、ファサード(正面)の中央に「中華風」の塔を配した平野金吾の建築意匠が一等賞を獲得した。中央に塔を配する設計は、2年前1928(昭和3)年10月に竣工した〈神奈川県庁本庁舎〉の意匠にも現れている。神奈川と名古屋の庁舎外観について、それぞれ一等を獲得した意匠には、五重塔と金鯱城(名古屋城)をモチーフとした「日本趣味を基調とし

た近世式」とされ、その後に続く官庁建築では、「日本趣味」をどのように意匠・表象するかが大きなテーマとなっていった。名古屋に続き、同年7月から翌1931(昭和6)年4月にかけて、〈大禮記念京都美術館(現.京都市美術館)〉、〈軍人会館(現.九段会館;東京都千代田区)〉、〈東京帝室博物館(現.東京国立博物館本館)〉の設計競技が相次いで開催され、審査の結果、城郭風の葺屋根を載せた新たな「日本趣味」が採用されることになった。その様式は1938(昭和13)年に竣工した〈愛知県本庁舎〉、さらには〈徳川美術館〉[1935(昭和10)年竣工]の建築意匠にも引き継がれていく。

塔と城郭、いずれも「日本趣味を基調とする」これら2つの様式は、かつて「帝冠様式」と呼ばれた。

展覧会では、「帝冠様式」と呼ばれた2つの建築様式の変遷について、〈神奈川県庁舎〉、〈名古屋市庁舎〉、〈東京市庁舎〉、〈大禮記念京都美術館〉、〈軍人会館〉、〈東京帝室博物館〉の、6つの「建築設計競技」の建築設計図集により、その類似と差異を探った。

## 名古屋市役所本庁舎

『名古屋市役所庁舎建築意匠設計競技』 『名古屋市庁舎設計図集』(54図) 1930(昭和5)年 東京・洪洋社発行

1	金賞	平林金吾(東京)	透視図/正面立図/側面及背面図/詳細図/断面図/配置・一階・二階・三階平面図/四階・五階・地階・屋階平面図	7面	18.8×25.6cm
2	銀賞	荒木榮一(東京)	透視図/立面図/詳細図	3面	18.8×25.6cm
3	銀賞	杉原啓一郎(東京)	透視図/立面図	2面	18.8×25.6cm
4	銅賞	村野嘉壽夫(千葉)	透視図及詳細図/立面図	2面	18.8×25.6cm
5	銅賞	山田昭(大阪)	透視図及詳細図/立面図	2面	18.8×25.6cm
6	銅賞	竹橋敏太郎(東京)	透視図及詳細図/立面図	2面	18.8×25.6cm
7	銅賞	池田正巳/田丸潤身(東京)	透視図及詳細図/立面図	2面	18.8×25.6cm
8	銅賞	杉原修蔵/大塚軍二(東京)	透視図及詳細図/立面図	2面	18.8×25.6cm
9	選外	64名	透視図	32面	18.8×25.6cm

## 神奈川県庁本庁舎

『神奈川県庁舎建築設計図案懸賞』 『神奈川県庁舎競技設計図集』(64図) 1926(大正15)年 東京・洪洋社発行

1	一等	小尾嘉郎(東京)	透視図/平面図(地階・一階)・(二階・三階)・(四階・五階)・正面立図/背面立図/側面立図/主要部詳細図/断面図/配置図	10面	19.0×25.9cm
2	二等一席	相賀兼介(大連)	透視図/平面図(地階・一階)・(二階・三階)・(四階・五階)・正面立図/背面立図/側面立図(右・左)/主要部詳細図/断面図	9面	19.0×25.9cm
3	二等二席	中村哲(東京)	透視図/平面図(一階・二階)・(三・四・五・屋上階)・正面・背面立図/側面立図/断面図/主要部詳細図	6面	19.0×25.9cm
4	三等一席	土浦亀城(東京)	透視図/正面・側面立図/背面・側面・断面図/主要部詳細図	4面	19.0×25.9cm
5	三等二席	泰井武(東京)	透視図/正面・側面立図/背面立図/断面図/主要部詳細図	4面	19.0×25.9cm
6	三等三席	大野功二(東京)	透視図/正面・側面立図/背面立図/断面図/主要部詳細図	4面	19.0×25.9cm
7	佳作一席	(合作)今村亮・桂川弘(大阪)	透視図/正面立図/背面・側面・断面図/主要部詳細図	4面	19.0×25.9cm
8	佳作二席	大原芳知(大阪)	透視図/正面・背面・側面立図/主要部詳細図/断面図	4面	19.0×25.9cm
9	佳作三席	永井孝直(東京)	透視図/正面・背面立図/側面立図/断面図/主要部詳細図	4面	19.0×25.9cm
10	選外	30名	透視図	15面	19.0×25.9cm

## 東京市役所本庁舎

『東京市庁舎建築設計懸賞競技』 『東京市庁舎建築設計懸賞競技入賞図集』(50図) 1934(昭和9)年 東京・新建築社発行

1	一等当選	宮地二郎(東京)	透視図/配置図・地階平面図/一階平面図/三階平面図・四階平面図/正面図・背面図・屋階平面図/側面図/横断面図/縦断面図	6面	19.1×26.4cm
2	二等当選	吉川清作(東京)	透視図/一階平面図/第一立面図正面・第一立面図背面・中階平面図六階/側面図・第一断面図講場・第二断面図塔屋	4面	19.1×26.4cm
3	三等当選	前川國男(東京)	透視図・配置図・西南面立面図・東北面立面図/中地階平面図・地階平面図/二階平面図・一階平面図/四階平面図・三階平面図/六階平面図・五階平面図/西北面立面図・東南面立面図・断面図1-1・断面図2-2	6面	19.1×26.4cm
4	三等当選	今井猛雄(東京)	透視図・配置図・正面図/一階平面図・地階平面図/三階平面図・二階平面図/五階平面図・四階平面図/六階平面図・屋上平面図・背面図/西側立面図・東側立面図・縦断面図・横断面図	6面	19.1×26.4cm
5	選外佳作一席	関根要太郎	透視図・配置図・一階平面図/二階平面図・地階平面図/四階平面図・三階平面図/正面図・側面図・断面図	4面	19.1×26.4cm
6	選外佳作一席	大澤浩	透視図・配置図・一階平面図/二階平面図・地階平面図/四階平面図・三階平面図/正面図・左側立面図・横断面図・縦断面図	4面	19.1×26.4cm
7	選外佳作二席	曾根辰雄	透視図・配置図・一階平面図/正面図・基範階平面図・三階平面図・中三階平面図	2面	19.1×26.4cm
8	選外佳作二席	矢部金太郎	透視図・配置図・一階平面図/正面図・断面図・三階平面図	2面	19.1×26.4cm
9	選外佳作二席	千葉一胤	透視図・配置図・一階平面図/正面姿図・縦断面図・三階平面図	2面	19.1×26.4cm
10	選外佳作二席	加藤泰造	透視図・配置図・一階平面図/正面図・縦断面図・三階平面図	2面	19.1×26.4cm
11	選外佳作二席	阪東義三	透視図・配置図・一階平面図/正面図・断面図・三階平面図	2面	19.1×26.4cm

## 大禮記念京都美術館

『大禮記念京都美術館懸賞設計競技』 『大禮記念京都美術館懸賞当選設計図案集』(50図) 1934(昭和9)年 京都・建築研究会発行

1	一等	前田健次郎(東京)	透視図/一階平面図/二階平面図/正面図/背面図/断面図/詳細図	7面	18.9×26.0cm
2	二等一席	雪野元吉(横浜)	透視図/一階平面図/二階平面図/正面図/側面図/断面図/詳細図	7面	18.9×26.0cm
3	二等二席	黒川仁三・大久保春忠(東京)	透視図/一階平面図/正面図/側面図/断面図/詳細図	5面	18.9×26.0cm
4	三等一席	木村平五郎(東京)	透視図/一階平面図/正面図・側面図/断面図/詳細図	5面	18.9×26.0cm
5	三等二席	小川治男(東京)	透視図/一階平面図/二階平面図/正面図/側面図/断面図/詳細図	7面	18.9×26.0cm
6	佳作	桜井博・長坂昇(東京)	透視図/正面図/詳細図	3面	18.9×26.0cm
7	佳作	森口三郎(東京)	透視図/正面図/詳細図	3面	18.9×26.0cm
8	佳作	相澤珠壺(東京)	透視図/正面図/詳細図	3面	18.9×26.0cm
9	佳作	畠山喜三郎(台湾)	透視図/正面図/詳細図	3面	18.9×26.0cm
10	佳作	長砂松三郎(東京)	透視図/正面図/詳細図	3面	18.9×26.0cm

## 軍人会館

『軍人会館競技設計』 『軍人会館競技設計図集』(30図) 1931(昭和6)年 東京・洪洋社発行

1	一等	小野武雄(東京)	透視図/東面立面/西・北・南面立面図/詳細図/断面図/一階平面図・地階平面図/二階平面図・三階平面図/配置図	8面	19.1×26.4cm
2	二等一席	吉川京蔵・黒川仁三(東京)	透視図/立面図/詳細図/断面図	4面	19.1×26.4cm
3	二等二席	木村平五郎(東京)	透視図/立面図/詳細図/断面図	未陳	19.1×26.4cm
4	三等一席	大手市太郎・島崎豊壽(東京)	透視図/詳細図/立面図	3面	19.1×26.4cm
5	三等二席	小林武夫・堀武雄(東京)	透視図/詳細図/立面図	3面	19.1×26.4cm
6	三等三席	前田健次郎(東京)	透視図/詳細図/立面図	3面	19.1×26.4cm
7	佳作	渡邊仁(東京)	透視図/詳細図/立面図	3面	19.1×26.4cm
8	佳作	黒川仁三・大久保春忠(東京)	透視図/詳細図/立面図	3面	19.1×26.4cm
9	佳作	小尾嘉郎(東京)	透視図/詳細図/立面図	3面	19.1×26.4cm
10	佳作	堀越三郎(東京)	透視図/詳細図/立面図	3面	19.1×26.4cm

## 東京帝室博物館

『東京帝室博物館建築設計図案懸賞』 『東京帝室博物館建築懸賞設計図集』(54図) 1931(昭和6)年 東京・帝室博物館復興翼賛会発行

1	一等	渡邊仁(東京)	透視図/地階平面図/一階平面図/中二階平面図/二階平面図/屋根平面図及配置図/正面図及背面図/左側面図及右側面図/縦断面図及横断面図/一部詳細図	10面	19.1×26.4cm
2	二等	海野浩太郎(東京)	透視図/地階及一階平面図/中二階及二階平面図/正面図・左側面図及背面図/横断面図・縦断面図及配置図/一部詳細図	6面	19.1×26.4cm
3	三等	塚田達(京都)	透視図/地階及一階平面図/中二階及二階平面図/正面図・左側面図及背面図/横断面図・縦断面図及配置図/一部詳細図	6面	19.1×26.4cm
4	四等	前田健次郎(東京)	透視図/地階及一階平面図/中二階及二階平面図/正面図・左側面図及背面図/横断面図・縦断面図及配置図/一部詳細図	6面	19.1×26.4cm
5	五等	荒木榮一(東京)	透視図/地階及一階平面図/中二階及二階平面図/正面図・左側面図及背面図/横断面図・縦断面図及配置図/一部詳細図	6面	19.1×26.4cm
6	選外佳作	橋本舜介(奈良)	透視図・正面図及背面図/各階平面図/側面図・横断面図及縦断面図及配置図/一部詳細図及配置図	4面	19.1×26.4cm
7	選外佳作	大島一雄(東京)	透視図・正面図及背面図/各階平面図/側面図・横断面図及縦断面図及配置図/一部詳細図及配置図	4面	19.1×26.4cm
8	選外佳作	大原芳知(大阪)	透視図・正面図及背面図/各階平面図/側面図・横断面図及縦断面図及配置図/一部詳細図及配置図	4面	19.1×26.4cm
9	選外佳作	中野順次郎(大阪)	透視図・正面図及背面図/各階平面図/側面図・横断面図及縦断面図及配置図/一部詳細図及配置図	4面	19.1×26.4cm
10	選外佳作	木村平五郎(東京)	透視図・正面図及背面図/各階平面図/側面図・横断面図及縦断面図及配置図/一部詳細図及配置図	4面	19.1×26.4cm

## 建築模型

名古屋市庁舎建築模型 1985 1/200

木、石膏

100×79.5×30.0cm

## 特集 坂田稔 — 『造型写真』の行方

SAKATA MINORU :  
Toward "Post" Photo Avant - Garde

会期：2018年12月8日(土)～2019年2月3日(日)

### 会場

常設展示室3

### 内容

愛知県碧海郡富士松村(現. 刈谷市)に生まれた坂田 稔(1902-74)は、1920年代後半、大阪の〈浪華写真俱樂部〉に所属し、「新興写真」の影響を受けた同俱樂部の中堅として活動していた。1934(昭和9)年に名古屋に移住し、昭和区曙町でカメラ・写真材料店を経営する傍ら、画家の下郷羊雄(1907-81)や詩人でもある山本惲右(1914-87)、田島二男(1903-2002)、そして海外のシュルレアリスム(超現実主義)の動向を紹介していた山中散生(1905-77)らと交友、彼等とともに新たな写真表現を目指すことになる。

1937(昭和12)年からは写真雑誌で独自の写真論を展開し始め、全国でも屈指の「前衛写真」の論客と目されるようになった。坂田が主導した表現とは、1920年代後半に将来されたドイツの新即物主義(ノイエザハリヒカイト)の影響を受け、対象をクローズ・アップで捉えたものであった。

1939(昭和14)年2月には、明確な表現指向をもつ作家集団として〈ナゴヤ・フォト・アヴァンガード〉を結成、海外から輸入された美術思潮であるシュルレアリスムと抽象美術を範としながら、「超現実主義写真(シュルレアリスム・フォト)」と「抽象的造影(フォト・アブストラクト)」という独自の表現を模索・推進する彼等の表現は、全国的にも注目されるようになった。

だがしかし、1930年代末、全体主義的な思潮が高揚し、また大陸での戦況を伝える「報道写真」が台頭するなかで、「前衛写真」はその存在意義を問われ、個人の純粋な芸術的指向は、時代の社会的要請に収斂され、坂田の写真に対する論調と表現指向は次第に先鋭化を極めていき、やがてメンバーとの間に微妙なずれが生じていった。

1939(昭和14)年11月、〈ナゴヤ・フォト・アヴァンガード〉を解散すると坂田は、写真による社会的貢献と文化的協力を目指し、民俗学へと接近、民家や民藝に取材し、そこに抽象的な美を見出した。そして、1941(昭和16)年1月、独自の写真論を実例によって解説した著書『造型写真』を出版した。そして、これまでこの著書こそが坂田稔の写真表現の集大成であると見なされてきた。

自身の表現と理論の集大成である『造型写真』の出版からわずか2か月後の同年3月、坂田は写真雑誌に「報道写真へ転出のため」を発表、その一文は個人的表現から社会的貢献へと、まさに彼自身の「転向」を表明したものであった。すると、同年11月、坂田は海外宣伝報道要員として徴用を受け、翌1942(昭和17)年3月にはジャワに派遣される。同地に於いて坂田は、情報収集活動に従事し、また飛行部隊に所属して航空写真撮影や微粒子現像等の応用研究等に当たることになる。1944(昭和19)年3月に帰国、戦後は光化学関係の特許を取得し、名古屋に於いて各社の技術顧問を務

めたが、自らの作品を発表することはなかった。

今回の展示では、プリント作品37点とともに、寄託されているガラス乾板およびフィルム・ネガから、インクジェットによるプリント55点を起こし、紹介した。「造型写真」の実験や民俗への取材、1941-43年に赴任したジャワの光景、さらには、戦後1950年代に行われた高圧放電の撮影等、これまで全く知られることがなかった表現をとおり、写真家坂田稔の全貌に迫る。



会場風景

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ (cm)
* 1	坂田稔	ノイエザハリヒカイト/新即物主義/新興写真	n.d. (1934-38)	ゼラチンシルバープリント・紙	42.9×52.7
* 2	坂田稔	抱合曲線	n.d. (1934-38)	ゼラチンシルバープリント・紙	37.8×30.2
* 3	坂田稔	嫉妬	1937	ゼラチンシルバープリント・紙	32.7×29.7
* 4	坂田稔	渚の夢	n.d. (1934-38)	ゼラチンシルバープリント・紙	39.7×47.8
* 5	坂田稔	危機	1938	ゼラチンシルバープリント・紙	55.9×46.2
* 6	坂田稔	Composition (その1) フィルムによる	n.d. (1934-38)	ゼラチンシルバープリント・紙	43.8×55.2
* 7	坂田稔	題不詳 (反射光と影による構成)	n.d. (1934-38)	ゼラチンシルバープリント・紙	54.1×43.9
* 8	坂田稔	題不詳 (ポートレートと抽象による構成)	n.d. (1934-38)	ゼラチンシルバープリント・紙	55.2×45.2
* 9	坂田稔	題不詳 (非常階段と毛糸による構成)	n.d. (1934-38)	ゼラチンシルバープリント・紙	40.5×27.4
* 10	坂田稔	題不詳 (礫岩による構成)	n.d. (1934-38)	ゼラチンシルバープリント・紙	55.8×45.1
* 11	坂田稔	解放への欲求	n.d. (1934-38)	ゼラチンシルバープリント・紙	42.4×55.5
* 12	坂田稔	地殻創世	n.d. (1934-38)	ゼラチンシルバープリント・紙	45.4×55.8
* 13	坂田稔	題不詳 (岩肌にドローイング)	n.d. (1938-40)	ゼラチンシルバープリント・紙	43.4×27.9
* 14	坂田稔	題不詳 (割れたガラス乾板にドローイングによる構成)	n.d. (1938-40)	ゼラチンシルバープリント・紙	56.3×46.2
* 15	坂田稔	眼球が流れる	n.d. (1938-40)	ゼラチンシルバープリント・紙	43.5×54.7
* 16	坂田稔	球体について	1939	ゼラチンシルバープリント・紙	45.9×56.3
* 17	坂田稔	題不詳 (「球体について」のバリエーション)	c. 1939	ゼラチンシルバープリント・紙	45.7×56.0
* 18	坂田稔	題不詳 (板材による構成)	n.d. (1938-40)	ゼラチンシルバープリント・紙	56.1×46.5
* 19	坂田稔	題不詳 (筍の断面による構成)	n.d. (1938-40)	ゼラチンシルバープリント・紙	56.3×38.5
* 20	坂田稔	題不詳 (筍の断面による構成)	n.d. (1938-40)	ゼラチンシルバープリント・紙	46.6×56.7
* 21	坂田稔	題不詳 (水滴による構成)	n.d. (1938-40)	ゼラチンシルバープリント・紙	42.1×50.5
* 22	坂田稔	無題	1940	ゼラチンシルバープリント・紙	56.6×46.9
* 23	坂田稔	題不詳 (球体による構成)	c. 1940	ゼラチンシルバープリント・紙	46.0×33.6
* 24	坂田稔	題不詳 (球体による構成)	c. 1940	ゼラチンシルバープリント・紙	45.9×33.4
* 25	坂田稔	題不詳 (球体による構成)	c. 1940	ゼラチンシルバープリント・紙	46.2×32.4
* 26	坂田稔	題不詳 (球体による構成)	c. 1940	ゼラチンシルバープリント・紙	56.3×45.9
* 27	坂田稔	題不詳 (球体による構成)	c. 1940	ゼラチンシルバープリント・紙	56.6×46.9
* 28	坂田稔	題不詳 (球体による構成)	c. 1940	ゼラチンシルバープリント・紙	56.6×46.7
* 29	坂田稔	題不詳 (立方体による構成)	c. 1940	ゼラチンシルバープリント・紙	46.1×33.4
* 30	坂田稔	題不詳 (立方体による構成)	c. 1940	ゼラチンシルバープリント・紙	46.0×33.5
* 31	坂田稔	題不詳 (民家民藝:伊良湖の農民家屋)	c. 1941	ゼラチンシルバープリント・紙	43.4×53.1
* 32	坂田稔	題不詳 (民家民藝:木曾福島の農家の土蔵)	c. 1941	ゼラチンシルバープリント・紙	42.3×34.0
* 33	坂田稔	題不詳 (民家民藝:元寇の役のときに船首に飾られたもの)	c. 1941	ゼラチンシルバープリント・紙	56.0×46.1
* 34	坂田稔	題不詳 (民家民藝:飛騨地方の農民家屋)	c. 1941	ゼラチンシルバープリント・紙	45.7×55.7
* 35	坂田稔	題不詳 (民家民藝:農家の軒先)	c. 1941	ゼラチンシルバープリント・紙	45.7×55.7
* 36	坂田稔	題不詳 (民家民藝:陶器屋の店先)	c. 1941	ゼラチンシルバープリント・紙	45.7×55.7
* 37	坂田稔	題不詳 (民家民藝:釜蓋)	c. 1941	ゼラチンシルバープリント・紙	45.2×55.1
* 38	坂田稔	題不詳 (門入村) 4点	c. 1941/2018	オリジナル・ネガからのインクジェット・プリント	各12.0×16.5
* 39	坂田稔	題不詳 (造型写真) 18点	c. 1934-40/2018	オリジナル・ネガからのインクジェット・プリント	各12.0×16.5
* 40	坂田稔	題不詳 (ジャワ) 24点	c. 1942-44/2018	オリジナル・ネガからのインクジェット・プリント	各12.0×16.5
* 41	坂田稔	題不詳 (航空部隊) 4点	c. 1942-44/2018	オリジナル・ネガからのインクジェット・プリント	各12.0×16.5
* 42	坂田稔	題不詳 (日本碍子に於ける放電実験) 5点	n.d. (1950年代半ば)/2018	オリジナル・ネガからのインクジェット・プリント	各12.0×16.5

平成30年度は、開館30周年を記念する節目の年にあたり、それにふさわしいヴァラエティーに富んだ5本の特別展を開催しました。

先ず4月から7月初めにかけては「モネ それからの100年」を開催しました。当館でモネを主役に据えた展覧会は実に4回目となりますが、全て切り口が異なっており、この画家の芸術がいかに幅広く奥行が深いかということをお教えしてくれます。今回はモネと現代美術を対比し、この画家が19世紀を代表する印象派の巨匠として存在しただけでなく、没後も21世紀の現在に至るまで様々な芸術家たちに刺激を与え続けた点に着目し、展覧会を構成しました。睡蓮をはじめとするモネの代表作と、欧米そして日本の現代美術の作品が一堂に会した展示室は、実に刺激的な空間となり、モネ芸術の新たな側面を浮かび上がらせることができました。

夏休みを含む7月から9月にかけては、スイスのビュールレ・コレクションを紹介する展覧会を開催しました。世界に数多ある美術の個人コレクションの中でも、ビュールレ・コレクションはその質の高さで群を抜いています。印象派とポスト印象派を核とする作品の数々は、いずれも各作家の代表作ばかりですが、中でもルノワールの《イレーヌ・カーン・ダンヴェール嬢（可愛いイレーヌ）》とセザンヌの《赤いチョッキの少年》は来館者の注目を集めました。さらに会場の掉尾を飾るモネの4メートルを超える睡蓮の大作は、その圧倒的な存在感と斬新な表現で、現代へとつながる歴史の流れを感じさせました。

続く10月から11月にかけては、当館のコレクションの粋をご紹介します「ザ・ベスト・セレクション展」を開催しました。開館以来10周年、20周年という節目の年にはコレクションによる特別展を開催してきましたが、今回は当館の4つの収集方針に沿って代表作をご紹介しますという、最もオーソドックスな手法をとりま

した。主な作品には解説パネルを付けましたが、通常の作品解説ではなく、収集に至った経緯など、作品にまつわるエピソード的な内容を盛りこみ、美術館のコレクションがどのように形成されていくのかをご紹介します。90点を超える出品作の中で最も注目を集めたのが《東山動物園猛獣画廊壁画》でした。作品の状態が悪く、これまで展示を見合わせていた作品でしたが、制作にいたる戦中から戦後にかけての社会状況を踏まえて、多くの方々が大変興味深くご覧になりました。

次いで12月から年をまたいで翌年2月にかけては、フィンランドの建築家アルヴァ・アアルトの展覧会を開催しました。当館で建築家を紹介するのは、黒川紀章に次いで2人目ですが、設計図面や模型、写真、ビデオ、さらには家具や食器など、アアルトの多彩な活動を200点を超える出品作でご紹介しました。「もうひとつの自然」というサブタイトルが示すように、自然と融和するように設計されたアアルトの建築は、ふんだんに使用される木材の質感もあり、日本人にとっても大変親しみやすいものを感じられました。また同様に木の温もりを生かしたシンプルなデザインの家具は、多くの来館者の人気を集めていました。

平成30年度最後の特別展は2月から3月末にかけて「辰野登恵子展」を開催しました。当館の所蔵品作家でもある辰野登恵子は、1970年代から90年代にかけて何度か名古屋で個展を開催していますが、今回は「オン・ペーパーズ」と題し、紙に描かれた初期の作品も含め、この作家の全体像を紹介する名古屋で初めての展覧会となりました。紙を使用した初期の素描や版画は、これまでまとめて紹介されることがありませんでしたが、辰野の創作の原点を知る重要な手がかりとなるだけでなく、この作家を有名にした大型の油彩作品がどのようにして生まれてきたのかを理解する上でも貴重な機会となりました。

名古屋市美術館開館30周年記念  
東海テレビ開局60周年記念  
モネ それからの100年  
Monet's Legacy

会期：2018年4月25日(水)～7月1日(日)

会場

企画展示室1・2

主催

名古屋市美術館、中日新聞社、東海テレビ放送、東海ラジオ放送

後援

在日フランス大使館、アンスティチュ・フランセ日本、愛知県・岐阜県  
各教育委員会、名古屋市立小中学校PTA協議会

協賛

トヨタ自動車、三井住友海上火災保険、光村印刷

協力

日本航空、名古屋市交通局、JR東海、近畿日本鉄道

観覧料

一般 1,400円、高大生 1,000円、中学生以下無料

内容

印象派の巨匠として知られるクロード・モネは、現代美術の先駆者でもあり、戦後アメリカの抽象表現主義から21世紀を迎えた現在に至るまで数多くの芸術家に刺激を与え続けている。本展覧会では93点の作品によって、印象派を超えて現在にまでつながるモネ芸術の深みと広がり、現代美術の作家たちの作品と比較検討することにより明らかにした。またモネから現代へと向かう流れだけでなく、現代の視点からモネを見直すことにより、その新たな価値の発見を目指した。

図録

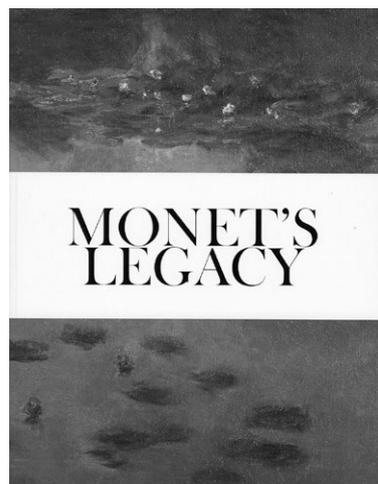
28.9×22.5cm 192ページ

編集：名古屋市美術館、横浜美術館、東京新聞

発行：東京新聞



ポスター



図録



1階会場風景



2階会場風景

## 関連催事

### ①記念講演会

日時: 5月20日(日)午後2時～  
 場所: 名古屋市美術館2階講堂  
 講師: 松本陽子(画家)  
 演題: 「モネの色彩と光」

### ②作品解説会

日時: 5月12日(土)、6月17日(土)午後2時～  
 場所: 名古屋市美術館2階講堂  
 講師: 深谷克典(名古屋市美術館副館長)

### ③特別鑑賞会(有料催事)

日時: A. 5月12日(土)、B. 5月26日(土)  
 いずれも午後5時～  
 A=解説会 3,000円  
 B=解説会+コンサート 4,000円  
 場所: 名古屋市美術館2階講堂、および特別展会場



記念講演会

## 出品作品

番号	作家名	作品名	制作年	技法材質	サイズ (cm)	所蔵
<b>I 新しい絵画へー立ち上がる色彩と筆触</b>						
1	クロード・モネ	サン＝シメオン農園前の道	1864	油彩/板	37.0×22.0	日本テレビ放送網(株)
2	クロード・モネ	サン＝シメオン農場の道	1864	油彩/キャンヴァス	52.5×72.5	泉屋博古館分館
3	クロード・モネ	サン＝タドレスの断崖	1867	油彩/キャンヴァス	54.0×79.0	松岡美術館
4	クロード・モネ	モンソー公園	1876	油彩/キャンヴァス	56.0×69.5	泉屋博古館分館
5	クロード・モネ	わらぶき屋根の家	1879	油彩/キャンヴァス	48.5×64.5	上原美術館
6	クロード・モネ	海辺の船	1881	油彩/キャンヴァス	82.0×60.0	東京富士美術館
7	クロード・モネ	税関吏の小屋、荒れた海	1882	油彩/キャンヴァス	58.0×81.0	日本テレビ放送網(株)
8	クロード・モネ	ヴァランジュヴィルの風景	1882	油彩/キャンヴァス	64.9×81.0	ポーラ美術館
9	クロード・モネ	ヴィレの風景	1883	油彩/キャンヴァス	60.3×78.8	個人蔵
10	クロード・モネ	アヴァルの門	1886	油彩/キャンヴァス	65.0×81.2	島根県立美術館
11	ウィレム・デ・クーニング	風景の中の女	1966	油彩/キャンヴァスに貼った紙	80.5×50.0	東京国立近代美術館
12	ウィレム・デ・クーニング	水	1970	油彩/キャンヴァスに貼った紙	107.0×81.0	国立国際美術館
13	ジョアン・ミッチェル	湖	1954	油彩/キャンヴァス	203.2×254.5	静岡県立美術館
14	ジョアン・ミッチェル	紫色の木	1964	油彩/キャンヴァス	161.8×114.0	いわき市立美術館
15	ルイ・カーヌ	作品	1995	油彩/紙	69.8×52.3	大原美術館
16	ルイ・カーヌ	彩られた空気	2008	樹脂絵具/金網	147.0×147.0	ギャラリーヤマキファインアート
17	ルイ・カーヌ	WORK 8	2013	樹脂絵具/グラスファイバー	62.3×64.5	ギャラリーヤマキファインアート
18	堂本尚郎	1960-5	1960	油彩/キャンヴァス	130.7×97.2	いわき市立美術館
19	中西夏之	G/Z 夏至・橋の上 To May VII	1992	油彩/キャンヴァス	182.0×227.5	名古屋画廊
20	中西夏之	G/Z 夏至・橋の上 3Z II	1992	油彩/キャンヴァス	181.8×227.3	

21	岡崎乾二郎	[左]山の向こうの中腹のちっばけな村はすでに見えなくなり、ふたたび春が巡ってきた。葡萄の木はあたかも塀の笠石の下を葡う病める大蛇のように見える。生あたたかい空気の中を褐色の光が動きまわっていた。似たりよったりの毎日が作りだす空白は伐り残した若木まで切り倒すだろう。日々の暮らしのなかで樹木の茂みは岩のように突き出ている。[右]自分の暮らした村がこんなに小さく思われたことはない。太陽が姿をみせた。背の高いポプラの林は風に吹き動かされる砂浜のような格好をしている。切れ目のないその連続を見ているだけで眼がくらんでくる。変り映えない日々の連続に酔うことができたなら象や蛇をしとめた気にもなれる。蝶が舞うようにそんな風に彼はものを識ったのである。	2004	アクリル／キャンヴァス(2点組)	各 180.0×130.0 ×5.0 180.0 ×130.0×5.0 (each)	東京都現代美術館
22	丸山直文	puddle in the woods 5	2010	アクリル／綿布	227.3×181.8	作家蔵
23	湯浅克俊	RGB #1	2017	油性木版(1版3色)／和紙／ライトボックス	47.6×62.6×7.2	作家蔵
24	湯浅克俊	RGB #2	2017	油性木版(1版3色)／和紙／ライトボックス	47.6×62.6×7.2	作家蔵
25	湯浅克俊	Quadrichromie	2018	水性木版(4版4色)／和紙	91.0×180.0	作家蔵

## Ⅱ 形なきものへの眼差し—光、大気、水

26	クロード・モネ	サン＝タドレスの海岸	1864	油彩／キャンヴァス	30.6×69.5	栃木県立美術館
27	クロード・モネ	セーヌ河の日没、冬	1880	油彩／キャンヴァス	60.6×81.1	ポーラ美術
28	クロード・モネ	ヴェトウイユ、水びたしの草原	1881	油彩／キャンヴァス	61.7×74.0	笠間日動美術館
29	クロード・モネ	ジヴェルニー近くのリメツの草原	1888	油彩／キャンヴァス	65.0×92.0	公益財団法人吉野石膏美術振興財団(山形美術館に寄託)
30	クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	1888-89	油彩／キャンヴァス	65.0×92.0	埼玉県立近代美術館
31	クロード・モネ	ラ・ロシュ＝ブロン村(夕暮れの影響)	1889	油彩／キャンヴァス	73.9×92.8	三重県立美術館
32	クロード・モネ	ジヴェルニーの草原	1890	油彩／キャンヴァス	65.1×92.4	福島県立美術館
33	クロード・モネ	雪中の家とコルサース山	1895	油彩／キャンヴァス	64.2×91.2	上原美術館
34	クロード・モネ	チャリング・クロス橋	1899	油彩／キャンヴァス	65.0×81.0	メナード美術館
35	クロード・モネ	テムズ河のチャリング・クロス橋	1903	油彩／キャンヴァス	73.0×100.0	吉野石膏株式会社(山形美術館に寄託)
36	クロード・モネ	霧の中の太陽	1904	油彩／キャンヴァス	71.0×91.5	個人蔵
37	アルフレッド・スティーグリッツ	アスファルトの舗道ニューヨーク[カメラワーク]No.41より	1892(1913年のプリント)	フォトグラヴィュア	14.0×17.6	横浜美術館
38	アルフレッド・スティーグリッツ	冬、五番街	1893	フォトグラヴィュア	21.7×15.2	東京国立近代美術館
39	アルフレッド・スティーグリッツ	ザ・ハンド・オブ・マン	1902	フォトグラヴィュア	15.8×21.4	東京国立近代美術館
40	アルフレッド・スティーグリッツ	ニューヨークセントラルヤードにて[カメラワーク]No.36より	1903(1911年のプリント)	フォトグラヴィュア	19.3×15.8	横浜美術館
41	アルフレッド・スティーグリッツ	無題(草の葉 ジョージ湖)	1933	ゼラチン・シルバー・プリント	16.6×23.0	東京富士美術館
42	アルフレッド・スティーグリッツ	エキヴァレント #147E	撮影年不詳	ゼラチン・シルバー・プリント	9.2×11.8	東京富士美術館
43	エドワード・スタイケン	風景	1899(1901年のプリント)	フォトグラヴィュア	16.6×12.6	東京国立近代美術館
44	エドワード・スタイケン	暮れなずむフラットアイアンビル ニューヨーク	1905(1906年のプリント)	トン・グラヴィュア・プリント(ブルー・ベグメント)	21.0×16.2	東京富士美術館
45	エドワード・スタイケン	遅い午後—ヴェニス	1913	フォトグラヴィュア	15.6×18.8	横浜美術館
46	マーク・ロスコ	ポトル・グリーンと深い赤	1958	油彩／キャンヴァス	205.7×127.5	大阪新美術館建設準備室
47	マーク・ロスコ	赤の中の黒	1958	油彩／キャンヴァス	176.5×233.7	東京都現代美術館
48	モーリス・ルイス	ワイン	1958	アクリル／キャンヴァス	234.6×374.0	広島市現代美術館
49	モーリス・ルイス	金色と緑色	1958	アクリル／キャンヴァス	237.5×351.8	東京都現代美術館
50	ゲルハルト・リヒター	アブストラクト・ペインティング(CR 845-5)	1997	油彩／アルディボンド板	100.0×90.0	金沢21世紀美術館
51	ゲルハルト・リヒター	アブストラクト・ペインティング(CR 845-8)	1997	油彩／アルディボンド板	100.0×90.0	金沢21世紀美術館
52	松本陽子	振動する風景的畫面Ⅲ	1993	アクリル／キャンヴァス	182.0×227.0	倉敷市立美術館
53	根岸芳郎	91-3-8	1991	アクリル／キャンヴァス	200.0×270.0	個人蔵(名古屋美術館に寄託)
54	丸山直文	Garden 1	2003	アクリル／綿布	182.0×227.5	東京国立近代美術館

### Ⅲ モネへのオマージュさまざまな「引用」のかたち

55	水野勝規	reflection	2012	シングルチャンネルビデオ(HD, サイレント/9分)		作家蔵
56	水野勝規	photon	2018	シングルチャンネルビデオ(4K, サイレント/8分)		作家蔵
57	ロイ・リキテンスタイン	積みわら #1	1969	リトグラフ、スクリーンプリント/紙	36.8×61.2	富士ゼロックス株式会社
58	ロイ・リキテンスタイン	積みわら #2	1969	リトグラフ、スクリーンプリント/紙	36.8×61.2	富士ゼロックス株式会社
59	ロイ・リキテンスタイン	積みわら #3	1969	リトグラフ、スクリーンプリント/紙	36.8×61.2	富士ゼロックス株式会社
60	ロイ・リキテンスタイン	積みわら #4	1969	リトグラフ、スクリーンプリント/紙	36.8×61.2	富士ゼロックス株式会社
61	ロイ・リキテンスタイン	積みわら #6	1969	リトグラフ、スクリーンプリント/紙	36.8×61.2	富士ゼロックス株式会社
62	ロイ・リキテンスタイン	積みわら #6(第1ステート)	1969	リトグラフ/紙	36.8×61.2	富士ゼロックス株式会社
63	ロイ・リキテンスタイン	日本の橋のある睡蓮	1992	エナメルによるスクリーンプリント/ステンレス/彩色した額	211.5×147.3×4.5	国立国際美術館
64	ルイ・カーヌ	睡蓮	1993	油彩/キャンヴァス	219.0×180.0	ギャラリーヤマキファインアート
65	堂本尚郎	連鎖反応—クロード・モネに捧げる	2003	油彩/キャンヴァス	130.0×390.0	個人蔵
66	平松礼二	夏の気流(モネの池)	1998	岩絵具/雲肌麻紙	53.0×72.7	個人蔵
67	福田美蘭	モネの睡蓮	2002	アクリル/パネルに貼ったキャンヴァス/額縁(既製品)	86.3×116.5×8.3	大原美術館
68	湯浅克俊	Light garden #1	2009	油性木版(1版1色)/紙	100.0×150.0	作家蔵
69	児玉麻緒	IKEMONET	2015	油彩/キャンヴァス	73.0×91.0	作家蔵
70	児玉麻緒	SUIREN	2016	油彩/キャンヴァス	145.0×145.0	作家蔵
71	水野勝規	holography	2018	シングルチャンネルビデオ(4K, サイレント/10分)		作家蔵

### Ⅳ フレームを越えて—拡張するイメージと空間

72	クロード・モネ	柳	1897-98頃	油彩/キャンヴァス	71.0×89.5	個人蔵(国立西洋美術館に寄託)
73	クロード・モネ	睡蓮	1897-98	油彩/キャンヴァス	73.7×100.0	個人蔵
74	クロード・モネ	睡蓮	1897-98頃	油彩/キャンヴァス	89.0×130.0	鹿児島市立美術館
75	クロード・モネ	睡蓮	1906	油彩/キャンヴァス	81.0×92.0	吉野石膏株式会社(山形美術館に寄託)
76	クロード・モネ	睡蓮の池	1907	油彩/キャンヴァス	100.0×81.0	和泉市久保物記念美術館
77	クロード・モネ	睡蓮、水草の反映	1914-17	油彩/キャンヴァス	130.0×200.0	ナーマッド・コレクション(モナコ)
78	クロード・モネ	睡蓮	1914-17	油彩/キャンヴァス	131.5×95.5	群馬県立近代美術館(群馬県企業局寄託作品)
79	クロード・モネ	バラの小道の家	1925	油彩/キャンヴァス	92.0×73.0	個人蔵(ロンドン)
80	サム・フランシス	無題(WC00956)	1956	水彩/紙	120.0×163.0	セゾン現代美術館
81	サム・フランシス	Simplicity(SEP80-68)	1980	油彩/キャンヴァス	88.0×352.5	セゾン現代美術館
82	ジャン=ポール・リオベル	絵画	1955	油彩/キャンヴァス	114.5×145.8	大原美術館
83	アンディ・ウォーホル	花	1970	シルクスクリン/紙(10点組)	各 91.4×91.4	富士ゼロックス株式会社
84	松本陽子	振動する風景的畫面	2017	油彩/キャンヴァス	200.0×250.0	個人蔵
85	児玉靖枝	深韻 水の系譜—白 六	2016	油彩/キャンヴァス	130.5×162.0	作家蔵
86	児玉靖枝	深韻 水の系譜—白 十二	2016	油彩/キャンヴァス	130.5×162.0	作家蔵
87	児玉靖枝	深韻 水の系譜—白 十三	2016	油彩/キャンヴァス	32.0×41.0	作家蔵
88	児玉靖枝	深韻 水の系譜—白 二十四	2016	油彩/キャンヴァス	60.6×60.6	作家蔵
89	児玉靖枝	深韻 水の系譜—白 三十五	2016	油彩/キャンヴァス	100.0×100.0	作家蔵
90	鈴木理策	水鏡 14, WM-77	2014	発色現像方式印画	120.0×155.0	作家蔵
91	鈴木理策	水鏡 14, WM-79	2014	発色現像方式印画	120.0×155.0	作家蔵
92	鈴木理策	The Other Side of the Mirror	2014	シングルチャンネルビデオ(HD, サイレント/14分1秒)		作家蔵
93	鈴木理策	水鏡 17, WM-734	2017	発色現像方式印画	120.0×155.0	作家蔵
94	福田美蘭	睡蓮の池	2018	アクリル/パネル	227.2×181.8	作家蔵
95	小野耕石	波絵	2017	油性インク/アルミに貼った紙	280.0×360.0	作家蔵



クラシックのタブ



ベビーカートツアー

名古屋市美術館開館30周年記念  
至上の印象派展  
ビュールレ・コレクション

Impressionist Masterpieces from the E.G. Buehrle  
Collection, Zurich (Switzerland)

会期：2018年7月28日(土)～9月24日(月・祝)

会場

企画展示室1・2

主催

名古屋市美術館、中日新聞社、NHK名古屋放送局、NHKプラネット中部

後援

外務省、スイス大使館、愛知県・岐阜県各教育委員会、名古屋市立小中学校PTA協議会

協賛

損保ジャパン日本興亜、アイシン・エイ・ダブリュ、東海東京証券

協力

スイス政府観光局、スイスインターナショナルエアラインズ、日本貨物航空、ヤマトグローバルロジスティクスジャパン、名古屋市交通局、JR東海、近畿日本鉄道

観覧料

一般 1,500円、大学生 1,000円、高校生 800円、中学生以下無料

内容

スイス、チューリヒのビュールレ・コレクションは世界でも有数のプライベート・コレクションとして知られている。1930年代半ばにはじまったコレクションは、ビュールレが亡くなるまでの約20年間に数百点を数えたが、今回の展覧会ではその中から精選された64点の傑作を紹介した。いずれ劣らぬ名作ぞろいのコレクションであるが、とりわけ印象派からポスト印象派の充実ぶりは目を見張るものがあり、モネ、ルノワール、セザンヌ、ゴッホなどは代表作がそろっている。日本での展覧会終了後の2020年には、コレクションはチューリヒ美術館の新館に移管されるため、まとまった紹介としては最後の機会となった。

図録

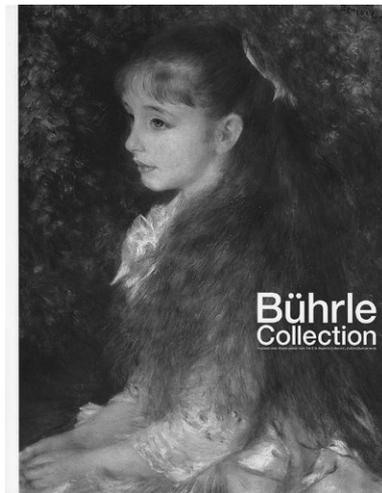
29.7×23.4cm 236ページ

編集：国立新美術館、九州国立博物館、名古屋市美術館、東京新聞、NHK、NHKプロモーション

発行：東京新聞、中日新聞社、NHK、NHKプロモーション



ポスター



図録

## 関連催事

### ①記念講演会

日時：8月5日(日)午後2時～

場所：名古屋市美術館2階講堂

講師：高階秀爾(大原美術館館長)

演題：「エミール・ビュールレと大原孫三郎 東西の大コレクター」



記念講演会

### ②作品解説会

日時：8月18日(土)、9月15日(土)午後2時～

場所：名古屋市美術館2階講堂

講師：深谷克典(名古屋市美術館副館長)

### ③特別鑑賞会(有料催事)

日時：A. 8月11日(土)、B. 9月1日(土)

いずれも午後5時～

A=解説会+コンサート 4,000円

B=解説会 3,000円

場所：名古屋市美術館2階講堂、および特別展会場

## 出品作品

番号	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(cm)
<b>1 肖像画</b>					
1	フランス・ハルス	男の肖像	1660-66	油彩／キャンヴァス	70.0×58.5
2	ジャン＝オーギュスト＝ドミニク・アングル	イポリット＝フランソワ・ドゥヴィレの肖像	1811	油彩／キャンヴァス	96.5×78.5
3	ジャン＝オーギュスト＝ドミニク・アングル	アングル夫人の肖像	1814頃	油彩／キャンヴァス	70.0×57.0
4	アンリ・ファンタン＝ラトゥール	パレットを持つ自画像	1861	油彩／キャンヴァス	81.0×65.0
5	ギュスターヴ・クールベ	彫刻家ルブッフの肖像	1863	油彩／キャンヴァス	65.0×50.0
6	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	アルフレッド・シスレーの肖像	1864	油彩／キャンヴァス	81.0×65.0
7	エドガー・ドガ	ピアノの前のカミュ夫人	1869	油彩／キャンヴァス	139.0×94.0
<b>2 ヨーロッパの都市</b>					
8	フランチェスコ・グアルディ	サン・マルコ沖、ヴェネツィア	1780-85	油彩／キャンヴァス	62.0×93.5
9	アントーニオ・カナール(カナレット)	カナル・グランデ、ヴェネツィア	1738-42	油彩／キャンヴァス	121.0×152.0
10	アントーニオ・カナール(カナレット)	サンタ・マリア・デッラ・サルテ聖堂、ヴェネツィア	1738-42	油彩／キャンヴァス	121.0×152.0
11	ポール・シニャック	ジュテッカ運河、ヴェネツィア、朝(サンタ・マリア・デッラ・サルテ聖堂)	1905	油彩／キャンヴァス	65.0×81.0
12	クロード・モネ	陽を浴びるウォータールー橋、ロンドン	1899-1901	油彩／キャンヴァス	65.0×100.0
13	アンリ・マティス	雪のサン＝ミシェル橋、パリ	1897	油彩／キャンヴァス	60.0×73.0
<b>3 19世紀のフランス絵画</b>					
14	カミーユ・コロー	読書する少女	1845-50	油彩／キャンヴァス	42.5×32.5
15	ギュスターヴ・クールベ	狩人の肖像	1849-50	油彩／キャンヴァス	70.0×60.0
16	ウジェーヌ・ドラクロワ	モロッコのスルタン	1862	油彩／板に貼られたキャンヴァス	69.5×57.5
17	ウジェーヌ・ドラクロワ	アポロンの凱旋	1853頃	油彩／キャンヴァス	110.0×99.5
18	ピエール・ピュヴィス・ド・シャヴァンヌ	コンコルディア習作	1859-61	油彩／キャンヴァス	76.0×95.0
19	エドゥアール・マネ	オリエンタル風の衣装をまとった若い女	1871頃	油彩／キャンヴァス	96.0×74.5
20	エドゥアール・マネ	燕	1873	油彩／キャンヴァス	65.0×81.0
21	エドゥアール・マネ	ワシミズク	1881	油彩／キャンヴァス	97.0×64.0

## 4 印象派の風景—マネ、モネ、ピサロ、シスレー

22	カミーユ・ピサロ	ルーヴシエンヌの雪道	1870頃	油彩／キャンヴァス	43.5×65.5
23	カミーユ・ピサロ	会話、ルーヴシエンヌ	1870	油彩／キャンヴァス	100.0×81.0
24	カミーユ・ピサロ	オニーからポントワーズへ向かう道—霜	1873	油彩／キャンヴァス	50.0×65.0
25	アルフレッド・シスレー	ハンプトン・コートのレストラン	1874	油彩／キャンヴァス	46.0×61.0
26	アルフレッド・シスレー	ブージヴァルの夏	1876	油彩／キャンヴァス	47.0×62.0
27	エドゥアール・マネ	ベルヴェユの庭の隅	1880	油彩／キャンヴァス	91.0×70.0
28	クロード・モネ	ヴェトウイユ近郊のヒナゲシ畑	1879頃	油彩／キャンヴァス	73.0×92.0
29	クロード・モネ	ジヴェルニーのモネの庭	1895	油彩／キャンヴァス	81.5×92.0

## 5 印象派の人物—ドガとルノワール

30	エドガー・ドガ	リュドヴィック・ルピック伯爵とその娘たち	1871頃	油彩／キャンヴァス	65.0×81.0
31	エドガー・ドガ	出走前	1878-80	油彩／キャンヴァス	39.5×89.0
32	エドガー・ドガ	控室の踊り子たち	1889頃	油彩／キャンヴァス	41.5×92.0
33	エドガー・ドガ	14歳の小さな踊り子	1880-81 (ワックスによる原作) 1932-36 (ブロンズによる鑄造)	ブロンズ、着彩、木綿のスカート、 絹のリボン、木製の台	H.98
34	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	イレーヌ・カーン・ダンヴェール嬢(可愛いイレーヌ)	1880	油彩／キャンヴァス	65.0×54.0
35	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	夏の帽子	1893	油彩／キャンヴァス	65.0×54.0
36	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	泉	1906	油彩／キャンヴァス	92.0×73.0

## 6 ポール・セザンヌ

37	ポール・セザンヌ	聖アントニウスの誘惑	1870頃	油彩／キャンヴァス	57.0×76.0
38	ポール・セザンヌ	風景	1879頃	油彩／キャンヴァス	54.0×73.0
39	ポール・セザンヌ	扇子を持つセザンヌ夫人の肖像	1878-88	油彩／キャンヴァス	92.0×73.0
40	ポール・セザンヌ	赤いチョッキの少年	1888-90	油彩／キャンヴァス	79.5×64.0
41	ポール・セザンヌ	パレットを持つ自画像	1890頃	油彩／キャンヴァス	92.0×73.0
42	ポール・セザンヌ	庭師ヴァリエ(老庭師)	1904-06	油彩／キャンヴァス	65.0×54.0

## 7 フィンセント・ファン・ゴッホ

43	フィンセント・ファン・ゴッホ	古い塔	1884	油彩／板に貼られたキャンヴァス	47.5×55.0
44	フィンセント・ファン・ゴッホ	自画像	1887	油彩／キャンヴァス	47.0×35.5
45	フィンセント・ファン・ゴッホ	アニエールのセーヌ川にかかる橋	1887	油彩／キャンヴァス	53.5×67.0
46	フィンセント・ファン・ゴッホ	日没を背に種まく人	1888	油彩／キャンヴァス	73.0×92.0
47	フィンセント・ファン・ゴッホ	二人の農婦	1890	油彩／キャンヴァスに貼られた紙	49.3×64.0
48	フィンセント・ファン・ゴッホ	花咲くマロニエの枝	1890	油彩／キャンヴァス	73.0×92.0



会場風景



高校生・大学生解説会

## 8 20世紀初頭のフランス絵画

49	アンリ・ド・トゥールーズ・ロートレック	コンフェッティ	1894	油彩／キャンヴァス	55.5×43.0
50	パブロ・ピカソ	ギュスターヴ・コキオの肖像	1901頃	油彩／厚紙	46.0×37.0
51	エドゥアール・ヴェイヤール	訪問者	1900頃	油彩／キャンヴァスに貼られた紙	59.5×51.0
52	エドゥアール・ヴェイヤール	自画像	1906頃	油彩／キャンヴァス	48.5×48.5
53	ポール・ゴーギャン	肘掛け椅子の上のひまわり	1901	油彩／キャンヴァス	68.0×75.5
54	ポール・ゴーギャン	贈りもの	1902	油彩／キャンヴァス	68.5×78.5
55	ピエール・ボナール	アンブロワーズ・ヴォラールの肖像	1904頃	油彩／キャンヴァス	73.0×60.0
56	ピエール・ボナール	室内	1905頃	油彩／キャンヴァス	59.5×40.5

## 9 モダン・アート

57	モーリス・ド・ヴラマンク	ル・ベック近くのセーヌ川のはしけ	1906	油彩／キャンヴァス	65.0×92.0
58	アンドレ・ドラク	室内の情景(テーブル)	1904頃	油彩／キャンヴァス	94.0×85.0
59	ジョルジュ・ブラック	レストックの港	1906頃	油彩／キャンヴァス	38.0×46.0
60	ジョルジュ・ブラック	ヴァイオリニスト	1912	油彩／キャンヴァス	100.0×73.0
61	ジョルジュ・ブラック	果物のある静物	1924	油彩／キャンヴァス	31.5×65.5
62	パブロ・ピカソ	イタリアの女	1917	油彩／キャンヴァス	149.0×101.5
63	パブロ・ピカソ	花とレモンのある静物	1941	油彩／キャンヴァス	92.0×73.0

## 10 新たなる絵画の地平

64	クロード・モネ	睡蓮の池、緑の反映	1920-26	油彩／キャンヴァス	200.0×425.0
----	---------	-----------	---------	-----------	-------------



クラシックのタペ



ワークショップ

## 名古屋市美術館開館30周年記念 ザ・ベスト・セレクション

The Best Selection of the Nagoya City Art Museum

会期：2018年10月6日(土)～11月25日(日)

### 会場

企画展示室1・2

### 主催

名古屋市美術館、中日新聞社

### 後援

愛知県・岐阜県各教育委員会、名古屋市立小中学校PTA協議会

### 協力

名古屋市交通局

### 観覧料

一般700円、高大生600円、中学生以下無料

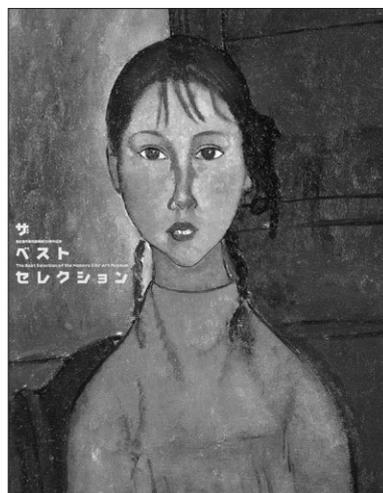
### 内容

名古屋市美術館は2018年4月に開館30周年を迎えた。美術品の収集は、開館に向けて準備を進めていた1983年に始まり、その総数は2018年9月末の時点で6,278点に達している。当館の収集活動は、地元ゆかりの重要作家が活躍した時代と場所にちなんで、「エコール・ド・パリ」、「メキシコ・ルネサンス」、「現代の美術」、「郷土の美術」の4つの分野に焦点を絞っているという特徴がある。メキシコの近代および現代美術を532点も収蔵している美術館は国内にはなく、この「メキシコ・ルネサンス」のコレクションはとりわけ当館の個性を決定づけるものに成長した。メキシコの女性画家フリーダ・カーロの作品は、日本の美術館の中では唯一当館だけが所蔵している。

開館30周年を契機に、約35年の収集活動を振り返り、当館のコレクションの魅力をあらためて多くの市民に知っていただく目的で、当館を代表する名作や知られざる傑作を一堂に展示した。損傷が激しいことから収蔵後一度も公開されていなかった《東山動物園猛獣画廊壁画》3点を現状のまま展示したほか、作品の大きさや設置の難しさなどから当館の常設展示室では公開の機会が限られてきた作品も展示した。また、モディリアーニの《おさげ髪の少女》の購入や岡本太郎の壁画下絵《明日の神話》の受贈の経緯、学芸員の調査研究により新たに判明した情報、作家にまつわる特別資料なども作品とあわせて紹介し、当館所蔵品についての理解を深める一助とした。



ポスター



図録

## 関連催事

### ①コレクション よもやまばなし 四方山話

日時:10月20日(土)午後2時～午後3時30分

11月9日(金)午後6時～午後7時30分

11月24日(土)午後2時～午後3時30分

会場:名古屋市美術館2階講堂

内容:作品が収集された経緯や調査によって判明した事実、作者の意外な一面など、美術館のコレクションにまつわる情報、豆知識などを紹介した。

### ②休館日のベビーカートゥアー(事前申込制)

日時:10月29日(月)午前10時30分～正午

午後1時30分～午後3時

場所:特別展会場



ベビーカートゥアー



## 出品作品

番号	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(cm)
1	コンスタンティン・ブランクーシ	うぶごえ	1917(1984铸造)	ブロンズ	17.0×26.0×18.0
2	モーリス・ユトリロ	ノルヴァン通り	1910	油彩・カルトン	73.1×92.0
3	アメデオ・モディリアーニ	おさげ髪の少女	1918頃	油彩・キャンヴァス	60.1×45.4
4	ジュール・バスキン	横たわるエリアーヌ	1929	油彩・キャンヴァス	73.2×92.6
5	藤田嗣治	自画像	1929	油彩、鉛筆、金箔・キャンヴァス	81.4×65.5
6	マルク・シャガール	二重肖像	1924	油彩・キャンヴァス	130.0×100.0
7	オシップ・ザツキン	扇を持つ女	1923(1996铸造)	ブロンズ	84.0×35.0×31.0
8	キスリング	マルセル・シャンタルの肖像	1935	油彩・キャンヴァス	116.0×81.0
9	ハイム・スーチン	農家の娘	1919頃	油彩・キャンヴァス	80.0×45.0
10	岡鹿之助	魚	1927	油彩・キャンヴァス	60.0×73.0
11	荻須高德	洗濯場(オーベルヴィリエ)	1958-59	油彩・キャンヴァス	116.3×89.2
12	海老原喜之助	群鳥	1931	油彩・キャンヴァス	100.0×73.2
13	ホセ・ガダルーベ・ボサダ	[版画]	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0
14	ホセ・ガダルーベ・ボサダ	[版画]	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0
15	ホセ・ガダルーベ・ボサダ	[版画]	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0
16	ホセ・ガダルーベ・ボサダ	[版画]	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0
17	ホセ・クレメンテ・オロスコ	メキシコ風景	1932	油彩・キャンヴァス	76.1×93.9
18	ディエゴ・リベラ	スペイン風景(トレド)	1913	油彩・キャンヴァス	89.0×110.0
19	北川民次	トラルバム霊園のお祭り	1930	油彩・キャンヴァス	99.5×89.8
20	ダビッド・アルファロ・シケイロス	奴隷	1961	アクリル・板	86.4×64.8
21	ルフィーノ・タマヨ	夜の踊り子たち	1948	油彩・キャンヴァス	96.7×76.4
22	ティナ・モドッティ	キリストの鞭打ち	1925-27	ヴァインテージ・ゼラチンシルバープリント・紙	24.7×19.5
23	ティナ・モドッティ	カラー	1924-26	モダン・プラチナパラジウムプリント・紙	27.5×22.1
24	マリア・イスキエルド	旅人の肖像(アンリド・シャティヨンの肖像)	1940頃	油彩・キャンヴァス	160.0×190.0
25	マニュエル・アルバレス・ブラボー	踊り子の娘	1933	プラチナパラジウムプリント・紙	35.0×28.0
26	マニュエル・アルバレス・ブラボー	永遠の肖像	1935	プラチナパラジウムプリント・紙	35.0×28.0
27	マニュエル・アルバレス・ブラボー	黒い山、白い雲	1970(1974)	プラチナパラジウムプリント・紙	28.0×35.0
28	フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	1938	油彩・ブリキ	14.9×11.0
29	岡本太郎	明日の神話	1968	油彩・キャンヴァス 3/パネル	132.7×728.9

30	川合玉堂	秋嶺白雲	1940頃	絹本着彩 軸装	78.8×99.4
31	前田青邨	富貴花	1974	紙本墨画、金泥	84.5×236.0
32	渡辺幾春	若き女	1922	絹本着彩 屏風(二曲一隻)	162.0×150.0
33	横山葩生	磯	1934	絹本着彩 屏風(二曲一隻)	166.0×191.0
34	喜多村麦子	暮れ行く堀川	1929	絹本着彩	115.0×149.2
35	堀尾実	冬の構図	1955	紙本着彩 屏風(四曲一隻)	136.0×182.0
36	水谷勇夫	公証人	1960	紙本着彩	162.0×130.0
37	星野真吾	喪中の作品	1965	紙本着彩	183.0×123.2
38	中村正義	自画像	1962	紙本着彩	161.6×129.4
39	大島哲以	終電車	1967	紙本着彩、銀箔、金箔	187.0×230.0
40	平松礼二	路—金色の刻	1992	紙本着彩、金箔 屏風(四曲一隻)	165.0×337.2
41	田淵俊夫	緑溢れる頃	2005	紙本墨画 屏風(四曲一隻)	175.0×368.0
42	鈴木不知	冬瓜	1900-30	油彩・キャンヴァス	45.5×61.0
43	横井礼以	蜜柑を持つK坊	1922	油彩・キャンヴァス	51.3×51.6
44	大沢鉦一郎	城のある風景	1920	油彩・キャンヴァス	60.9×45.7
45	佐分真	静物	1924	油彩・キャンヴァス	91.2×116.6
46	伊藤康	岩山 夏	1933	油彩・キャンヴァス	91.0×116.5
47	鬼頭鍋三郎	手をかざす女	1934	油彩・キャンヴァス	191.0×129.0
48	北脇昇	春に合掌す	1942	油彩・キャンヴァス	72.5×91.0
49	宮脇晴	夜の自画像	1919	油彩・キャンヴァス	61.0×45.7
50	富澤有為男	姉	1928	油彩・キャンヴァス	91.0×72.8
51	三岸好太郎	海と射光	1934	油彩・キャンヴァス	72.8×60.5
52	遠山清	マノハラ水浴	1927	テンペラ・紙	73.0×90.7
53	市野長之介	バザーの楽器店	1929	油彩・キャンヴァス	65.5×80.6
54	三岸節子	プチカナル	1973	油彩・キャンヴァス	116.0×89.0
55	下郷羊雄	伊豆の海	1937	油彩・キャンヴァス	72.7×53.3
56	下郷羊雄編著	超現実主義写真集メセム属	1940	印刷	18.3×12.9×0.8
57	西村千太郎	納屋橋風景	1930	油彩・キャンヴァス	65.0×80.0
58	太田三郎	東山動物園猛獣画廊壁画 No. 1	1948	油彩・キャンヴァス	141.0×540.0
59	水谷清	東山動物園猛獣画廊壁画 No. 2	1948	油彩・キャンヴァス	141.0×540.0
60	宮本三郎	東山動物園猛獣画廊壁画 No. 3	1948	油彩・キャンヴァス	141.0×540.0
61	益子愛太郎	冬の晨	1920	ゴム印画・紙	24.3×39.8
62	益子愛太郎	浜辺	1922	ゴム印画・紙	32.3×41.2
63	淵上白陽	[男]	1932-41頃	プロムオイル印画・紙	26.5×22.3
64	淵上白陽	[停車場 朝霞]	1932-41頃	ゼラチンシルバープリント・紙	14.1×11.6
65	山本悳右	[砂浜の裸婦]	1938	ゼラチンシルバープリント・紙	15.7×24.6
66	山本悳右	[シーツ]	1940頃	ゼラチンシルバープリント・紙	28.5×25.0
67	後藤敬一郎	[砂丘の女と流木]	1939頃	ゼラチンシルバープリント・紙	23.8×47.8
68	後藤敬一郎	最後の審判図	1935-40	ゼラチンシルバープリント・紙	55.5×45.2
69	イサム・ノグチ	死すべきもの	1959-62(1988鑄造)	ブロンズ	190.0×51.0×48.0
70	草間彌生	ピンク・ボート	1992	ファイバーワーク、ボート	90.0×350.0×180.0
71	ナムジュン・パイク	ロボット家族(お父さん)	1986	テレビ、ビデオ	226.1×139.1×52.1
72	ナムジュン・パイク	ロボット家族(お母さん)	1986	テレビ、ビデオ	203.1×153.7×53.3
73	河原温	カム・オン・マイ・ハウス	1955	油彩・キャンヴァス	125.0×181.0
74	河原温	私生児の誕生	1955	油彩・キャンヴァス	132.0×194.0
75	桑山忠明	無題	1965	アクリル・キャンヴァス	247.7×215.9
76	中村宏	望遠鏡少女	1969	インク、白・紙	27.1×39.0
77	中村宏	呪物たちの低空飛行	1970	インク・紙	35.2×54.7
78	中村宏	F601機	1970	インク・紙	36.5×52.3
79	中村宏	少女列車	1970	インク・紙	36.8×52.5
80	荒川修作	35フィート×7フィート6インチ、126ポンド No. 2	1967-68	アクリル、コラージュ・キャンヴァス 7パネル	225.0×1067.5
81	赤瀬川原平	復讐の形態学(殺す前に相手をよく見る)	1963	インク・紙、パネル	90.0×180.0
82	庄司達	白い布による空間 '68-6	1968(2003再制作)	綿布、糸、塗装金属フレーム	216.0×202.0×202.0
83	久野利博	BODY DISTANCE / February 1, 1981(Nagoya)	1981	ゼラチンシルバープリント	90.0×60.0
84	久野利博	BODY DISTANCE / August 13, 1982(Firenze)	1982	ゼラチンシルバープリント	90.0×60.0
85	久野利博	BODY DISTANCE / September 19, 1982(Brugge)	1982	ゼラチンシルバープリント	90.0×60.0
86	山本富章	Untitled(無題)	1987	ミクストメディア	286.0×382.0×16.0
87	藤本由紀夫	TABLE MUSIC	1987	木・オルゴールなど	60.0×60.0×60.0
88	舟越桂	かたい布はときどき話す	1988	楠(着彩)、大理石	高さ81.0
89	舟越桂	「かたい布はときどき話す」のためのドローイング	1988	木炭、鉛筆・紙	97.0×86.3
90	アンディー・ゴールズワージー	栗の枯葉／大内山村／1987年11月15日	1987	カラー写真	95.2×48.3
91	アンディー・ゴールズワージー	楓の紅葉による鎖／大内山村／1987年11月21日	1987	カラー写真	129.3×73.4
92	アンディー・ゴールズワージー	編まれた竹／紀伊長島町／1987年11月29日	1987	カラー写真	77.5×76.5

# アルヴァ・アアルト もうひとつの自然

Alvar Aalto—Second Nature

An Exhibition by the Vitra Design Museum  
and the Alvar Aalto Museum

会期：2018年12月8日(土)～2019年2月3日(日)

## 会場

企画展示室1・2

## 主催

名古屋市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会、中京テレビ放送

## 協賛

ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、インターオフィス

## 協力

ルフトハンザ ドイツ航空、ルフトハンザ カーゴ AG、名古屋市交通局

## 後援

フィンランド大使館、愛知県・岐阜県各教育委員会、名古屋市立小中学校PTA協議会

## メイン・パートナー

アルテック、ヴィトラ

## グローバル・スポンサー

マイクロソフト

## 日本巡回展メイン・スポンサー

イッタラ

## 観覧料

一般1,200円、高大生900円、中学生以下無料

## 内容

北欧・フィンランドが生んだ建築家アルヴァ・アアルト(1898-1976)は、木やレンガなどの素材を生かし、周囲の自然環境との調和を図るよう配慮された建築で知られ、フィンランドのみならず世界的に評価を得ている。

代表作の《パイミオのサナトリウム》(1933年)は、結核患者の治療の過程にまで配慮し、アアルトが生涯大事にした、人に優しい建築という考え方を体現したものであった。また、友人夫妻のために設計した《マイレア邸》(1939年)は、邸宅周囲の松の森と建物内部の連続性を意識し、手すりや柱に至るまで自然の素材を多用した有機的な建築となっている。

アアルトはデザイナーとしての手腕も発揮し、ドアの取っ手から照明器具、家具、ガラス器に至るまで、人が生活したり仕事したりする空間の隅々まで、ディテールにも拘ってデザインした。レストラン・サヴォイのためにデザインした《サヴォイ・ベース》(1936年)は、フィンランドの湖の曲線を採り入れたものとされており、現在においても親しまれるロングセラーとなっている。

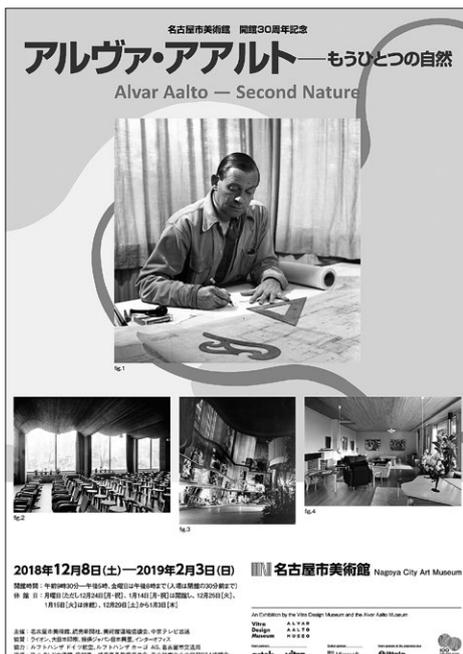
この展覧会は、ヴィトラ・デザイン・ミュージアムとアルヴァ・アアルト美術館によって企画され、各国を巡回する回顧展であり、日本においては、20年ぶりに開催されたアルヴァ・アアルトの包括的な展覧会であった。自然の美しさと温かみ、そして人間の温もりを大切にしたいアアルトの建築とデザインは、日本においても多くの共感を得ることができた。

## 図録

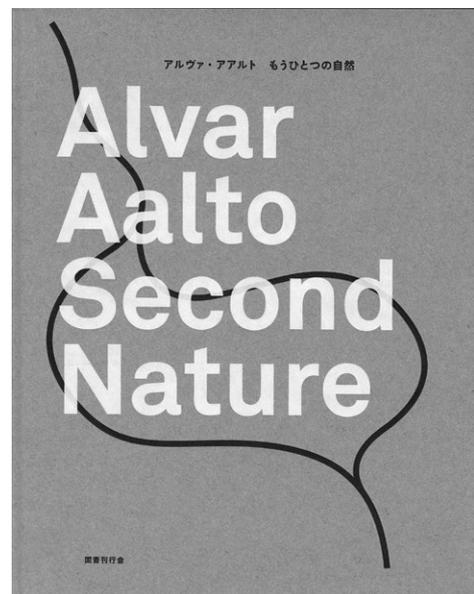
25.4×20.0cm 385ページ

編集：和田菜穂子

発行：国書刊行会



チラシ



図録



1階会場風景



2階会場風景

## 関連催事

### ① 記念講演会

日時:12月16日(日)午後2時～  
 場所:名古屋市美術館2階講堂  
 講師:和田菜穂子(建築史家)  
 演題:「アアルトの住宅と理想の暮らし」

### ② 子どものためのギャラリートーク

日時:12月16日(日)午前10時30分～  
 場所:特別展会場  
 講師:和田菜穂子(建築史家)  
 対象年齢:小学校3年生～中学校3年生

### ③ 作品解説会

日時:12月23日(日・祝)午後2時～  
 場所:名古屋市美術館2階講堂  
 講師:中村暁子(名古屋市美術館学芸員)

### ④ ロビーコンサート

日時:1月13日(日)午後3時～  
 場所:名古屋市美術館地階ロビー  
 演奏:澤田幸江(バイオリン)、松下寛子(ピアノ〈キーボード〉)

### ⑤ トークショー

日時:2月1日(金)午後6時～  
 場所:名古屋市美術館2階講堂  
 登壇者:長江青(ミナ・ペルホネンPRディレクター、絵本作家)  
 佐藤美代(アニメーション作家)  
 聞き手:江坂恵里子(ユネスコ・デザイン都市なごや推進事業実行委員会 プログラム・ディレクター)  
 演題:「トーヴェ・ヤンソンから見たフィンランドの暮らしとデザイン」



記念講演会



子どものためのギャラリートーク



記念コンサート

## 出品作品

番号	作家名	プロジェクト名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(cm)	備考	所蔵先
<b>1 選択的親和力</b>								
1	アルヴァ・アアルト	ムーラメの教会、フィンランド、1926-29年	内観透視図		グラファイト、紙	17.0×15.2		AAM
2	アルヴァ・アアルト	ムーラメの教会、フィンランド、1926-29年	鐘楼の立面スケッチ		墨、トレーシングペーパー	22.0×28.0		AAM
3	アルヴァ・アアルト	ムーラメの教会、フィンランド、1926-29年	家具のデザイン		墨、トレーシングペーパー	65.0×49.5		AAM
4	アルヴァ・アアルト	ムーラメの教会、フィンランド、1926-29年	聖具室のための椅子	1928年	鉄、革	92.0×49.0×58.0		AAM
5	アルヴァ・アアルト	トイヴァッカの教会、フィンランド、1923年	燭台		鉄	124.0×105.0×28.5		AAM
6	アルヴァ・アアルト	トイヴァッカの教会、フィンランド、1923年	窓のデザイン		グラファイト、紙	34.7×23.3		AAM
7	アルヴァ・アアルト	トイヴァッカの教会、フィンランド、1923年	聖歌隊席のステンドグラスのためのスケッチ		グラファイト、色鉛筆、紙	16.0×15.8		AAM
8	アルヴァ・アアルト	ヤムサの教会、フィンランド、1925年頃(実現せず)	景観のスケッチ		グラファイト、トレーシングペーパー	21.8×28.0		AAM
9	アルヴァ・アアルト	ヤムサの教会、フィンランド、1925年頃(実現せず)	オルガンのある内観透視図		グラファイト、水彩、厚紙	50.8×36.5		AAM
10	アルヴァ・アアルト	ヴァッリラの教会、ヘルシンキ、フィンランド、1929年頃(実現せず)	断面図、祭壇、音響のスケッチ		グラファイト、紙	22.0×28.0		AAM
11	アルヴァ・アアルト	墓地礼拝堂、ユヴァスキュラ、フィンランド、1925年、1930年(実現せず)	外観透視図、平面図	1930年	グラファイト、紙	28.5×48.3		AAM
12	アルヴァ・アアルト	墓地礼拝堂、ユヴァスキュラ、フィンランド、1925年、1930年(実現せず)	立面図、1階平面図	1925年	グラファイト、トレーシングペーパー	56.2×33.6		AAM
<b>2 多感覚的空間</b>								
1	アルヴァ・アアルト	トゥルク市700周年記念 第3回フィンランド博覧会の会場デザイン、フィンランド、1929年	広告館の透視図		墨、色鉛筆、厚紙	28.8×42		AAM
2	アルヴァ・アアルト	トゥルク市700周年記念 第3回フィンランド博覧会の会場デザイン、フィンランド、1929年	広告塔の透視図		墨、色鉛筆、トレーシングペーパー	49.8×34.4		AAM
3	アルヴァ・アアルトとエリック・ブリュッグマン	トゥルク市700周年記念 第3回フィンランド博覧会の会場デザイン、フィンランド、1929年	円形レストランの透視図のある宣伝用チラシ		印刷、紙	18.5×23.0		AAM
4	アルヴァ・アアルト	トゥルン・サノマツ新聞社、トゥルク、フィンランド、1928-30年	透視図		インク、トレーシングペーパー	71.0×76.0		AAM
5	アルヴァ・アアルト	トゥルン・サノマツ新聞社、トゥルク、フィンランド、1928-30年	新聞が投影されたウィンドウ・ディスプレイ		グラファイト、トレーシングペーパー	22.3×25.0		AAM
6	アルヴァ・アアルト	トゥルン・サノマツ新聞社、トゥルク、フィンランド、1928-30年	6階住居の色彩計画(平面図、内観透視図)		墨、色鉛筆、トレーシングペーパー	35.2×62.7		AAM
7	アルヴァ・アアルト	南西フィンランド農業協同組合ビル、トゥルク、フィンランド、1927-28年	断面図		グラファイト、墨、水彩、厚紙	36.2×50.7		AAM
8	アルヴァ・アアルト	南西フィンランド農業協同組合ビル、トゥルク、フィンランド、1927-28年	トゥルク市立劇場内観透視図		写真			AAM
9	アルヴァ・アアルト	スオメン・ピオグラフィ(フィンランド・シネマ)、トゥルク、フィンランド、1928年(実現せず)	断面図		墨、トレーシングペーパー	35.4×64.0		AAM
10	アルヴァ・アアルト	スオメン・ピオグラフィ(フィンランド・シネマ)、トゥルク、フィンランド、1928年(実現せず)	スクリーンとオーケストラピットの透視図		グラファイト、トレーシングペーパー	37.2×35.5		AAM
11	アルヴァ・アアルト	トゥルク市立劇場(南西フィンランド農業協同組合ビル)、フィンランド、1930年	ハガル・オルソン演劇「S.O.S.」の舞台装置のためのデザイン・スケッチ		グラファイト、墨、紙	34.0×32.0		AAM
12	アルヴァ・アアルト	トゥルク市立劇場(南西フィンランド農業協同組合ビル)、フィンランド、1930年	演劇「S.O.S.」のポスター		印刷、紙	44.7×59.8		AAM
13	アルヴァ・アアルト	トゥルク市立劇場(南西フィンランド農業協同組合ビル)、フィンランド、1930年	ハガル・オルソン演劇「S.O.S.」のための投影	1930年代			トゥルク市立劇場	AAM
14	アルヴァ・アアルト	トゥルク市立劇場(南西フィンランド農業協同組合ビル)、フィンランド、1930年	ハガル・オルソン演劇「S.O.S.」のための舞台装置	1930年代	映像		トゥルク市立劇場	AAM
15	アイノ・アアルトによる、またはアアルト夫妻に関する写真		1.パイミオのサナトリウムの外気浴棟	1932年				AAM
16	アイノ・アアルトによる、またはアアルト夫妻に関する写真		2.パイミオのサナトリウムの外気浴棟に立つ人	1932年				AAM
17	アイノ・アアルトによる、またはアアルト夫妻に関する写真		3.パイミオのサナトリウムの食器棚	1932年				AAM
18	アイノ・アアルトによる、またはアアルト夫妻に関する写真		4.トゥルン・サノマツ新聞社の煙突	1932年				AAM
19	アイノ・アアルトによる、またはアアルト夫妻に関する写真		5.アアルトのポートレート	1930年代				AAM
20	アイノ・アアルトによる、またはアアルト夫妻に関する写真		6.トゥルン・サノマツ新聞社の煙突	1930年頃				AAM

21	アイノ・アアルトによる、またはアアルト夫妻に関する写真	7.トッピラ=ヴァーラ・バルブ工場	1931年				AAM
22	アイノ・アアルトによる、またはアアルト夫妻に関する写真	8.トッピラ=ヴァーラ・バルブ工場	1931年				AAM
23	アイノ・アアルトによる、またはアアルト夫妻に関する写真	9.パイミオのサナトリウムの屋上に立つアアルト	1930年頃				AAM
24	アイノ・アアルトによる、またはアアルト夫妻に関する写真	10.汽船	1928年頃				AAM
25	アイノ・アアルトによる、またはアアルト夫妻に関する写真	11.ロンドンのロイヤル・パレードをカメラで追うモホイ=ナジラスローとアイノ・アアルト	1933年			アルヴァ・アアルト撮影	AAM
26	アイノ・アアルトによる、またはアアルト夫妻に関する写真	12.トゥルクのアアルトのアパートメント	1930年代初頭				AAM
27	アイノ・アアルトによる、またはアアルト夫妻に関する写真	13.トゥルクのアアルトのアパートメント	1930年代初頭				AAM
28	アイノ・アアルトによる、またはアアルト夫妻に関する写真	14.ニューヨーク万博フィンランド館でのアアルト	1939年			エイノ・マキネン撮影	AAM
29	アイノ・アアルトによる、またはアアルト夫妻に関する写真	15.トゥルクのアアルトのアパートメント	1930年代初頭				AAM
30	アイノ・アアルトによる、またはアアルト夫妻に関する写真	16.トゥルクのアアルトのアパートメント	1930年代初頭				AAM
31	アイノ・アアルトによる、またはアアルト夫妻に関する写真	17.自邸の庭のアアルト	1940年代				AAM
32	アルミン・リンケ	パイミオのサナトリウム、フィンランド、1928-33年	2014年	映像			1分47秒
33	アルヴァ・アアルト	パイミオのサナトリウム、フィンランド、1928-33年		病室の技術的詳細の展示パネル	墨、写真、厚紙	42.0×59.0	AAM
34	アルヴァ・アアルト	パイミオのサナトリウム、フィンランド、1928-33年	1929-30年	鳥瞰写真			AAM
35	アルヴァ・アアルト	パイミオのサナトリウム、フィンランド、1928-33年		ウォール・ランプ	7239	26.5×9.5×9.5	
36	アルヴァ・アアルト	パイミオのサナトリウム、フィンランド、1928-33年		テーブル・ランプ	5267		
37	アルヴァ・アアルト	パイミオのサナトリウム、フィンランド、1928-33年		洗面器、取り付け具			
38	アルヴァ・アアルト	パイミオのサナトリウム、フィンランド、1928-33年		ワードローブ		210.0×112.0×83.2	
39	アルヴァ・アアルト	パイミオのサナトリウム、フィンランド、1928-33年		ベッド		99.5×82.0×205.0	
40	アルヴァ・アアルト	パイミオのサナトリウム、フィンランド、1928-33年		ベッドサイド・テーブル			
41	アルヴァ・アアルト	パイミオのサナトリウム、フィンランド、1928-33年		蛇口			
42	アルヴァ・アアルト	パイミオのサナトリウム、フィンランド、1928-33年		洗面棚			
43	アルヴァ・アアルト	パイミオのサナトリウム、フィンランド、1928-33年		ウォール・ランプ			
44	アルヴァ・アアルト	パイミオのサナトリウム、フィンランド、1928-33年		取り付け具(オリジナル)と鏡(後補)			
45	アルヴァ・アアルト	ヴァープリ(ヴァーボルグ)の図書館、ロシア、1927-35年	1933年	講堂のための音響スケッチ	グラフィック、色鉛筆、トレーシングペーパー	35.5×64.3	AAM
46	アルヴァ・アアルト	ヴァープリ(ヴァーボルグ)の図書館、ロシア、1927-35年	1933-35年	図書閲覧室のための照明のスケッチ	コピー、紙	24.5×20.0	AAM
47	アルヴァ・アアルト	ヴァープリ(ヴァーボルグ)の図書館、ロシア、1927-35年	1933年頃	講堂の天井のためのスタディ模型	パイン材		AAM
48	アルヴァ・アアルト	ヴァープリ(ヴァーボルグ)の図書館、ロシア、1927-35年		コンセプトスケッチ			[アルキテクト] 1949年-2号掲載 Vitra Design Museum Archive
49	アルミン・リンケ	ヴァープリ(ヴァーボルグ)の図書館、ロシア、1927-35年	2014年	映像			1分4秒

### 3 芸術と生活

1	ジャン・アルプ	星団	1955年	リトグラフ、紙	69.0×52.0		Artiek Collection
2	ジャン・アルプ	配置	1955年	リトグラフ、紙	52.0×69.0		Artiek Collection
3	フェルナン・レジェ	花	1935年	グアッシュ、紙	40.0×30.0		Artiek Collection
4	フェルナン・レジェ	対照のコンポジション	1937年	グアッシュ、鉛筆、紙	36.0×24.0		Mairea Foundation
5	アルヴァ・アアルト	マテリアル・スタディ(レリーフ)	1933年	曲げ加工された積層材、木版	34.0×34.0×3.5		AAM
6	アルヴァ・アアルト	マテリアル・スタディ(レリーフ)	1933年	曲げ加工されたバーチ積層材、木版	40.0×35.0×4.0		AAM
7	アルヴァ・アアルト	マテリアル・スタディ(レリーフ)	1934年	曲げ加工されたバーチ積層材、木版	90.0×84.0×8.5		AAM
8	アルヴァ・アアルト	マテリアル・スタディ(レリーフ)	1947年	木、パイン材の板	75.0×68.0×3.5		AAM
9	アルヴァ・アアルト	フォールディングスクリーン	100	1935-36年	パイン材、銅線		
10	アルヴァ・アアルト	マイルア駅、ノールマルック、フィンランド、1938-39年		南側立面図	グラフィック、色鉛筆、トレーシングペーパー	53.5×78.0	AAM
11	アルヴァ・アアルト	マイルア駅、ノールマルック、フィンランド、1938-39年		リビングルームの可動展示壁のスケッチ	グラフィック、トレーシングペーパー	30.0×46.0	AAM
12	アルヴァ・アアルト	マイルア駅、ノールマルック、フィンランド、1938-39年		平面と立面のスケッチ	グラフィック、トレーシングペーパー	30.0×49.5	AAM
13	アルヴァ・アアルト	ルイカレ駅、バジュー=シュル=ギヨンス、フランス、1956-59年		平面と断面のスケッチ	グラフィック、トレーシングペーパー	30.0×51.5	AAM
14	アルヴァ・アアルト	ルイカレ駅、バジュー=シュル=ギヨンス、フランス、1956-59年		平面と断面のスケッチ	グラフィック、トレーシングペーパー	30.0×62.5	AAM
15	不詳	ルイカレ駅、バジュー=シュル=ギヨンス、フランス、1956-59年		鳥瞰			AAM
16	備考参照	ルイカレ駅、バジュー=シュル=ギヨンス、フランス、1956-59年	1959年秋	竣工記念パーティー			photo: Heikki Havas AAM
17	備考参照	ルイカレ駅、バジュー=シュル=ギヨンス、フランス、1956-59年	1959年秋	竣工記念パーティー			photo: Heikki Havas AAM

18	備考参照	ルイ・カレ、バジュー・シュル＝ギヨンス、フランス、1966-69年	アルヴァ・アアルトの家具のあるリビングルーム	photo: Heikki Havas	AAM
19	備考参照	ルイ・カレ、バジュー・シュル＝ギヨンス、フランス、1966-69年	アンリ・ローランスとフェルナン・レジェの作品のあるエントランスホール	photo: Heikki Havas	AAM

## 4 よりよいものを毎日の生活に

1	アルヴァ・アアルト	子ども用チェア	1023	1929年	バーチ材、バーチ材合板	58.0×33.0×33.0	
2	アルヴァ・アアルト	チェア	23	1929年 <small>（展示品はフェルヒの カレ・バジュー社1929年製）</small>	ニッケルメッキのスチール パイプ、バーチ材成形合板	78.5×43.5×57.5	
3	アルヴァ・アアルト	チェア	103	1931-32年	曲げ加工されたバーチ材 積層合板、成形合板	58.0×34.0×49.0	
4	アルヴァ・アアルト	ハイバック・チェア		1932年	曲げ加工されたバーチ材積 層合板、バーチ材成形合板	95.0×60.5×91.0	
5	アルヴァ・アアルト	パイミオ・スツール		1932年	ラッカー仕上げのスチールパ イプ、ラッカー仕上げの合板	42.0×46.5×36.9	
6	アルヴァ・アアルト	アームチェア		1932年	ラッカー仕上げのスチールパイプ、ラッカー仕 上げのバーチ材成形合板、ラッカー仕上げの木材		AAM
7	アルヴァ・アアルト	アームチェア	26	1932年	ラッカー仕上げのスチールパイプ、 ラッカー仕上げのバーチ材成形合板	71.4×64.0×70.0	バネのサリカ ムのためデザイン
8	アルヴァ・アアルト	アームチェア	31	1932年	曲げ加工されたバーチ材 積層合板、成形合板	68.5×60.5×75.0	
9	アルヴァ・アアルト	アームチェア	31	1932年	曲げ加工されたバーチ材積層 合板、成形合板、子牛革張り	67.5×60.5×75.5	
10	アルヴァ・アアルト	アームチェア	41	1932年	曲げ加工されたバーチ材積層合 板、ラッカー仕上げの成形合板	63.4×61.2×86.6	
11	アルヴァ・アアルト	サイドテーブル	915	1932年	ラッカー仕上げのバーチ材積層 合板、ラッカー仕上げの成形合板	59.5×59.5×51.0	
12	アルヴァ・アアルト	スツール	60	1933年	バーチ無垢材、バーチ積 層材等	44.0×39.5×38.5	
13	アルヴァ・アアルト	アームチェア	400	1936年	曲げ加工されたバーチ材 積層合板、染色した布張り	64.0×75.5×87.0	
14	アルヴァ・アアルト	リクライニング・チェア	39	1937年	曲げ加工された積層合 板、ウエビングテープ張り	69.5×61.7×163.0	
15	アルヴァ・アアルト	ティートローラー	900	1937年	曲げ加工されたバーチ材積層合板、 バーチ材、タイル、ラタン製バスケット	58.2×66.3×91.0	
16	不詳	アルテックのmanifesto		1935年	タイプ、インク、紙	28.0×22.5	AAM/Artek Collection
17	不詳	アルテックの流通ネットワーク図		1935年	墨、紙	30.0×21.0	AAM/Artek Collection
18	フェルナン・レジェ	フェルナン・レジェが生徒に宛てた書簡		1937年	インク、紙		Private Collection
19	アルヴァ・アアルト	チェア・チャイナⅢ		1929年	インク、厚紙	39.8×40.0	トネット・ムンドウス社 の家具、コンパニオン
20	アルヴァ・アアルト	トート・テーブル		1929年	インク、厚紙	40.0×40.0	トネット・ムンドウス社 の家具、コンパニオン
21	不詳	特許「積み重ね可能なスチールパ イプ・チェア」		1932年申請、 1935年取得			Vitra Design Museum Archive, Anton Lorenz estate
22	不詳	トネット・ムンドウス社 アアルトに よる積層材の家具に関する書類		1934年9月10日			Vitra Design Museum Archive, Anton Lorenz estate
23	不詳	トネット兄弟商会、ベルリンアア ルト宛て書簡		1934年10月3日			Vitra Design Museum Archive, Anton Lorenz estate
24	アルヴァ・アアルト	特許「弾力性のある家具の開発 について」		1935年7月8日			Vitra Design Museum Archive, Anton Lorenz estate
25	アルヴァ・アアルト	特許「曲げ木の工程とその関連 製品の開発について」		1935年2月6日			Vitra Design Museum Archive, Anton Lorenz estate
26	アルヴァ・アアルト	特許「曲げ木の家具の製造方法 について」		1936年3月15日			オーストリア 特許庁 Vitra Design Museum Archive, Anton Lorenz estate
27	不詳	ギャラリーアルテックの展覧会招待状 フェ ルナン・レジェ&アレクサンダー・コールダー展		1937年			AAM/Artek Collection
28	不詳	ギャラリーアルテックの展覧会招 待状 フランス・グラフィック展		1938年			AAM/Artek Collection
29	不詳	ギャラリーアルテックの展覧会招待状 アレ クサンダー・コールダー&エイノ・E・マキネン展		1938年			AAM/Artek Collection
30	不詳	ギャラリーアルテックの展覧会招 待状 ボール・ゴギャン展		1938年			AAM/Artek Collection

31	不詳	ギャラリーアルテックの展覧会招待状 トールゲル・エンゲル&サム・ヴァンニ展	1944年		AAM/Artek Collection
32	不詳	ギャラリーアルテックの展覧会招待状 フランス・グラフィック展	1947年		AAM/Artek Collection
33	不詳	ギャラリーアルテックの展覧会招待状 ピカソ展	1948年		AAM/Artek Collection
34	不詳	ギャラリーアルテックの展覧会招待状 ゴーガン、マティス、モディリアーニ展	1952年		AAM/Artek Collection
35	不詳	ギャラリーアルテックの展覧会招待状 ル・コルビュジエ展	1953年		AAM/Artek Collection
36	不詳	フォートナム&メイソン百貨店、ロンドン、 フィンランド家具招待状	1933年		AAM/Artek Collection
37	不詳	スティルクレール社のカタログ	1935年		
38	不詳	ヴォンベダルフ社のカタログ『アルトの 新しい木製家具』	1933年		表紙デザイン ヘルベルト・イキ
39	不詳	アルテック社のカタログ	1930年代後半		AAM/Artek Collection
40	不詳	フィンズベン社の広告	1940年頃		AAM/Artek Collection
41	不詳	フィンズベン社のカタログ	1947年		AAM/Artek Collection
42	不詳	フィンマー社のカタログ	1947年頃		AAM/Artek Collection
43	不詳	メッツ&カンパニーのカタログ	1937年		AAM/Artek Collection
44	不詳	ニュー・ファーニチャー社のカタログ	1930年代後半		AAM/Artek Collection
45	不詳	フィンランド家具	1930-40年代		AAM/Artek Collection

## 5 自在な形

1	アイノ・アアルト	ピッチャー 4644	ボルゲブリック・シリーズ	1932年	カルフラ=イッタラ、型押しガラス	15.0×14.0×18.0	Artek Collection/Helsinki
2	アイノ・アアルト	タンブラー 4644	ボルゲブリック・シリーズ	1932年	カルフラ=イッタラ、型押しガラス	8.5×5.0×5.0	Artek Collection/Helsinki
3	アルヴァ・アアルト	5点組の器	リーヒマキの花	1933年	ガラス	38.0×40.0×40.0	Artek Collection/Helsinki
4	アイノ・アアルト	フルーツボウル 4279	ボルゲブリック・シリーズ	1936年	カルフラ=イッタラ、型押しガラス	7.4×30.0×30.0	Artek Collection/Helsinki
5	アルヴァ・アアルト	サヴォイ・ベース 9744		1937年	カルフラ=イッタラ、鑄造ガラス	23.0×30.5×30.5	Artek Collection/Helsinki
6	不詳	サヴォイ・ベースの型		1937年	木	36.0×39.0×41.0	Design Museum/Helsinki
7	アルヴァ・アアルト	ボウル 9746		1937年	カルフラ=イッタラ、鑄造ガラス	8.0×38.0×38.0	Artek Collection/Helsinki
8	アルヴァ・アアルト	サラダ・ディッシュ 9770		1939年	ガラス	1.5×38.0×38.0	Artek Collection/Helsinki
9	不詳	ニューヨーク万国博覧会フィンランド館、アメリカ、1939年	スタディ模型	1938年頃	厚紙、木		AAM
10	アルヴァ・アアルト	ニューヨーク万国博覧会フィンランド館、アメリカ、1939年	展示のための平面図	1939年	グラフィック、色鉛筆、トレーシングペーパー	37.5×137.8	AAM
11	アホ&ソルダン社		[スオミ・コリング] フィンランドにおいてアルト夫妻が上映した、アホ&ソルダン社撮影によるフィンランドのドキュメンタリー映像	1939年	映像		21分31秒 ©Jussi Brofeldt
12	備考参照	ニューヨーク万国博覧会フィンランド館、アメリカ、1939年	内観、オーロラの壁		エスト・フォトグラフィクス		撮影エズ・ステル photo:Ezra Stoller
13	備考参照	ニューヨーク万国博覧会フィンランド館、アメリカ、1939年	3D映像	2004年			トーマス・グスタフソン Tommy Gustafsson

## 6 融通性のある規格化と再構築

1~6	不詳	規格化住宅			写真		AAM
7~9	不詳	冊子[A talo (Aハウス)] アルトのA.A.システムに基づいて アルトの助手ポール・ベルヌリが発展させた規格化住宅Aハウス	1943年				AAM
10	アルヴァ・アアルト	ロヴァニエミの復興計画案、フィンランド、1944-45年(実現せず)	「トナカイの角」マスタープラン	1944年	ドローイングの写真	37.7×27.5	AAM
11	アルヴァ・アアルト		住宅地区計画	1944年	ドローイングの写真	37.2×23.8	AAM

## 7 照明—合理性と人間性

1	アルヴァ・アアルト	ペンダントランプA201	1951年頃	ラッカー仕上げのスチール、真鍮			
2	アルヴァ・アアルト	ペンダントランプA110	1952年	ラッカー仕上げのスチール、真鍮	35.0×17.0×17.0		
3	アルヴァ・アアルト	ペンダントランプA330	1953年	ラッカー仕上げのスチール			
4	アルヴァ・アアルト	ペンダントランプA330、ゴールデンベル	1953年	真鍮	22.0×18.0×18.0		
5	アルヴァ・アアルト	ペンダントランプA331、ビーハイヴ(ハチの巣)	1953年	ラッカー仕上げのアルミニウム、真鍮			AAM
6	アルヴァ・アアルト	ペンダントランプA333	1954年頃	ラッカー仕上げのスチール、真鍮	22.0×25.0×25.0		
7	アルヴァ・アアルト	ペンダントランプA335	1955-56年	ラッカー仕上げのスチール	42.0×30.0×30.0		
8	アルヴァ・アアルト	ペンダントランプA334	1956年頃	ラッカー仕上げのスチール、真鍮	42.0×22.0×22.0		
9	アルヴァ・アアルト	ペンダントランプA337	1956年頃	ラッカー仕上げのスチール	23×59×59		
10	アルヴァ・アアルト	ペンダントランプ	1957年頃	ラッカー仕上げのスチール			
11	アルヴァ・アアルト	ペンダントランプA338、 ビルベリー(コケモモ)	1958年頃	ラッカー仕上げのスチール	22.0×18.0×18.0		ルイ・カレ設計 のためにデザイン

12	アルヴァ・アアルト	ペンダントランプA111	1961年	ラッカー仕上げのスチール、真鍮	34.5×19.5×19.5	
13	ポール・ヘニングセン	ペンダントランプ	1927年	ニッケルメッキにスチール、艶消しガラス		

## 8 総合的建築

1	不詳	スニラバルブ工場と住宅地区、コトカ、フィンランド、1936-39年	模型	厚紙、ラッカー仕上げの合板	21.0×90.0×182.0	AAM
2	アルヴァ・アアルト	スニラバルブ工場と住宅地区、コトカ、フィンランド、1936-39年	配置図	複写、紙	94.0×76.0	AAM
3	不詳	アヴェスタの市民センター、スウェーデン、1944年(実現せず)	模型	木	5.0×34.8×45.8	AAM
4	アルヴァ・アアルト	アヴェスタの市民センター、スウェーデン、1944年(実現せず)	立面のスケッチ	グラフィイト、色鉛筆、トレーシングペーパー	30.0×76.5	AAM
5	不詳	サウナツァロのタウンホール、フィンランド、1949-52年	議会議場の天井構造の模型	木	15.0×35.5×37.5	AAM
6	アルヴァ・アアルト	サウナツァロのタウンホール、フィンランド、1949-52年	議会上の屋根構造のスケッチ	グラフィイト、トレーシングペーパー	29.7×61.0	AAM
7	アルヴァ・アアルト	サウナツァロのタウンホール、フィンランド、1949-52年	議会上の屋根構造のスケッチ	グラフィイト、トレーシングペーパー	29.7×61.0	AAM
8	アルヴァ・アアルト	サウナツァロのタウンホール、フィンランド、1949-52年	議会上の屋根構造のスケッチ	グラフィイト、トレーシングペーパー	29.7×61.0	AAM
9	アルヴァ・アアルト	サウナツァロのタウンホール、フィンランド、1949-52年	配置図	グラフィイト、墨、トレーシングペーパー	47.5×48.0	AAM
10	不詳	セイナヨキの市民センター、フィンランド、1958-87年	模型	厚紙、木	35.0×90.0×180.0	AAM
11	不詳	セイナヨキのタウンホールの建設	1961-62年	映像	9分34秒	セイナヨキ市提供
12	アルヴァ・アアルト	セイナヨキのタウンホール、フィンランド、1958-62年	立面図	グラフィイト、インク、トレーシングペーパー		AAM
13	備考参照	セイナヨキの市民センター、フィンランド、1958-87年	鳥瞰写真			Photo: Kalevi A. Mäkinen AAM
14	アルヴァ・アアルト	セイナヨキの市民センター、フィンランド、1958-87年	スケッチ	グラフィイト、トレーシングペーパー	59.0×87.0	AAM
15	アルヴァ・アアルト	ベーカーハウス学生寮(マサチューセッツ工科大学)、ケンブリッジ、アメリカ、1946-49年	透視図	グラフィイト、色鉛筆、紙	51.5×87.0	AAM
16	不詳	ハンザフィアテルの集合住宅、ベルリン、ドイツ、1955-57年	住宅の模型	厚紙、合板	13.0×47.0×50.0	AAM
17	ハンス・クルリス エバーハート・リスケ	「ヘルリン世界建築展」 「ハンザフィアテルの大規模建設工事現場」	1957年 1959年	映像	計約3分	
18	不詳	バグダッドの美術館、イラク、1957年頃(実現せず)	模型	厚紙		AAM
19	アルヴァ・アアルト	バグダッドの美術館、イラク、1957年頃(実現せず)	立面のスケッチ	グラフィイト、トレーシングペーパー	30.0×78.0	AAM
20	不詳	ヴォルフスブルクの文化センター、ドイツ、1958-62年	スタディ模型	厚紙、合板		AAM
21	アルヴァ・アアルト	ヴォルフスブルクの聖霊教会、ドイツ、1959-62年	平面、立面等のスケッチ	グラフィイト、トレーシングペーパー	29.0×80.0	AAM
22	アルヴァ・アアルト	ヴォルフスブルクの文化センター、ドイツ、1958-62年	透視図	グラフィイト、トレーシングペーパー	31.0×53.0	AAM
23	アルヴァ・アアルト	リオラの教会と教区センター、ヴェルガート、イタリア、1966-85年	配置図	グラフィイト、墨、トレーシングペーパー	42.0×82.0	AAM
24	アルヴァ・アアルト	リオラの教会と教区センター、ヴェルガート、イタリア、1966-85年	教会の外観写真			AAM
25	不詳	シラーズの美術館、イラン、1969年(実現せず)	天窓採光のある断面模型	厚紙、木版		AAM
26	アルヴァ・アアルト	シラーズの美術館、イラン、1969年(実現せず)	立面図	墨、インク、厚紙	26.4×38.9	AAM
27	アルヴァ・アアルト	シラーズの美術館、イラン、1969年(実現せず)	平面のスケッチ	グラフィイト、トレーシングペーパー	19.6×14.8	AAM
28	アルヴァ・アアルト	シラーズの美術館、イラン、1969年(実現せず)	断面のスケッチ	グラフィイト、トレーシングペーパー	29.6×42.0	AAM
29	アルヴァ・アアルト	シラーズの美術館、イラン、1969年(実現せず)	配置図	グラフィイト、トレーシングペーパー	30.0×41.8	AAM
30	不詳	国民年金局、ヘルシンキ、フィンランド、1948-56年	模型	木、厚紙	15.0×120.0×80.0	AAM
31	アルヴァ・アアルト	国民年金局、ヘルシンキ、フィンランド、1948-57年	地区計画図	墨、トレーシングペーパー	99.5×37.0	AAM
32	備考参照	国民年金局、ヘルシンキ、フィンランド、1948-57年	外観および内観写真			Photos: Heikki Havas AAM
33	備考参照	国民年金局、ヘルシンキ、フィンランド、1948-57年	外観および内観写真			Photos: Heikki Havas AAM
34	備考参照	国民年金局、ヘルシンキ、フィンランド、1948-57年	外観および内観写真			Photos: Heikki Havas AAM
35	備考参照	国民年金局、ヘルシンキ、フィンランド、1948-57年	外観および内観写真			Photos: Heikki Havas AAM
36	備考参照	国民年金局、ヘルシンキ、フィンランド、1948-57年	外観および内観写真			Photos: Heikki Havas AAM
37	備考参照	国民年金局、ヘルシンキ、フィンランド、1948-57年	外観および内観写真			Photos: Heikki Havas AAM
38	不詳	ヴォクセンニスカの三つ十字の教会、イマトラ、フィンランド、1955-58年	模型(天地反転)	合板		AAM
39	アルヴァ・アアルト	ヴォクセンニスカの三つ十字の教会、イマトラ、フィンランド、1955-58年	透視図と構造のスケッチ	グラフィイト、色鉛筆、トレーシングペーパー	60.0×88.0	AAM
40	不詳	フィンランディア・ホール、ヘルシンキ、フィンランド、1962-71年	模型	厚紙、合板		AAM
41	備考参照	フィンランディア・ホール、ヘルシンキ、フィンランド、1962-71年	水辺からの景観、その他の外観および内観写真			Photo: Aädräm Fethulla AAM
42	備考参照	フィンランディア・ホール、ヘルシンキ、フィンランド、1962-71年	水辺からの景観、その他の外観および内観写真			Photo: Aädräm Fethulla AAM

43	備考参照	フィンランディア・ホール、ヘルシンキ、フィンランド、1962-71年	水辺からの景観、その他の外観および内観写真			Photo: Achám Fethulla	AAM
44	備考参照	フィンランディア・ホール、ヘルシンキ、フィンランド、1962-71年	水辺からの景観、その他の外観および内観写真			Photo: Achám Fethulla	AAM
45	備考参照	フィンランディア・ホール、ヘルシンキ、フィンランド、1962-71年	水辺からの景観、その他の外観および内観写真			Photo: Achám Fethulla	AAM
46	不詳		家具の脚 Y-レッグ(L-レッグ)(1933年)の組み合わせ	1946-47年	バーチ材		AAM
47	不詳		レリーフの素材の一部 家具の脚としても使用した素材(マカロニ・レッグ)		木		AAM
48	不詳		家具の脚 X-レッグ	1954年	バーチ材		AAM
49	不詳		国民年金局の家具の脚	1956年	木、金属		AAM
50	不詳		国民年金局の家具の脚	1956年	木、金属		AAM
51	不詳		パイミオのサナトリウムのためのドアハンドル	1928-33年	金属		AAM
52	不詳		パイミオのサナトリウムのためのドアハンドル	1928-33年	金属		AAM
53	不詳		パイミオのサナトリウムのためのドアハンドル	1928-33年	金属		AAM
54	不詳		ラウタ・タロ事務所ビルのために初めて使用されたドアハンドル	1951-55年	ブロンズ		AAM
55	不詳		ラウタ・タロ事務所ビルのために初めて使用されたドアハンドル	1951-55年	ブロンズ		AAM
56	不詳		棚の支え	1938年頃	バーチ材		AAM
57	不詳		文化の家のためのレンガ(プロトタイプ)	1956年			AAM
58	不詳		文化の家のためのレンガ(プロトタイプ)	1956年			AAM
59	不詳		文化の家のためのレンガ(プロトタイプ)	1956年			AAM
60	不詳		内壁および外壁用のタイル		釉薬をかけた陶		AAM
61	不詳		内壁および外壁用のタイル		釉薬をかけた陶		AAM
62	不詳		内壁および外壁用のタイル		釉薬をかけた陶		AAM
63	不詳		内壁および外壁用のタイル		釉薬をかけた陶		AAM
64	不詳		内壁および外壁用のタイル		釉薬をかけた陶		AAM
65	不詳	フィンランディア・ホール、ヘルシンキ、フィンランド、1962-71年	会議棟のファサードのためのスタディ模型		木、厚紙		AAM
66	アルヴァ・アアルト	アアルトの夏の家(実験住宅)、ムーラツァロ、フィンランド、1952-54年	平面図		墨、トレーシングペーパー	39.7×65.2	AAM
67	アルヴァ・アアルト	アアルトの夏の家(実験住宅)、ムーラツァロ、フィンランド、1952-54年	断面図		墨、トレーシングペーパー	29.8×48.7	AAM
68	アルヴァ・アアルト	文化の家、ヘルシンキ、フィンランド、1952-58年	配置図のスケッチ		グラファイト、トレーシングペーパー	29.8×65.5	AAM
69	アルヴァ・アアルト	国民年金局、ヘルシンキ、フィンランド、1948-56年	棒状のタイルのドローイング		グラファイト、トレーシングペーパー		AAM

## アルミン・リンケによる建築写真

1	アルミン・リンケ	パイミオのサナトリウム、フィンランド、1928-33年	2014年	Cプリント、アルディボンド板
2	アルミン・リンケ	ヴィープリ(ヴィーボルグ)の図書館、ロシア、1927-35年	2014年	Cプリント、アルディボンド板
3	アルミン・リンケ	マイレア邸、ノールマルック、フィンランド、1938-39年	2014年	Cプリント、アルディボンド板
4	アルミン・リンケ	ヴェネツィア・ピエンナーレのフィンランド館、イタリア、1955-56年	2014年	Cプリント、アルディボンド板
5	アルミン・リンケ	ルイ・カレ邸、バゾシュ＝シュル＝ギヨンヌ、フランス、1956-59年	2014年	Cプリント、アルディボンド板
6	アルミン・リンケ	アルヴァ・アアルトのスタジオ、ヘルシンキ、フィンランド、1954-56年	2014年	Cプリント、アルディボンド板
7	アルミン・リンケ	文化の家、ヘルシンキ、フィンランド、1952-58年	2014年	Cプリント、アルディボンド板
8	アルミン・リンケ	ヴォクセンニスカの三つ十字の教会、イマトラ、フィンランド、1955-58年	2014年	Cプリント、アルディボンド板
9	アルミン・リンケ	セイナヨキのタウンホールと教会、フィンランド、1958-62年	2014年	Cプリント、アルディボンド板
10	アルミン・リンケ	ヴォルフスブルクの文化センター、ドイツ、1958-62年	2014年	Cプリント、アルディボンド板
11	アルミン・リンケ	ヴォルフスブルクの聖霊教会、ドイツ、1959-62年	2014年	Cプリント、アルディボンド板
12	アルミン・リンケ	アアルトの夏の家(実験住宅)、ムーラツァロ、フィンランド、1952-54年	2014年	Cプリント、アルディボンド板

\*所蔵表記のないものは、すべてヴァイトラ・デザイン・ミュージアム所蔵。

\*アルヴァ・アアルト美術館はAAMと略記した。

# 辰野登恵子 ON PAPERS: A Retrospective 1969-2012

TOEKO TATSUNO ON PAPERS:  
A Retrospective 1969-2012

会期：2019年2月16日(土)～3月31日(日)

## 会場

企画展示室1・2 及び 常設展示室3

## 主催

名古屋市美術館、中日新聞社

## 後援

愛知県・岐阜県各教育委員会、名古屋市立小中学校PTA協議会

## 協力

名古屋市交通局

## 観覧料

一般1,200円、高大生700円、中学生以下無料

## 内容

辰野登恵子(1950-2014)は長野県岡谷市に生まれ、東京藝術大学に学んだ後、1970年代にドット(点)やグリッド(格子)、ストライプなどの規則的なパターンを用いたミニマルな版画作品を発表し、若くして注目を集めた。主な表現手法を油彩へと転換した1980年前後からは、有機的な形象を大型のキャンバスに描いた作品で抽象絵画における新たな展開を見せ、晩年まで精力的に発表し続けた。画風の大きな転換点であった1980年代半ばには、1年ほど名古屋で滞在制作を行った経験を持ち、当地で活躍する作家との交流も少なくない。本展示会は回顧展の形を取り、これまでまとまった展覧の機会が限られてきた版画やドローイングなど紙の上(=オン・ペーパーズ)の仕事に焦点を当てながら、約220点の作品を通して40年余りにわたる彼女の画業を再解釈することを目指した。

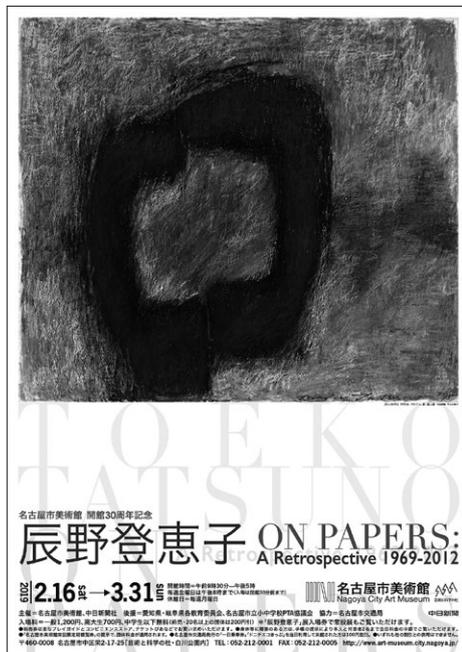
## 図録

29.2×22.5cm、288頁

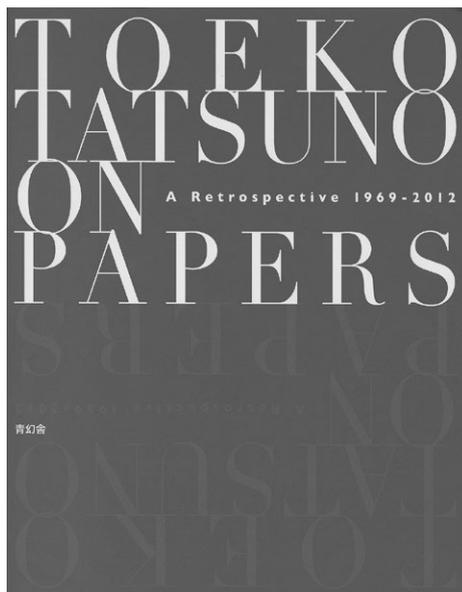
編集：埼玉県立近代美術館、名古屋市美術館

発行：青幻舎

\*本図録は、2018年美連協大賞において「優秀カタログ賞」を受賞した。



ポスター



図録

## 関連事業

### ①記念対談

日時：2月24日(日)午後2時～午後3時30分

会場：名古屋市美術館2階講堂

講師：柴田敏雄(写真家)、南雄介(愛知県美術館長)



記念対談

### ②解説会

日時：3月3日(日)午後2時～午後3時30分

会場：名古屋市美術館2階講堂

講師：清家三智(名古屋市美術館学芸員)

### ③ロビーコンサート

日時：3月9日(土)午後2時～

会場：名古屋市美術館地階ロビー

演奏：加藤恵利子(ソプラノ)、吉岡秀和(ヴァイオリン/セントラル愛知交響楽団)、本橋裕(チェロ/セントラル愛知交響楽団)、筒井恵美(ピアノ)



ロビーコンサート

### ④ファミリーアワー(事前申込制)

日時：3月24日(日)午前10時～午前11時30分

3月27日(水)午前10時～午前11時30分

会場：名古屋市美術館2階講堂ならびに特別展会場

対象：乳幼児および現在妊娠中の方とご家族



ファミリーアワー

### ⑤こども向けワークショップ「身体で楽しむカタチ」(事前申込制)

日時：3月30日(土)午後1時～午後4時

会場：名古屋市美術館2階講堂ならびに特別展会場

講師：柏木陽(NPO演劇百貨店)

対象：小学4年生から中学生



ワークショップ

## 出品作品

no.	タイトル	制作年	技法、素材	寸法(cm)	所蔵先
1	Stones	1969	油彩、カンヴァス	140.0×107.0	個人蔵
2	Self portrait	1970	アクリル・シルクスクリーン、カンヴァス(パネルに貼付)	170.0×91.8	個人蔵
3	無題	1970	アクリル・シルクスクリーン、カンヴァス(パネルに貼付)	162.0×130.0	個人蔵
4	無題	1970	アクリル、カンヴァス、コラージュ	162.0×130.0	個人蔵
5	無題	1971	アクリル、カンヴァス	130.0×97.0	個人蔵
6	無題	1971	アクリル、板	200.0×97.0	個人蔵
7	9つの長方形	1971	アクリル、カンヴァス	130.0×97.0	個人蔵
8	作品II	1972	シルクスクリーン、紙	63.0×93.5	個人蔵
9	作品III	1972	シルクスクリーン、紙	63.0×93.5	個人蔵
10-1	無題	1973	シルクスクリーン、紙	69.5×52.2	個人蔵
10-2	無題	1973	シルクスクリーン、紙	70.0×52.2	個人蔵
10-3	無題	1973	シルクスクリーン、紙	70.5×52.0	個人蔵
10-4	無題	1973	シルクスクリーン、紙	70.0×52.0	個人蔵
11	作品 73-1	1973	シルクスクリーン、紙	63.0×47.0	個人蔵
12	作品 73-2	1973	シルクスクリーン、和紙	71.0×53.0	個人蔵
13	作品 73-3	1973	シルクスクリーン、和紙	91.0×62.0	個人蔵
14	D74-10	1974	シルクスクリーン、紙	53.5×54.0	個人蔵
15	D74-11	1974	シルクスクリーン、紙	53.5×54.0	個人蔵
16	無題	1974	シルクスクリーン、紙	90.8×69.5	個人蔵
17	D74-1	1974	シルクスクリーン、紙	81.5×61.5	個人蔵
18	D74-2	1974	シルクスクリーン、紙	85.0×61.5	個人蔵
19	D74-4	1974	シルクスクリーン、紙	89.0×63.0	個人蔵
20	D74-7	1974	シルクスクリーン、紙	93.5×67.0	個人蔵
21	D74-8	1974	シルクスクリーン、紙	84.5×65.8	個人蔵
22	D74-9	1974	シルクスクリーン、紙	89.5×64.0	個人蔵
23	無題	不詳(c.1974)	シルクスクリーン・鉛筆・色鉛筆・水彩、紙	68.0×40.0	個人蔵
24	UNTITLED-32	1974	シルクスクリーン、紙	103.0×65.0	個人蔵
25	UNTITLED-33	1974	シルクスクリーン、紙	103.0×65.0	個人蔵
26	UNTITLED-34	1974	シルクスクリーン、紙	104.5×68.0	個人蔵
27	UNTITLED-35	1974	シルクスクリーン、紙	105.0×56.0	個人蔵
28	UNTITLED-36	1974	シルクスクリーン、紙	105.0×59.5	個人蔵
29	UNTITLED-31	1974	シルクスクリーン、紙	107.0×66.0	個人蔵
30	UNTITLED-45	1974	シルクスクリーン、紙	107.5×66.0	個人蔵
31	UNTITLED-40	1974	シルクスクリーン、紙	107.8×65.8	個人蔵
32	UNTITLED-38	1974	シルクスクリーン、紙	106.0×55.0	個人蔵
33	UNTITLED-38-1	1974	シルクスクリーン、紙	103.0×59.8	個人蔵
34	UNTITLED 74-50	1974	シルクスクリーン、紙	69.5×89.5	個人蔵
35	UNTITLED 74-51	1974	シルクスクリーン、紙	69.5×89.5	個人蔵
36	No.3	1977	鉛筆、紙	99.5×68.6	個人蔵
37	無題	1977	木炭・鉛筆・水彩、紙	100.5×71.2	個人蔵
38	No.9	不詳(c.1977)	鉛筆・紙	74.5×55.5	個人蔵
39	WORK 76-D-5	1976	シルクスクリーン、紙	75.0×56.0	個人蔵(埼玉県立近代美術館寄託)
40	WORK 77-5	1977	シルクスクリーン、紙	70.8×100.0	個人蔵
41	MEM-K6	1975	シルクスクリーン・鉛筆、紙	97.0×78.8	個人蔵
42	MEM-K3	1975	シルクスクリーン、紙	71.6×94.7	個人蔵
43	WORK 76-K-20	1976	シルクスクリーン、紙	95.0×79.5	個人蔵
44	WORK 76-K-35	1976	シルクスクリーン、紙	73.0×91.5	個人蔵
45	WORK 77-10-2	1977	シルクスクリーン、紙	74.0×108.0	個人蔵
46	WORK 77-D-10	1977	シルクスクリーン・鉛筆、紙	74.2×100.8	個人蔵
47	無題	不詳(c.1977)	鉛筆・色鉛筆・ペン、紙	56.0×72.5	個人蔵
48	Pink, Grey, Black	1977	シルクスクリーン(画面の剥がし)、紙	74.3×108.3	個人蔵
49	WORK 77-N-1	1977	シルクスクリーン(画面の剥がし)、紙	73.5×108.0	個人蔵
50	WORK 77-10-1	1977	シルクスクリーン・木炭・鉛筆、紙	70.5×94.5	個人蔵
51	WORK 78-9-30	1978	色鉛筆・水彩、紙	100.0×70.0	個人蔵
52	WORK 77-16-4	1977	シルクスクリーン・鉛筆、紙	79.0×100.0	個人蔵
53	無題	不詳(c.1978)	鉛筆・色鉛筆、紙	56.8×75.8	個人蔵
54	WORK 78-16-5	1978	鉛筆、紙	70.0×100.0	個人蔵
55	WORK 78-16-4	1978	シルクスクリーン・鉛筆、紙	70.8×100.0	個人蔵
56	WORK 79-D-1	1979	シルクスクリーン・鉛筆、紙	70.0×100.0	個人蔵
57	WORK 78-P-1	1978	アクリル、カンヴァス	130.0×162.0	個人蔵

58	WORK 78-P-6	1978	アクリル、麻布(パネルに貼付)	130.0×162.0	個人蔵
59	WORK 78-P-14	1978	油彩、カンヴァス(2枚組)	左162.0×113.0 右162.0×132.0	個人蔵
60	無題	1976	水彩・鉛筆・色鉛筆(画面の剥がし)、紙	70.8×100.0	個人蔵
61	UNTITLED N-79	1979	シルクスクリーン、紙	83.7×132.0	個人蔵(埼玉県立近代美術館寄託)
62	UNTITLED T-79	1979	シルクスクリーン、紙	83.7×132.0	個人蔵(埼玉県立近代美術館寄託)
63	WORK 80-N-1	1980	シルクスクリーン、紙	70.0×100.0	個人蔵(埼玉県立近代美術館寄託)
64	WORK 80-N-2	1980	シルクスクリーン、紙	70.0×100.0	個人蔵(埼玉県立近代美術館寄託)
65	WORK 80-P-16	1980	油彩、カンヴァス	182.0×227.0	個人蔵
66	WORK 80-P-18	1980	油彩、カンヴァス	182.0×227.0	千葉市美術館
67	WORK 80-P-21	1980	油彩、カンヴァス	100.0×80.3	個人蔵
68	WORK 80-P-22	1980	油彩、カンヴァス	162.0×130.0	個人蔵
69	無題	1980	シルクスクリーン・油彩・色鉛筆、紙	50.0×66.0	個人蔵
70	無題	1983	オイルスティック・水彩、紙、コラージュ	70.0×100.0	個人蔵
71	無題	1983	水彩、紙、コラージュ	69.5×100.0	個人蔵
72	無題	1983	水彩、紙、コラージュ	69.5×99.0	個人蔵
73	無題	1983	オイルスティック・水彩、紙	70.5×100.0	個人蔵
74	無題	1983	オイルスティック・水彩、紙	70.5×100.0	個人蔵
75	無題	1983	オイルスティック・水彩、紙	70.5×100.0	個人蔵
76	無題	1983	オイルスティック・水彩、紙	70.5×100.0	個人蔵
77	WORK 81-P-26	1981	油彩、カンヴァス	162.0×130.0	個人蔵
78	WORK 83-P-2	1983	油彩、カンヴァス	182.0×227.0	国立国際美術館
79	WORK 83-P-4	1983	油彩、カンヴァス	162.0×110.0	個人蔵
80	WORK 82-P-36	1982	油彩、カンヴァス	182.0×227.0	個人蔵
81	WORK 83-P-5	1983	油彩、カンヴァス	162.0×130.0	個人蔵
82	WORK 81-D-30	1981	油彩・パステル・水彩・鉛筆、紙	100.0×75.0	個人蔵
83	WORK 81-D-31	1981	油彩・パステル・水彩・鉛筆、紙	100.0×75.0	個人蔵
84	WORK 81-D-32	1981	油彩・パステル・水彩・鉛筆・色鉛筆、紙	100.0×75.0	個人蔵
85	無題	1981	油彩・パステル・鉛筆、紙	75.5×56.5	個人蔵
86	無題	1981	油彩・パステル・鉛筆、紙	70.0×52.0	個人蔵
87	無題	1982	パステル・水彩、紙	75.5×56.5	個人蔵
88	無題	1982	パステル、紙	67.0×49.0	個人蔵
89	無題	1982	パステル・水彩、紙	76.2×57.5	個人蔵
90	無題	不詳(c. 1982)	パステル、紙	94.0×67.0	個人蔵
91	WORK 83-D-7	1983	パステル、紙	76.4×56.8	個人蔵
92	UNTITLED-I	1982	ドライポイント・シュガー・アクアチント、紙	76.2×57.2	個人蔵
93	UNTITLED-II	1982	ドライポイント・シュガー・アクアチント、紙	76.3×57.5	個人蔵
94	UNTITLED-III	1982	エッチング、紙	75.6×56.5	個人蔵
95	UNTITLED-IV	1982	エッチング、紙	76.5×57.0	個人蔵
96	UNTITLED-V	1982	ドライポイント、紙	76.5×57.0	個人蔵
97	UNTITLED-VI	1982	ドライポイント、紙	76.5×57.0	個人蔵
98	UNTITLED-VII	1982	エッチング・アクアチント・ディープエッチング、紙	76.2×57.0	個人蔵
99	UNTITLED-VIII	1982	エッチング・アクアチント・ディープエッチング、紙	76.0×56.5	個人蔵
☆	WORK 86-P-12	1986	油彩、カンヴァス	291.0×218.0	名古屋市美術館
100	WORK 87-P-42	1987	油彩、カンヴァス	259.0×194.0	個人蔵
101	UNTITLED 94-11	1989	油彩、カンヴァス	227.0×182.0	個人蔵
102	UNTITLED 90-13	1990	油彩、カンヴァス	259.0×194.0	個人蔵
103	UNTITLED 91-21	1991	油彩、カンヴァス	227.0×182.0	国立国際美術館
104	無題	不詳(c. 1995)	パステル、紙	75.5×96.0	個人蔵
105	無題	不詳(c. 1995)	パステル、紙	65.5×76.0	個人蔵
106	無題	不詳(c. 1995)	パステル、紙	65.4×76.0	個人蔵
107	無題	不詳(c. 1996-97)	油彩・パステル、紙	76.0×57.5	個人蔵
108	無題	不詳(c. 1996-97)	油彩・パステル、紙	76.0×57.5	個人蔵
109	Oct-20-95	1995	パステル、紙	66.4×75.4	個人蔵
110	UNTITLED 95-11	1995	油彩、カンヴァス	182.0×227.0	個人蔵
111	Sept-7-2000	2000	パステル、紙	76.5×57.5	個人蔵
112	無題	不詳(c. 1998)	パステル・水彩、紙	76.5×57.0	個人蔵
113	無題	不詳(c. 1998)	パステル、紙	76.0×57.0	個人蔵
114	無題	不詳(c. 2000-01)	パステル・水彩、紙	76.0×57.0	個人蔵
115	無題	不詳	パステル・水彩、紙	76.0×57.0	個人蔵
116	Aug-2-2003	2003	油彩、カンヴァス	291.0×218.0	個人蔵
117	May-24-2007	2007	アクリル、カンヴァス	162.0×130.0	個人蔵
118	無題	不詳(c. 2004-05)	油彩・パステル、紙	30.0×34.5	個人蔵

119	無題	不詳(c.2004-05)	油彩、紙	53.0×46.0	個人蔵
120	Pink line-Purple line III	2007	油彩、カンヴァス	162.0×130.0	個人蔵
121	無題	不詳	パステル・水彩、紙	88.0×66.0	個人蔵
122	無題	不詳	パステル、紙	75.0×56.5	個人蔵
123	Feb-26-2008	2008	パステル、紙	77.0×57.5	個人蔵
124	March-3-98	1998	油彩、カンヴァス	291.0×218.0	国立国際美術館
125	April-19-2001	2001	油彩、カンヴァス	66.2×53.0	個人蔵
126	Oct-1-98	1998	水彩・鉛筆・コンテ、紙	26.0×20.0	個人蔵
127	Oct-2-98	1998	鉛筆、紙	25.8×20.2	個人蔵
128	Oct-10-98	1998	鉛筆・コンテ、紙	25.0×20.0	個人蔵
129	Oct-11-98	1998	鉛筆・コンテ、紙	25.0×20.0	個人蔵
130	F. T-1-2005	2005	油彩、紙	53.0×45.5	個人蔵
131	F. T-2-2005	2005	油彩・木炭、紙	45.5×53.0	個人蔵
132	F. T-3-2005	2005	油彩・パステル・木炭、紙	45.5×53.0	個人蔵
133	F. T-4-2006	2006	パステル・木炭、紙	45.5×53.0	個人蔵
134	F. T-5-2006	2006	木炭、紙	45.5×53.0	個人蔵
135	F. T-6-2006	2006	油彩・木炭、紙	45.5×53.0	個人蔵
136	F. T-7-2006	2006	油彩・鉛筆、紙	45.5×53.0	個人蔵
137	F. T-8-2006	2006	木炭、紙	30.0×34.5	個人蔵
138	F. T-9-2006	2006	木炭、紙	30.0×34.5	個人蔵
139	F. T-10-2006	2006	木炭、紙	30.0×34.5	個人蔵
140	F. T-11-2006	2006	油彩・パステル、紙	30.0×34.5	個人蔵
141	F. T-12-2006	2006	パステル・木炭、紙	30.0×34.5	個人蔵
142	F. T-13-2006	2006	油彩・木炭、紙	34.5×30.0	個人蔵
143	F. T-14-2006	2006	パステル・木炭、紙	30.0×34.5	個人蔵
144	F. T-15-2006	2006	油彩・コンテ、紙	28.5×25.0	個人蔵
145	F. T-16-2006	2006	油彩・木炭、紙	25.0×28.5	個人蔵
146	F. T-17-2006	2006	木炭、紙	25.0×28.5	個人蔵
147	F. T-18-2006	2006	木炭、紙	25.0×28.0	個人蔵
148	F. T-19-2006	2006	油彩・パステル、紙	45.5×53.0	個人蔵
149	F. T-20-2006	2006	油彩、紙	25.0×28.5	個人蔵
150	F. T-21-2006	2006	油彩、紙	25.0×28.5	個人蔵
151	F. T-22-2006	2006	油彩、紙	25.0×28.5	個人蔵
152	F. T-23-2006	2006	木炭、紙	28.5×25.5	個人蔵
153	F. T-24-2006	2006	油彩・木炭、紙	28.5×25.5	個人蔵
154	F. T-25-2006	2006	油彩、紙	28.5×25.0	個人蔵
155	F. T-26-2006	2006	油彩、紙	28.5×25.5	個人蔵
156	F. T-27-2006	2006	油彩、紙	25.5×28.5	個人蔵
157	F. T-28-2006	2006	油彩、紙	26.0×29.0	個人蔵
158	F. T-29-2006	2006	油彩、紙	26.0×29.0	個人蔵
159	F. T-30-2006	2006	油彩、紙	26.0×29.0	個人蔵
160	F. T-31-2006	2006	鉛筆、紙	33.0×34.8	個人蔵
161	F. T-32-2006	2006	鉛筆・色鉛筆、紙	34.0×33.0	個人蔵
162	F. T-33-2006	2006	パステル、紙	34.0×33.0	個人蔵
163	F. T-34-2006	2006	鉛筆、紙	31.0×35.2	個人蔵
164	F. T-35-2006	2006	油彩、紙	33.0×34.0	個人蔵
165	F. T-36-2006	2006	木炭、紙	33.0×34.0	個人蔵
166	F. T-37-2006	2006	油彩、紙	33.0×34.0	個人蔵
167	F. T-38-2006	2006	油彩、紙	35.0×33.0	個人蔵
168	F. T-39-2006	2006	木炭・鉛筆、紙	33.0×34.0	個人蔵
169	F. T-40-2006	2006	油彩、紙	34.5×32.5	個人蔵
170	F. T-41-2006	2006	油彩、紙	43.7×53.0	個人蔵
171	F. T-42-2006	2006	鉛筆、紙	25.3×28.3	個人蔵
172	F. T-43-2006	2006	鉛筆、紙	32.2×34.2	個人蔵
173	F. T-44-2006	2006	テンペラ、ボード	36.4×47.5	個人蔵
174	F. T-45-2006	2006	油彩、紙	44.0×50.5	個人蔵
175	F. T-46-2006	2006	パステル・色鉛筆、紙	38.3×45.0	個人蔵
176	F. T-47-2006	2006	油彩、紙	32.0×40.5	個人蔵
177	F. T-48-2006	2006	油彩、紙	32.0×40.5	個人蔵
178	F. T-49-2006	2006	パステル、紙	34.3×32.4	個人蔵
179	F. T-50-2006	2006	パステル、紙	34.3×32.4	個人蔵
180	F. T-51-2006	2006	パステル、紙	34.3×32.5	個人蔵
181	F. T-52-2006	2006	油彩・パステル、紙	45.4×53.0	個人蔵

182 AIWIP-2	2011	リトグラフ、紙	76.3×56.5	個人蔵
185 版画AIWIP-2と5の下絵	2011	木炭、紙	66.0×51.0	個人蔵
186 AIWIP-7	2011	リトグラフ、紙	76.0×56.5	個人蔵
187 版画AIWIP-7の下絵	2011	木炭、紙	66.0×51.0	個人蔵
188 AIWIP-9	2011	リトグラフ、紙	63.2×88.5	個人蔵
189 版画AIWIP-9の下絵	2011	油彩・パステル・木炭、紙	66.0×90.0	個人蔵
190 AIWIP-16	2011	リトグラフ、紙	76.0×56.5	個人蔵
191 版画AIWIP-16の下絵	2011	パステル・木炭、紙	86.0×62.5	個人蔵
192 AIWIP-17	2011	リトグラフ、紙	60.0×77.0	個人蔵
193 版画AIWIP-17の下絵	2011	木炭、紙	51.0×66.0	個人蔵
194 AIWIP-18	2011	リトグラフ、紙	95.0×67.0	個人蔵
195 AIWIP-19	2011	リトグラフ、紙	95.0×67.0	個人蔵
196 版画AIWIP-18と19の下絵	2011	パステル・木炭、紙	90.0×66.0	個人蔵
198 版画AIWIP-18と19の下絵	2011	パステル、紙	76.0×56.8	個人蔵
199 版画AIWIP-18と19の下絵	2011	パステル、紙	76.5×57.0	個人蔵
200 版画AIWIP-18と19の下絵	2011	パステル・木炭、紙	90.0×66.0	個人蔵
203 AIWIP-22	2012	リトグラフ、紙	79.5×61.0	個人蔵
204 版画AIWIP-22の下絵	2012	パステル、紙	83.0×63.0	個人蔵
206 AIWIP-23	2012	リトグラフ、紙	65.0×51.0	個人蔵
207 版画AIWIP-23の下絵	2012	パステル、紙	66.0×51.0	個人蔵
208 AIWIP-25	2012	リトグラフ、紙	69.3×87.0	個人蔵
209 版画AIWIP-25の下絵	2012	木炭、紙	63.2×82.2	個人蔵
210 AIWIP-26	2012	リトグラフ、紙	20.1×38.0	個人蔵
211 AIWIP-28	2012	リトグラフ、紙	49.3×65.5	個人蔵
212 版画AIWIP-26と28の下絵	2012	パステル、紙	45.0×65.0	個人蔵
213 版画AIWIP-26と28の下絵	2012	パステル、紙	45.0×65.0	個人蔵
214 AIWIP-27	2012	リトグラフ、紙	73.0×56.3	個人蔵
215 望まれる領域I	2012	油彩、カンヴァス	162.0×130.0	国立国際美術館

no. は図録所収の出品リストに準拠、会場の都合により一部出品しなかったものがある。

なお、☆を付した名古屋市美術館所蔵の辰野作品は、当館会場でのみ紹介した。

名古屋市美術館では、美術鑑賞の楽しさや面白さを体験できる美術館を目指して、今年度も来館者の皆さんからの多様な要望に応えられるように多彩な教育プログラムを実施しました。

一般向けとしては、「モネ それからの100年」開催にあわせ、出品作家である松本陽子氏に「モネの色彩と光」と題して、作家の眼を通して見てきたモネの作品の魅力をお話いただきました。続く「至上の印象派展 ビュールレ・コレクション」では、大原美術館館長の高階秀爾氏に「エミール・ビュールレと大原孫三郎 東西の大コレクター」と題してご講演いただきました。大原美術館設立の話から始まり、双方のコレクションの作品を紹介しながらその特色を丁寧にご説明いただきました。今年度は開館30周年にあたり、10月から開催したコレクションによる特別展「ザ・ベスト・セレクション」にあわせて、テレビ、ラジオ、雑誌など幅広くご活躍の山田五郎氏による記念講演会を開催しました。エコール・ド・パリの画家の話を中心に、山田氏の体験も交えての話を参加者は興味深く聞いていました。12月から開催した「アルヴァ・アアルト もうひとつの自然」では、建築史家の和田菜穂子氏に「アアルトの住宅と理想の暮らし」と題して、また、2月からの「辰野登恵子 ON PAPERS: A Retrospective 1969-2012」では、辰野登恵子と長い親交を持つ写真家の柴田敏雄氏と2012年に二人の展覧会を企画した南雄介氏による記念対談を実施しました。また、各特別展開催にあわせて、担当学芸員による解説会を実施しました。

毎年恒例となった名古屋市美術館の学芸員による研究発表の場としての「コレクション解析学」は全5回（ティナ・モドッティ、赤瀬川原平、マグダレーナ・アバカノヴィッチ、海老原友忠、アメデオ・モディリアーニ）を実施しました。

今年度は、セントラル愛知交響楽団から演奏者を迎えてのコンサートを4回実施しました。いずれも多くのお客様にご好評いただきました。また常設展示「名古屋のパフォーマンス：追悼岩田信市と岸本清子」の開催にあわせて愛知県美術館と共催で上映会を実施しました。

次に、子ども向けの教育普及事業です。「夏休み こどもの美術館」では、「どこがおもしろい?! スペシャル」と題して、常設展示で実施している「どこがおもしろい?!」を発展させた参加型のプログラムを実施しました。期間中には事前申込制のワークショップと、外部の研究者の協力を得て大人のための「こどもの見方を知る」講座を実施しました。

また、学校休業日の体験活動の推進のための美術鑑賞プログラム「美術をたのしむプログラム」を今年度も実施しました。美術館の建物を様々な角度から見て、スケッチし参加者で意見交換する「虫の目、鳥の目、びじゅつの目」と白川公園内に設置されている立体作

品に注目しながら“発見”を楽しむ「びじゅつかんは玉手箱」をそれぞれ2回ずつ実施しました。また、常設展示で紹介している作品から作成したぬり絵を土日祝日に配布しました。5月、9月の連休には、簡易授乳スペース「ちびっこオアシス」を設置しました。

芸術と科学の杜のサイエンス&アートフェスティバル（11月3日、4日開催）においてアート大会を実施。美術作家の山口百子さんを迎えて「カラフルパウダーで地層を作ろう！」をはじめとしたプログラムに2日間で1,777名が参加しました。

学校との連携による教育普及事業「出前アート体験」では、今年度は「名画の秘密をさぐる」のプログラムを4校、「アートカードで学ぼう」をガイドボランティアの支援を得て3校で実施しました。また、就業・職業・職場体験および職場訪問では、のべ20校、総計89名を受け入れました。今年度のトワイライトスクール/ルームは、全2校総計90名が参加しました。ガイドボランティアによる常設展のガイドトークを受けた名古屋市内の小中学校児童・生徒たちは563名。充実した美術鑑賞の体験をしています。名古屋市美術館が開発した美術鑑賞補助教材「アートカード」の貸出は、今年度は、美術館と保管校から総計22件、55セットでした。

名古屋市教育センターの依頼で実施している教師のための研修会は、7月30日と8月6日の2回実施し、合計123名の参加がありました。

このように名古屋市美術館が積極的な教育普及事業を展開できるのは、ガイドボランティアの活動に支えられているからです。名品コレクション展でのギャラリートークを基本として、「出前アート体験」の支援、常設展の学校団体向けガイドトークの実施、ボランティア養成講座のサポートを行う教育活動など、幅広い分野で活動を行っています。平成30年度、総計79名のボランティアが活動しました。

学生向け優待事業としては、美術館学生メンバーに平成31年3月末現在5校が加入しています。今年度は学生向けの特別展の解説会を2回実施し、合計45名の参加者がありました。高校生サポーター事業も継続しています。

美術館の活動を支援することを目的とした美術愛好家の会である名古屋市美術館協力会では、春・秋の「美術館見学ツアー」や近郊の美術館への「美術鑑賞ミニツアー」を積極的に実施しました。オリジナル・カレンダーは、松本陽子氏に作成を委嘱しました。

この他に、美術書や画集・展覧会カタログが充実した図書室の利用者も年間で15,656名になっています。出版関係では、多彩で豊富な記事が好評の美術館ニュース「アートペーパー」（第108～110号）を発行しました。この他に「年報」「年間案内」を刊行しました。

# 1. 一般成人対象の事業

## (1) 講演会・解説会

年月日	時刻	内容	講師等	場所	参加者
30年5月12日(土)	午後2時～	「モネ それからの100年」展 作品解説会	深谷克典(名古屋市美術館副館長)	講堂	180
30年5月20日(日)	午後2時～	「モネ それからの100年」展 記念講演会	松本陽子(画家・本展出品作家)	講堂	180
30年6月17日(日)	午後2時～	「モネ それからの100年」展 作品解説会	深谷克典(名古屋市美術館副館長)	講堂	180
30年8月3日(金)	午後4時～	高校生限定作品解説会	深谷克典(名古屋市美術館副館長)	講堂	6
30年8月3日(金)	午後6時～	学生メンバーズ特別鑑賞会	深谷克典(名古屋市美術館副館長)	講堂	41
30年8月5日(日)	午後2時～	「至上の印象派展 ビュールレ・コレクション」 記念講演会	高階秀爾(大原美術館館長)	講堂	180
30年8月18日(土)	午後2時～	「至上の印象派展 ビュールレ・コレクション」 作品解説会	深谷克典(名古屋市美術館副館長)	講堂	180
30年8月24日(金)	午後4時～	高校生限定作品解説会	深谷克典(名古屋市美術館副館長)	講堂	4
30年9月15日(土)	午後2時～	「至上の印象派展 ビュールレ・コレクション」 作品解説会	深谷克典(名古屋市美術館副館長)	講堂	160
30年10月20日(土)	午後2時～	「ザ・ベスト・セレクション」展 コレクション四方山話	深谷克典(名古屋市美術館副館長)	講堂	60
30年11月9日(金)	午後6時～	「ザ・ベスト・セレクション」展 コレクション四方山話	保崎裕徳(名古屋市美術館学芸係長)	講堂	45
30年11月10日(土)	午後2時～	名古屋市美術館開館30周年記念 特別講演会	山田五郎(編集者・評論家)、深谷克典(名古屋市美術館副館長)	科学館 サイエンスホール	320
30年11月24日(土)	午後2時～	「ザ・ベスト・セレクション」展 コレクション四方山話	保崎裕徳(名古屋市美術館学芸係長)	講堂	70
30年12月16日(日)	午後2時～	「アルヴァ・アアルト もうひとつの自然」展 記念講演会	和田菜穂子(建築家)	講堂	180
30年12月23日(日)	午後2時～	「アルヴァ・アアルト もうひとつの自然」展 作品解説会	中村暁子(名古屋市美術館学芸員)	講堂	100
31年1月20日(日)	午後2時～	美術鑑賞入門講座「きみはモディリアーニを知っているか」	深谷克典(名古屋市美術館副館長)	講堂	60
31年2月24日(日)	午後2時～	「辰野登恵子 ON PAPERS:A Retrospective 1969-2012」展 記念対談	柴田敏雄(写真家)、南雄介(愛知県美術館館長)	講堂	100
31年3月3日(日)	午後2時～	「辰野登恵子 ON PAPERS:A Retrospective 1969-2012」展 解説会	清家三智(名古屋市美術館学芸員)	講堂	61
31年3月8日(金)	午後5時30分～	学生メンバーズ特別鑑賞会	清家三智(名古屋市美術館学芸員)	講堂	4

## (2) コレクション解析学

年月日	時刻	内容	講師等	場所	参加者
30年5月27日(日)	午後2時～	マリオネット、メキシコに行く	竹葉丈(名古屋市美術館学芸員)	講堂	52
30年8月26日(日)	午後2時～	お金の価値ってなんだろう?	笠木日南子(名古屋市美術館学芸員)	講堂	95
30年10月28日(日)	午後2時～	沈黙の人間像が問いつけること	井口智子(名古屋市美術館学芸係長)	講堂	70
31年1月27日(日)	午後2時～	縁をつなぐ	角田美奈子(名古屋市美術館学芸員)	講堂	50
31年3月24日(日)	午後2時～	画家はなぜ子どもたちを描くのか?	深谷克典(名古屋市美術館副館長)	講堂	80

### コレクション解析学第1回

日時：5月27日(日) 午後2時～

演題：「マリオネット、メキシコに行く」

作品：ティナ・モドッティ (Tina MODOTTI; 1896-1942)

《操り人形としてのルネ・ダルノンクール》

1929年、ゼラチンシルバー・プリント、23.7×18.7cm

講師：竹葉丈(名古屋市美術館学芸員)

内容：「メキシコに魅せられた三人のアメリカ人の出会いとその後の彼らの運命について」という副題をつけた。写真家ティナ・モドッティ(1896-1942)による作品《操り人形としてのルネ・ダルノンクール》は、彼女と二人のアメリカ人との「共同作業」によるものであった。「人形を作った」のは、ロシア生まれのロイス・ブーニン(1904-1994)。彼は、1928年にディエゴ・リベラによるメキシコシティの大統領官壁画《メキシコの歴史》の制作助手を務めるためメキシコ

にやってきた。一方、「人形(のモデル)になった」ルネ・ダルノンクール(1901-1968)は、ウィーンに生まれ、1926年パリからメキシコに渡った。メキシコのみならず、民芸品さらには現代美術の紹介に努め、1930年にはメキシコ美術の展覧会をニューヨークで開催している。リベラの壁画制作の助手を目指しながらも、人形の制作と人形劇の実演に向かったブーニンは、その後アメリカで人形アニメを手掛けることになる。ルネ・ダルノンクールは、アメリカに移住し後にニューヨーク近代美術館の館長を務める。そして、写真家ティナ・モドッティは作品を制作した翌年に国外追放を受け、やがて写真から離れて行く。メキシコ、さらには人形劇を巡る奇妙な出会いと運命、三者三様の思惑とそれぞれが夢描いたメキシコについて考察した。

### コレクション解析学第2回

日時：8月26日(日)午後2時～

演題：「お金の価値ってなんだろう？」

作品：赤瀬川原平《零円札と両替された現金の瓶詰》

講師：笠木日南子(名古屋市美術館学芸員)

内容：世の中に流通し、わたしたちも日常的に関わっているお金について、様々な観点からその存在について考え抜いた赤瀬川原平がお金をモチーフにした作品を制作している。それらの作品について解説しながら、お金とはどのような存在で、どのような価値を持っているのかということ考察した。また、赤瀬川原平がお金をモチーフとするに至った背景をはじめ、どのように千円札をモチーフにした作品を制作し、それにはどのようなコンセプトが込められていたのかということ、そして日本美術史上に残る千円札事件のいきさつなど当時の美術状況についても解説した。

「人間の存在」という普遍的な問題を問いかけ続ける彼女の作品を紹介した。

### コレクション解析学第4回

日時：2019年1月27日(日)午後2時～

作品：海老原友忠《田端機関庫》

演題：「縁をつなぐ」

講師：角田美奈子(名古屋市美術館学芸員)

内容：海老原友忠(1920-2003)は、勤務する国鉄の美術サークルに所属し、労働組合の活動のなかから制作された壁新聞の挿図の作者として知られている。洲之内徹の現代画廊で開催された個展「海老原友忠素描展」(会期：1972年6月20日-7月3日)の出品作品である《田端機関庫》が、作家の中野重治に購入されてから名古屋市美術館の所蔵となるまでの経緯を、作者を含む関係者と時代背景などの紹介とともに明らかにした。

### コレクション解析学第3回

日時：10月28日(日)午後2時～

作品：マグダレーナ・アバカノヴィッチ《黒い立像》

演題：「沈黙の人間像が問い続けること」

講師：井口智子(名古屋市美術館学芸課長)

内容：2017年に86歳で亡くなったポーランド出身のマグダレーナ・アバカノヴィッチの彫刻《黒い立像》を取り上げた。この像には頭部がなく特定の個人を連想させるものがない。観る者に強烈な印象を残すこの人間像を制作したアバカノヴィッチについて、彼女の著作から本人の言葉を引用し、また母国ポーランドが経験した歴史を振り返りながら、彼女の独創的な作品の魅力、背景を探った。名古屋市美術館の作品が設置されるに至ったエピソードや、被爆地広島に寄せた彼女の思い、また広島市現代美術館にある《ヒロシマ-鎮まりしものたち》が伝えるメッセージを考えながら、人間が持つ強い信念を静かに示し続け、

### コレクション解析学第5回

日時：2019年3月24日(日)午後2時～

作品：アメデオ・モディリアーニ《おさげ髪の少女》

演題：「画家はなぜ子どもたちを描くのか？」

講師：深谷克典(名古屋市美術館副館長)

内容：エコール・ド・パリを代表する画家、モディリアーニは人物像ばかりを制作したことで知られるが、子どもをモデルにしたものも少なくない。《おさげ髪の少女》もその中の1点だが、モディリアーニに限らず、エコール・ド・パリの画家たちの多くが子どもを描いた作品を多数残しており、それはこの時代の特徴の一つとなっている。なぜ、彼らは子どもを多く描いたのか？ その理由を当時の美術を取り巻く時代背景なども視野に入れながら分析し、また西洋絵画における子どもを描いた作品の歴史を、ルネサンスから遡って紹介した。

## (3)上映会

年月日	時刻	内容	場 所	参加者
30年6月23日(土)	午後2時～	名古屋市美術館常設展郷土の美術 「名古屋のパフォーマンス 追悼岩田信市と岸本清子」関連企画 岩田信市「ウォーキングマン」1969年 15分 岩田信市「大須パラダイス」1977～79年 49分	講堂	82
30年6月24日(日)	午後2時～	名古屋市美術館常設展郷土の美術 「名古屋のパフォーマンス 追悼岩田信市と岸本清子」関連企画 出光真子「アニムスPart1」1982年 13分45秒 出光真子「アニムスPart2」1982年 27分 草間彌生「Self-Obliteration: Works 1960-1983」1983年 26分 中谷芙二子「opal loop(オパールのリボン) / cloud installation(雲の彫刻)」1980年 11分	講堂	55

## 上映会

### 名古屋市美術館常設展郷土の美術

「名古屋のパフォーマンス 追悼岩田信市と岸本清子」

関連企画

日時 6月23日(土)、24日(日) いずれも午後2時～午後4時

名古屋市美術館 2階講堂 定員180名

先着順 入場無料

主催 名古屋市美術館、愛知県美術館

## プログラム内容

### ○一日目 6月23日(土)午後2時～午後4時

岩田信市が制作した映像作品を上映。愛知県美術館学芸員越後谷卓司が作品の解説をした。

#### 1. 岩田信市『ウォーキングマン』1969年、15分、16mmフィルム(DVD上映)、モノクロ

岩田信市が名古屋の笠寺や栄の街路を歩く様を、真横から全身を取めた姿でカメラが延々と追ってゆく。時おり黒の礼服に身を包んだ男の一人(ゼロ次元メンバーが演じている)が横一列に歩く姿もインサートされるが、彼らはチャップリン等スラップスティック映画風のお決まりのポーズでスツ転ぶのだった。ミニマルな構造とユーモア感覚が調和した作品。

#### 2. 岩田信市『大須パラダイス』1977～79年、49分、8mmフィルム(DVD上映)

現代の大都会、名古屋・大須に忽然と現れた桃源郷のイメージを映像化した作品。全4部で構想されていたが、第1部「大須熱帯植物園」と第2部「日本の春 大須の春」のみが完成し、これを一本にまとめている(未完に終わった第3部は「マハラジャのハレム」、第4部は「楽しきマイホーム」のタイトルで、仮編集の段階まで制作が進んでいた)。ゼロ次元とロック歌舞伎、そして絵画で描かれたイメージをつなぐ重要作といえよう。

※1, 2いずれも愛知県美術館所蔵

### ○二日目 6月24日(日)午後2時～午後4時

岸本清子が出演している出光真子の作品をはじめ、女性アーティストとしての表現を切り開いてきた作家たちの映像作品を紹介。名古屋市美術館学芸員笠木日南子が作品の解説をした。

#### 1. 出光真子『アニメスPart 1』1982年、13分45秒、Uマチック(DVD変換)

岸本清子と交流があった出光真子の作品。アニメスとはユング心理学概念で女性の中にある内なる男性性という意味。アニメスが実際の男性の姿となって女性が二重像として表現される。岸本清子はフェミニズムの主張を作品に込めていたが、出光の作品は、まさに当時の女性が置かれた状況を告発するものとなっている。

#### 2. 出光真子『アニメスPart 2』1982年、27分、Uマチック(DVD変換)

アニメスシリーズの第2弾。岸本清子の「地獄の使者でございます」という言葉から始まるパフォーマンスが、タイト姿の男性としてのアニメスとともに収録され、出光と岸本のコラボレーション作品となっている。男性、エリート中心的社会を変えようとする「地獄の使者」として大衆芸能的な要素を取り込んだ岸本の迫真のパフォーマンスが収録された貴重な映像でもある。

#### 3. 草間彌生『Self-Obliteration: Works 1960-1983』1983年、26分、Uマチック(DVD変換)

女性パフォーマー/女性アーティストの草間彌生として今もなお活躍し続ける草間彌生の1983年までのオムニバス。貴重な記録映像も見ることができる。

#### 4. 中谷芙二子『opal loop(オパール)の環/cloud installation(雲の彫刻)』1980年、11分、Uマチック(DVD変換)

霧の彫刻家として知られる中谷芙二子のインスタレーションの中でトリシャ・ブラウンカンパニーのダンサーたちがパフォーマンス公演をした時の記録映像。

※2. 協力：出光真子氏 1, 3, 4は名古屋市美術館所蔵

## (4)コンサート

年月日	時刻	内容	演奏者等	場所	参加者
30年5月26日(土)	午後5時～	「モネ それからの100年」クラシックの夕べ	セントラル愛知交響楽団	展示室	51
30年8月11日(土)	午後5時～	「至上の印象派展」クラシックの夕べ	セントラル愛知交響楽団	展示室	44
31年1月13日(日)	午後3時～	「アルヴァ・アアルト もうひとつの自然」展 記念コンサート	澤田幸江(バイオリン)、松下寛子(ピアノ(キーボード))	地階ロビー	160
31年3月9日(土)	午後2時～	「辰野登恵子」展 コンサート	セントラル愛知交響楽団	地階ロビー	100

## 2. 子ども対象の事業

### (1)学校休業日の体験活動の推進

平成15年度から、長期休業期間を除く学校休業日（土日祝）を対象に、美術や美術館に親しむプログラムを継続して実施している。これは名古屋市教育委員会が平成22年度まで推進してきた「なごやっ子教育推進計画」の後継として策定した「名古屋市教育振興基本計画」の一環で行うものである。平成30年度は前年度の内容改訂を引き継ぎつつ、来館者の利用状況や興味関心、そして運営を支援しているボランティアの意見を取り入れながら、年間4種類のプログラムを企画し、それぞれ複数回にわたって実施した。



#### ①事前申し込みが必要なプログラム

##### 1) 虫の目 鳥の目 びじゅつの目

日時 ①6月2日(土)午前10時～午後0時30分

②12月9日(日)午前10時～午後0時30分

対象 小学4年生以上

参加者数 47名 \* 2日間延べ

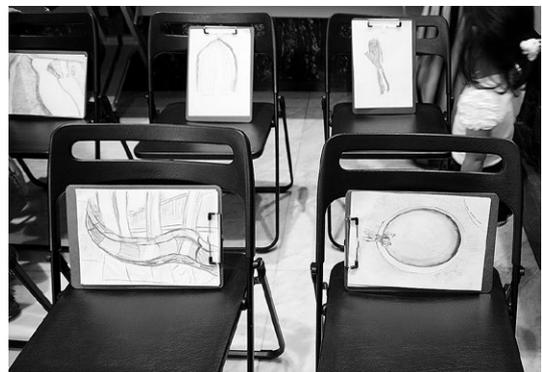
スタッフ (名古屋市美術館学芸員)清家三智、森本陽香  
ボランティア13名

内容 いったん中へ入ると意識することの少ない美術館の建築に興味を持つこと、近寄り離れたり見上げたり見下ろしたり、距離感や角度を変えながら、時間をかけて1つの対象を丁寧に観察することをねらいとしたプログラム。

参加者は学芸員と地階から2階まで美術館の入場無料のエリアを見て回りながら、当館の設計者である黒川紀章が考えた建築意匠やその特徴を少しずつ発見する。同じ空間であっても階の違いや角度によって見え方が変わることを確認してから、各自の価値観に基づいて「おもしろい」と思える場

所のスケッチに取り組んだ。プログラムの最後に参加者同士でスケッチを見せ合い、それぞれに選び取った対象や距離感、角度について考え方を述べ合った。

スケッチを見せ合う場面では恥ずかしがる参加者もいたが、技術を競うのではなく、各自が何を対象に選び、どう見たか、お互いの視点を知り合うために描いたことを説明すると、発言する参加者が少しずつ増えた。子どもと一緒に参加した保護者からは「図工の授業で絵が下手だと言われたのを気にして参加したが、学校とは異なる価値観があることを知って気が楽になった」などの感想が聞かれた。



##### 2) びじゅつかんは玉手箱

日時 ①11月23日(金・祝)午前10時～正午

②2019年1月20日(日)午前10時～正午

対象 小中学生とその保護者

参加者数 24家族67名 \* 2日間延べ

スタッフ (名古屋市美術館学芸員)清家三智、森本陽香  
ボランティア13名

内容 鑑賞する対象を展示室内の作品から、白川公園内の立体作品へと広げ、以前からあるのに目を向けていないものに意識を向けること、新たに発見したり、不思議に思ったり、「なぜ～なんだろう?」と疑問を持ったりしながら自発的に五感を働かせながら鑑賞す

ることをねらいとしたプログラム。

参加家族は4つのグループに分かれ、ボランティアが出すヒントをもとに白川公園のなかに潜んでいる立体作品を探す。該当する作品を見つけた後、作品の形や色、大きさなどボランティアから投げかけられる造形的な特徴に関する問いかけの言葉をもとに考えたり、作品を作った人の意図を想像したりしながら意見交換する時間を設けた。

グループによって鑑賞する作品は異なっていたので、最後に参加者全員で集まり、印象に残った作品を発表し合うなどして、互いの体験を共有した。

なお、2回目の実施（1月20日）では天候不良につき、屋外での鑑賞活動を途中で切り上げ、館内の建築意匠やデザイナーズ・チェアを探して楽しむ内容に変更した。



## ②自由参加プログラム

### 1) ちびっこオアシス

日 時 ①5月4日(金・祝)～6日(日)

②9月15日(土)～17日(月・祝)

開館時間(午前9時30分～午後5時)中、随時

対 象 制限なし(混雑時は乳幼児とその家族を優先)

参加者数 215名 \*6日間延べ

スタッフ (名古屋市美術館学芸員)清家三智、森本陽香  
ボランティア8名

内 容 地階キッズコーナーの約半分の広さに、高反発のブロックマットを敷きつめ、靴を脱いで過ごせるスペースを用意し、その一角に簡易授乳スペースも設置した。利用する乳幼児のために、将来造形活動に取り組むときに必要となる手の運動「つまむ、はさむ、ひっぱる、あける、しめる」などを促しながら、楽しむことのできる簡単な遊具を用意

した。

### 2) ぬり絵でたのしむコレクション

日 時 開館中の土曜・日曜・祝日(99日間)

対 象 制限なし

延べ実績 1,953枚

参加方法 当日常設展入口で随時受付

内 容 名品コレクション展の内容に応じて、所蔵作品をもとに作成したぬり絵を1～2種類用意。配布は1人1枚、1日につき先着30枚まで。常設展を鑑賞した後に取り組んでもらうことで、作品を丁寧に観察する動機づけを行い、絵画における色彩の役割や、画家の工夫への理解を深めるきっかけとした。

### (2)夏休みこどもの美術館

平成30年度は、前年度の改修工事に伴う休止を経て2年ぶりの開催となった。日頃から常設展示室で行っている「どこがおもしろい?!」(展示作品から学芸員が選んだ1点に対し、来館者のコメントを広く集めるもの)の意義を見直すとともに、改めて美術館はどんな場であることを目指しているのか来館者と共有することを目的に、「どこがおもしろい?! スペシャル」として内容を企画検討した。ワークショップでは近年、参加を希望する児童の若年化が著しいことから、低学年が参加できるプログラムの回数および受け入れ人数、内容の進行方法についても工夫を凝らし、可能な範囲において「さわる」などの直接体験を増やすなど、活動を通して理解できることに重きを置いた。

また、当館ではこれまでボランティアによるギャラリートークや学校団体等による見学において、対話を通じた鑑賞活動を推奨、実践しているが、鑑賞(よく見る)という行為がこどもの成長にどのような影響を及ぼすか、学校教諭など一部の限られた大人以外に紹介する機会を提供して来なかった。一般来館者が美術館の活動をより深く理解するとともに、単なる展覧会を観るための場所としてだけではなく、幅広い利活用の可能性を知るきっかけになると考え、大人向け講座を試験的に開催した。企画および実施にあたっては、発達心理学を専門とする研究者や、こども向けワークショップの経験豊富を持つ演劇人にも協力を仰ぎ、多角的な視点からの考察を試みた。



## 1) 所蔵作品展示

**会 期** 7月28日(土)～9月24日(月・休)  
**会 場** 常設展示室3  
**内 容** 以前「どこがおもしろい?!」で紹介した作品4点(★)と、過去の来館者からのコメントをパネルにして展示。それらを見た来館者が自分の感想を書けるよう専用紙と筆記具をテーブルに用意し、集まったコメントは順次ファイリングして閲覧可能な形にした。

また、これまで「どこがおもしろい?!」で取り上げたことのない作品3点も併せて展示し、ワークショップを通じて出た参加者のコメントを会期中に追加掲示した。

### 【展示作品】

ラインハルト・サビエ《赤い星の夜》★  
 バリー・フラナガン《三日月と釣鐘の上を跳ぶ野ウサギ》★  
 久野真《鋼鉄による作品 長い手紙-0》★  
 平岩三陽《山は粧ふ》★  
 坂本夏子《Octopus Restaurant》\* 寄託作品  
 浅野弥衛《作品》  
 藤本由紀夫《THE SEPARATED》

## 2) ワークショップ[すべて要事前申込/参加費無料]

### ①言葉でさがす「おもしろい！」

**実施日時** 8月21日(火)午後1時～午後3時30分  
**対 象** 小学4年生～中学生  
**会 場** 地階キッズコーナーおよび常設展示室3  
**参加者数** 1名  
**スタッフ** (名古屋市美術館学芸員)清家三智、森本陽香ボランティア1名  
**内 容** 自分の興味関心を引く作品は、どこにその魅力があるのか、何がそう思わせるのか、

何度も作品と向き合い、感じ、考えたことを段階的に言葉に置き換えていく作業を丁寧に行った。

当初はグループワークによる活動を想定していたが、あいにく参加予定者のキャンセルが重なり、参加者とスタッフとのマンツーマン状態になった。そのため、何度か時間を区切って鑑賞する形を取り、展示室で最初に作品を見た時に目が行ったところ、1作品を選び丁寧に観察し始めてから気になり始めたところ、見始めたときと終盤とを比較して自分の感じ方が変わったところ、など一個人の中で時間の経過とともに変化した作品との向き合い方に気づかせ、一連の活動を参加者本人の言葉で文章にまとめた。



### ②色からさがす「おもしろい！」

**実施日時** 8月24日(金)  
 ①午前10時～午前11時30分  
 ②午後1時30分～午後3時  
**対 象** 小学1～3年生  
**会 場** 地階キッズコーナーおよび常設展示室1～3  
**参加者数** 39名 \* 2回延べ  
**スタッフ** (名古屋市美術館学芸員)清家三智、森本陽香ボランティア4名

**内 容** 美術作品を丁寧に見るきっかけとして、使われている「色」に注目したプログラム。作品の中にある色を丁寧に探した後、多色折り紙をカラーチップに見立てて使い、実際に並べながら、色の系統や明暗、色相、彩度、組合せなどについて、参加者の発達段階に応じた内容で考察することを促した。カラーチップという道具を用いることで、色彩に関する語彙が十分でない低学年の児童にも、似ている色を実際に隣り合わせて比較させたり、色の違いを考えさせたりすることができた。



### ③素材からさがす「おもしろい！」

実施日時 8月29日(水)

①午前10時～午前11時30分

②午後1時30分～午後3時

対象 小学1～3年生

会場 地階キッズコーナーおよび常設展示室1・2

参加者数 35名 \* 2回延べ

スタッフ (名古屋市美術館学芸員)清家三智、森本陽香  
ボランティア4名

内容 美術作品を丁寧にみるきっかけとして、使われている素材に注目したプログラム。展示室の作品を見て分かることと、使われている素材をさわって分かることのちがいを、実際に五感を働かせながら体験し、考えた。なお、このプログラムの実施にあたっては、愛知県美術館に企画趣旨をご理解いただき、同館が開発した『素材ボックス』および『素材体感ツール』の一部を借用した。『素材ボックス』は10種類の異なる素材が全て大きさ(各辺5cm)の立方体に仕立てられており、こどもにも比重の違いなどを体感しやすいという利点がある。ただし、今回の出品作品に用いられているアルミニウムはこれに含まれていなかったため、『素材体感ツール』の延べ棒を参考資料として使用した。



### 3) 大人のための「こどもの見方を知る」講座

実施日時 8月19日(日)

第1部/午前10時～午前11時30分

第2部/午後1時30分～午後3時

対象 一般成人

会場 2階講堂

参加者数 23名 \* 第1部/第2部のべ(同伴のこども4名を含む)

講師 柏木陽(NPO法人演劇百貨店代表)

加藤知佳子(豊橋創造大学教授/専門:知覚・認知心理学)

北原靖子(川村学園女子大学/専門:発達心理学)

スタッフ (名古屋市美術館学芸員)清家三智、森本陽香

内容 第1部では演劇家がナビゲーターとなり、体を動かす活動を通して、こどもと大人の見方や発想の違いを考えた。一例としては、身の回りにある「もの」の名前と、さまざまな形容詞・形容動詞が書かれたカードをそれぞれ一枚ずつ選択し、ランダムに組み合わせられた「もの」の有り様を表現する(例:「悲しい」「トイレ」など)。ありふれた「もの」がいろいろな「もの」に表せること(=表現の手法が1通りではないこと)、その時その「もの」がどのような形状をしているか、などについて身体を通して理解した。

第2部では、第1部での気づきも取り入れつつ、学芸員と発達心理学の専門家がそれぞれの立場や専門性を生かし、こどもの成長において鑑賞体験(よく見ること)が及ぼす影響について短いレクチャーを行った後、こども特有のものの見方との付き合い方について参加者を交えて話し合った。





### (3)芸術と科学の杜

「芸術と科学の杜」とは、名古屋市美術館と名古屋市科学館が連携して、市民の豊かな感性と創造力を育む魅力ある事業を継続して実施するとともに、白川公園周辺の文化施設や地域とも協力して連携の輪を広げることで「芸術と科学を中心にさまざまな文化が融合し、新しい文化を生み出すまち」の形成を目指すものである。

平成24年5月には、この事業の目的を実現するため、地元商店街や周辺の施設、関係機関で構成する「芸術と科学の杜連携推進会議」を設立し、買いにおいでや広小路夏祭りなど地元イベントへの参加や、地域連携事業を企画実施している。

その事業の一つとして、11月にサイエンス&アートフェスティバルを開催し、美術館ではアート大会を実施した。

#### アート大会

**日時** 11月3日(土・祝)・4日(日)午前10時～午後4時

**場所** 美術館前広場

**参加者数** 1,777名(事前申込不要、当日受付)  
企画・制作・講師 山口百子(美術作家)

**スタッフ** (名古屋市美術館学芸員)森本陽香、ボランティア15名

#### 内容 ①カラフルパウダーで地層を作ろう!

小さなボトルに5色のパウダーを重ねて流し込み、オリジナルの地層を作るワークショップ。地中の鉱石に見立ててラメ糊を塗ったり、色を重ねる順番を工夫したりして、参加者はそれぞれ個性あふれる作品を完成させた。

②彫刻が目印?! 白川公園でスタンプラリー  
白川公園内の野外彫刻などを巡るクイズ形式のスタンプラリーを実施。公園内に7つのチェックポイントを設け、すべてを集めてゴールした人には、絵葉書などの粗品を進呈した。

#### 地元連携事業

町内会イベントへの参加:

「買いにおいで」

「広小路夏祭り」

「名古屋 本町通り 問屋街マーケット」

#### 地元交流事業

特別展会期中、地元の方を招待し、担当学芸員の作品解説の後会場内の観覧を楽しんでいただいた。

(1)モネ それからの100年展

ア 開催日 6月22日(金)午後6時20分～午後8時

イ 参加者 82名

(2)ザ・ベスト・セレクション展

ア 開催日 11月16日(金)午後6時20分～午後8時

イ 参加者 42名



### 3. 学校対象事業

#### (1) ボランティアによる学校団体向けガイドトークの実績

名古屋市美術館では、常設展を鑑賞する学校等の団体来館者に対して、希望によりボランティアによるガイドトークを実施している。これは来館者が10名程度のグループにわかれて、ボランティアと一緒に展示室をまわりながら、会話を通してじっくりと美術を鑑賞するものである。本年度は以下の団体に対してボランティアによるガイドトークを実施した。

平成31年度学校団体受入

No.	日時	曜日	団体名	見学者数(生徒数)	引率者数	対応ボランティア数
1	5月9日	水	美濃加茂中学校2年生	53	3	6
2	8月3日	金	名古屋市立鳴海中学校美術部(1~3年生)	6	1	1
3	8月21日	火	東郷町立諸輪中学校美術部(1~3年生)	23	2	4
4	8月28日	火	名古屋市立梅森坂小学校4年生	12	3	3
5	9月12日	水	弥富市立栄南小学校6年生	17	2	3
6	10月10日	水	名古屋市立極楽小学校6年生	71	2	8
7	10月10日	水	名古屋市立星ヶ丘小学校6年生	57	3	7
8	10月16日	火	名古屋市立楠小学校特別支援学級(1~6年生)	14	6	3
9	11月6日	火	桑名市立陵成中学校2年生	6	0	1
10	11月14日	水	愛知教育大学附属名古屋小学校2年生	135	5	8
11	1月10日	木	名古屋市立名北小学校5年生	82	6	9
12	1月18日	金	名古屋市立山吹小学校5年生	73	3	7
13	1月18日	金	名古屋市立志段味中学校1年生	14	0	2
計				563	36	62

#### (2) アートカード貸出実績

アートカードは、名古屋市美術館の所蔵作品の中から60点を選び、はがき大の複製図版に仕立てた鑑賞学習用補助教材である。名古屋市立の小中学校に対しては各区に設けた保管校を通して、それ以外の学校・団体には美術館から直接貸出を行い、鑑賞学習の普及に努めている。

#### 平成30年度 アートカード保管校一覧

区	学校名	担当の先生	ケース数	保管ケース番号
千種区	城山中	森田 進午	3	2、3、4
東区	旭丘小	鈴木 輝	3	1、5、6
北区	名北小	鈴木さやか	4	7、8、9、10
西区	なごや小	樋田 裕二	4	11、12、13、61
中村区	笹島中	川松 仁子	3	14、15、16、26
中区	新栄小	滝 純	3	17、18、19
昭和区	駒方中	松岡 健児	3	20、21、22
瑞穂区	穂波小	大島 聖矢	3	23、24、25
熱田区	日比野中	長崎由利子	3	26、27、28
中川区	はとり中	校條 敬子	4	29、30
	山王中	大鹿公仁子		31、33
港区	東築地小	加藤久仁夫	3	34、35、36
南区	豊田小	佐々木めぐみ	2	62、63
守山区	吉根小	宮城島喜弘	4	42、43、44、45
緑区	東丘小	原 敏史	5	46、47、48、49、50
名東区	猪高中	梶野 有香	4	51、52、53、54
天白区	表山小	宮地 千加	4	55、56、57、58

#### 平成30年度 アートカード保管校別貸出実績一覧

区	貸出先	ケース数	貸出期間
千種	自由ヶ丘小学校	1	11月~12月
東	愛知教育大学附属名古屋小学校	3	10月29日~12月3日
	旭丘小学校	2	11月30日
北	味鋤小学校	1	5月~6月
西	なごや小学校	2	3月中
瑞穂	名南中学校	3	2月8日~3月上旬
	穂波小学校	20	通年
中川①	西前田小学校	1	通年
	はとり中学校	3	9月3日~9月7日
港	東築地小学校	1	2月1日~2月8日
南	愛知県立港特別支援学校	2	11月29日~2月12日
緑	戸笠小学校	2	4月17日~5月10日
	太子小学校	1	5月10日~5月24日
天白	天白小学校	4	11月2日~11月15日

計14件、46セット貸出

#### 平成30年度 美術館からの直接貸出実績

No.	学校・団体名	ケース数	期間
1	大垣市立西部中学校	1	4月5日~4月28日
2	松原小トワイライトスクール	1	4月5日~4月26日
3	あずま中学校	2	4月19日~5月11日
4	あいち福祉振興会	1	5月2日~5月18日
5	愛知工業大学情報電子専門学校	1	5月7日~5月29日
6	東浦町立北部中学校	1	7月27日~8月9日
7	弥富市立栄南小学校	1	9月12日~10月25日
8	鈴鹿市立鈴峰中学校	1	11月27日~12月26日

計8件、9セット貸出

### (3)出前アート体験

#### ①千種区 大和小学校

プログラム名 名画の秘密をさぐる  
日 時 6月13日(水)午前9時45分～午前10時30分  
場 所 3年1組教室  
学 年 3年生2クラス(56名) \*学年まとめて授業  
講 師 (学芸課長)井口智子  
授業内容 導入として、名古屋市美術館の所蔵品からモディリアアーニ、荻須高德、北川民次らの作品を映像で示しながら美術館を紹介し、活動を説明した。続いて、児童と一緒にクロード・モネが描いた《ラ・ジャポネーズ》をよく観察し、着物、うちわ、扇子など日本にかかわる品々が描かれていることを確認した。そして、描かれているうちわや扇子が実際にモネの身近にあったことを、モネの友人であったルノワールの作品などを見せながら説明した。さらにモネが浮世絵に関心を寄せ、家の池に太鼓橋をかけるなど、日本に興味を持っていたことを紹介した。モネがさまざまなものに興味を持ち、それらを取り入れて自分の絵を作り上げたことを伝え、いろいろなことに関心をもち、工夫することで、自分らしい作品を作ることができることを話した。最後に自分だったら《ラ・ジャポネーズ》の背景をどんなふうにしたいかを考えてもらう時間を設けた。できるだけ児童に問いかけて、うちわや扇子など参考資料を用意し、楽しく考えてもらえるように心がけた。児童からは積極的な反応があり、興味をもって授業に臨んでもらえたようであった。

#### ②北区 西味鏡小学校

プログラム名 名画の秘密をさぐる  
日 時 6月13日(水)午前9時45分～午前10時30分  
場 所 多目的室  
対象学年 6年生2クラス(41名) \*学年まとめて授業  
講 師 (名古屋市美術館学芸員)竹葉丈  
授業内容 名古屋市美術館が所蔵するメキシコの女性画家フリーダ・カーロ(1907-1954)の作品《死の仮面を被った少女》を題材として授業を行う。まず初めにパワーポイントでカラー図版を紹介するとともに、全員に図版コピーを配り、作品に描かれた場面について想像してもらう。担当の先生の協力を得て、複

数の子供たちに絵に対する自身の第一印象を発表してもらった。荒野に立つ骸骨の仮面を被った少女に対しては、一様にある種の寂しさや恐怖等、何か悲しい物語があるような感想を得た。

その後、画面全体から細部に至るまで描かれた各要素について、子供たちと確認しながら見て行く。少女が被る骸骨の仮面の意味を、メキシコの死生観に照らし合わせて紹介し、少女が手にしている花(=マリーゴールド)が、現世と彼岸とをつなぐ象徴として、メキシコの民族行事「死者の日」に於いて重要な意味を持つことを解説した。ここで、この年の3月から劇場公開されているディズニー映画『リメンバー・ミー』のステルを見せると、子供たちの理解と興味は一気に昂まったように感じられた。

次に少女の足元に置かれたジャガーの仮面に込められた意味について紹介し、「骸骨」のイメージとともに、メキシコに於ける仮面の意味と特性について解説した。

最後に作者であるフリーダ・カーロの人生と制作活動について紹介したが、先に挙げたディズニー映画にも登場していることもあってか、作品の成り立ちとともに作家に対しても興味を持ってくれたように見受けられた。以上、解説を通じて作品をはじめて見た時に感じた怖さを払拭し、作品が持つ奥深さと悲しさを確認できたのではないだろうか。

#### ③守山区 廿軒家小学校

プログラム名 アートカードで学ぼう  
日 時 6月20日(水)午前9時45分～午前11時35分  
場 所 体育館  
対象学年 5年生4クラス(130名) \*2クラスずつ授業  
講 師 (名古屋市美術館学芸員)清家三智、森本陽香  
スタッフ (ボランティア)6名  
授業内容 1クラスを5つ(2クラスあるので合計10)のグループに分け、車座になって座る。それぞれの班にボランティアおよび学芸員、あるいは担任教諭がつき、以下の活動において児童の学習をサポートした。

【導入】たんでいゲーム \*全体で行う活動

ある作品の一部分を切り取り、拡大した図版をプロジェクターに投影する。児童は

よく観察し、どのカードのどの部位かを探し当てる。作品を隅々まで丁寧に観察する練習としての活動。

【メインの活動】教室に飾る作品を選ぼう

\*グループ単位で行う活動

①グループごとにアートカード60枚を広げて観察し、まずは1人1枚教室に飾りたいと思う作品候補を選ぶ。選ぶ作品は2名以上で重複しても構わない。なぜその作品を教室に飾りたいと思ったか、順に理由を述べる。

②次に、候補作品(6~7点)から再度1人1票を投じて作品を選ぶ。他者の発表理由を聞いて、選ぶ作品を変更しても構わない。その作品が教室にあったらどんな気持ちになるか、作品のどんな部分からそう感じるか、などグループ内で意見交換を重ね、話し合いで1作品にまで絞り込む。

③クラスごとに各グループで選んだ作品と選んだ理由、話し合った内容などを発表し、共有する。

ることによってより作品と親しくなれるということについて話し、授業を終了した。

#### ④北区 清水小学校

プログラム名 名画の秘密をさぐる  
日 時 6月25日(月)午前10時45分~午前11時30分  
場 所 特別室  
対象学年 5年生2クラス(72名) \*学年まとめて授業  
講 師 (名古屋市美術館学芸員)中村暁子  
授業内容 名古屋市美術館所蔵のモディリアーニ《おさげ髪の少女》を採り上げた。まず最初に、作品の画像を映して良く観察し、どんなものが描かれているかを把握。絵の細部をひとつずつ指し示しながら、何が描かれているかを捉えてもらった。その後、描かれている少女がどんなことを思っているか、また、どんな少女であるかを想像し、各自、筆記した。何人かの生徒に自分が想像した内容を発表してもらい、《おさげ髪の少女》についてそれぞれに考えた後、モディリアーニという人物について、画像を交えて紹介し、《おさげ髪の少女》以外の作品も数点見せて、モディリアーニの人となり、および彫刻含めさまざまな作品を作ったことを理解してもらった。最後にもう一度《おさげ髪の少女》を映し、始めに見た時と比べてどんな感じかなどを話してもらった。作品を何度も見

#### ⑤熱田区 船方小学校

プログラム名 アートカードで学ぼう  
日 時 9月21日(金)午前9時45分~午前10時30分  
場 所 多目的室  
対象学年 1年生3クラス(78名) \*学年まとめて授業  
講 師 (名古屋市美術館学芸員)角田美奈子  
スタッフ (ボランティア)12名  
授業内容 名古屋市美術館を例にして美術作品と美術館について紹介したあと、担当教諭から依頼のあった「作って楽しむことを超える造形への工夫に意識を向けさせる」体験をする機会として、「思いを読み取る」を主題として、全体を9グループに分けて課題に取り組んだ。グループは各クラスから2~3名ずつで構成し、クラスの違う児童が交流できる機会ともした。

課題は2つの段階に分け、1つめを「好きなもの選び」、2つめを「思いを読み取る」とした。1では、図柄に親しみ、良く見ることを促すための導入として各自に好きなカードを選ばせた。2では、(1)怒り=怒っている(2)困惑=困っている(3)喜び=喜んでいる(4)不思議=なんだろうと思うを読み取る「思い」とし、順を追って1枚ずつカードを選ばせた。これらの活動を通して児童ひとりひとりの想像力を刺激するとともに、グループ活動のなかで互いの発想を共有し、異なる感覚や意見への理解を促すとともに、カードを選んだ理由を発表しあうことで造形の工夫に意識を向けさせ、気づきを促す場とした。

#### ⑥昭和区 滝川小学校

プログラム名 アートカードで学ぼう  
日 時 10月19日(金)午前9時45分~午前11時30分  
場 所 視聴覚室  
対象学年 3年生4クラス(134名) \*2クラスずつ授業  
講 師 (名古屋市美術館学芸員)清家三智  
スタッフ (ボランティア)11名  
授業内容 1クラスを5つ(2クラスあるので合計10)のグループに分け、机の周りに立つ。それぞれの班にボランティア1名が付き、学芸員が進行する以下の活動において児童の学

習をサポートした。実施日は学校開放日につき、保護者や地域の方も授業の様子を見守った。

【導入】たんていゲーム

各グループでアートカード60枚を図柄が見えるように広げ、ある作品の部分拡大図版を児童たちに提示する。児童はそれをよく観察し、どの作品のどの部分かを探し当てる。作品を隅々まで丁寧に観察する練習としての活動。

【メインの活動】

A. わたしはだれでしょう？

- ①学芸員が、ある作品の登場人物または生き物になりきり、見つけてもらうためのヒントを提示する(全部で3つ)。
- ②児童はそれぞれのヒントをよく聞き、すべてに当てはまる作品カード(と「私」は誰/何か)を探し出す。まぎらわしいカードも含まれるが、お手付きの場合は「どこで間違えたのか」を正解と見比べて確認し合う。

B. お気に入りさをさがそう

- ①場に広げたアートカード60枚をよく観察し、各自が1枚ずつ気に入った/気になった作品を選ぶ。選んだ作品が複数名で重複した場合は、譲るのではなく共有する。
- ②導入の活動で行ったことを思い出しながら、さらに丁寧に観察し、自分が選んだ理由や作品のどの部分からそう感じたかなどを考え、グループ内で発表し合う。

く観察し、ピカソの表現の工夫について考えさせた。また④ゴヤの《1808年5月3日、プリンシペ・ピオ丘での銃殺》を紹介し、「戦争などの残虐な行為を告発し、二度と繰り返してはいけない」というメッセージをより強く表すために、ピカソがゴヤの作品の表現を引用していることも紹介。最後に⑤森村泰昌《兄弟(虐殺Ⅰ)》《兄弟(虐殺Ⅱ)》を見せ、こちらもゴヤの作品を引用し、作品に込められたメッセージを踏襲しているが、それだけではなく、さらに、「見かけで判断すべきではない」という作家のオリジナルなメッセージが加えられていることを紹介。作品を作るにあたり、本物そっくりに描くことが重要なのではなく、時には、他の作品を真似たり、写真を使ったりしても、感情やメッセージが伝わるように自分なりの表現の工夫をすることで、オリジナルな作品を生み出すことができることを伝えた。

(4)就業・職業・職場体験及び職場訪問受け入れ

対 象 中学校・高等学校 生徒  
 内 容 【体 験】総務課、学芸課の業務内容を知るとともに、清掃、警備、案内監視、施設管理等の業務について説明を受け体験する。  
 【訪 問】館内施設の見学をするとともに、疑問点についてインタビューを行い美術館に関する理解を深める。

実 績

実施日	内容	学校名	学年	人数
30年6月6・7日	体験	名古屋市立高針台中学校	2年	5
30年6月14・15日	体験	名古屋市立御幸山中学校	2年	4
30年8月2・3日	体験	名古屋市立名古屋商業高等学校	2年	5
30年8月9日	体験	椋山女学園中学校	3年	4
30年8月10日	体験	椋山女学園中学校	3年	2
30年8月14日	体験	椋山女学園中学校	3年	5
30年10月10・11日	体験	瀬戸市立本山中学校	2年	1
30年10月23・24日	体験	名古屋市立大江中学校	2年	4
30年11月6・7日	体験	名古屋市立若宮商業高校	2年	5
31年1月18日	体験	名古屋市立津賀田中学校	2年	3
31年1月29・30日	体験	名古屋市立伊勢山中学校	2年	4
30年5月15日	訪問	桑名市立陽和中学校	2年	5
30年11月30日	訪問	長久手市立北中学校	1年	6
30年12月18日	訪問	名古屋市立北陵中学校	1年	6
31年1月17日	訪問	名古屋市立桜丘中学校	1年	5
31年1月23日	訪問	名古屋市立御田中学校	1年	6
31年1月31日	訪問	名古屋市立神沢中学校	1年	5
31年2月21日	訪問	東海市立上野中学校	2年	3
31年3月14日	訪問	桑名市立翔南中学校	1年	5
31年3月14日	訪問	豊田市立浄水中学校	2年	6

⑦緑区 片平小学校

プログラム名 名画の秘密をさぐる

日 時 11月13日(火)午後2時30分～午後3時15分

場 所 多目的室

学 年 6年生3クラス(96名) \*学年まとめて授業

講 師 (名古屋市美術館学芸員)笠木日南子

授業内容 人物を描くときにその人のどんなところをどんな風に表現しているかを考えることをねらいとした。サルバドール・ダリのだまし絵①《イメージが消える》習作 1938年と②《海辺に出現した顔と果物鉢の幻影》1938年を紹介。絵の中に隠れているダブル・イメージを見つけてもらい、絵に描かれているものをよく見る練習をした。次に③ピカソの《ゲルニカ》を紹介、描かれているものをよ

## (5)教員対象の講座

### 名古屋市教育センター研修

#### 「名古屋市美術館における鑑賞教育講座」

名古屋市教育センターからの依頼により、名古屋市立の小・中・高・養護学校に勤務する教員を対象とする研修講座を開催した。美術館の基本的な活動と、児童・生徒を対象にした美術鑑賞の実践例を紹介した。当館が提供している常設展のギャラリートークの体験や鑑賞学習が児童・生徒にどのような学習効果をもたらすか講義と映像資料で解説する時間を設け、美術館の活用法を具体的に知ってもらう機会とした。

以前は年1回の開催であったものの、平成26年度より教育センターからの強い要望を受け、同内容の講座を2回に分けて開催することとし、受講できる人数を増やすほか、受講者が希望日を選択できるよう協力してきた。

しかしながら、新学習指導要領の導入にあたりプログラミングをはじめとする新たな教科指導の必要性や働き方改革などの影響を受け、夏休み期間中の教員向け研修を大幅に再編することとなり、当講座は平成30年度をもって一旦終了することとなった。今後、美術館の利用や鑑賞活動が児童・生徒の成長にどのような影響を与えるか、現場の教員に伝えていく機会を新たに検討する必要がある。

日 時	①7月30日(月)午後1時～午後4時 ②8月6日(月)午後1時～午後4時
場 所	名古屋市美術館2階講堂および常設展示室1・2
参加者数	123名(2日間延べ)
講 師	(副館長)深谷克典、(学芸課長)井口智子、(名古屋市美術館学芸員)清家三智、森本陽香
スタッフ	ボランティア16名(2日間延べ)

## (6)その他

### トワイライトスクール／ルームでの出前事業

「トワイライトスクール／ルーム」は名古屋市立の各小学校の空き教室等を利用し、放課後から夕方決められた時間まで、低学年を中心に児童を預かる事業である。

以前から美術館では教育委員会が行う全市的事业「その道の達人派遣事業(美術館：出前アート体験)」に従事し、希望する市内の小中学校で授業を行ってきた。本事業は内容を従来のものより簡易化し、トワイライトスクール／ルームとの連携事業として実施することで、児童やその保護者に美術館の活動に対する認知度を高め、美術への関心を持ってもらおうという趣旨である。

平成30年度は、ボランティアのガイド活動がない期間

[7月2日(月)～7月27日(金)]中に、下記の2校で実施した。

#### ①北区・味鏡小学校トワイライトスクール

日 時	7月12日(木)午後3時～午後4時
参加者数	1～3年生50名
講 師	(名古屋市美術館学芸員)清家三智、森本陽香
スタッフ	ボランティア6名
内 容	①たんでいゲーム

アートカード60枚を図柄が見えるように広げる。学芸員は作品画像の一部を切り取って拡大した図版を提示し、児童はそれがどの作品のどの部分かを探し当てる。お手付きしたときは、どこで間違えたのかをグループで一緒に考える。

#### ②わたしはだれでしょう？

アートカード60枚を図柄が見えるようにして場に広げる。学芸員が、ある作品の登場人物または生き物になりきり、見つけてもらうためのヒントを言葉で提示する(全部で3つ)。児童はそれぞれのヒントをよく聞き、すべてに当てはまる作品カード(と「私」は誰／何か)を探し出す。まぎらわしいカードも含まれるが、お手付きの場合は「どこで間違えたのか」を正解と見比べて確認し合う。

#### ③仲間を集めよう！

カードを図柄が見えるよう場に広げる。学芸員から出されるテーマに該当する作品を、内容をよく観察して選び出す。カードの取り合いにならぬよう、順番を決め、1人ずつ発表する。判断に迷ったときは、グループ内で話し合っ決めて。テーマの例としては、「作品に登場する人物の数」「人物の持ち物(帽子、花など)や服装」「風景の種類」など。

#### ②港区・稲永小学校トワイライトルーム

日 時	7月19日(木)午後2時～午後3時
参加者数	1～3年生40名
講 師	(名古屋市美術館学芸員)清家三智、森本陽香
スタッフ	ボランティア6名
内 容	①たんでいゲーム

#### ②わたしはだれでしょう？

#### ③仲間を集めよう！

\*味鏡小学校の実施内容と同様。

## 2 ボランティア

今年度は、昨年度10月から3月にかけて実施した養成講座を修了した10期の13名が新たに加わり、79名の登録者となった。

主な活動は、常設展示室でのギャラリートークや、学校休業日の教育プログラムにおける美術鑑賞体験の支援など通常の出前授業の他に、トワイライトスクールでもアートカードを使った鑑賞学習体験を実施した。

また、名古屋まつり開催日の日曜日には、常設展を無料開放するほか、ボランティアによる「ボランティアまつり」を開催した。ボランティア有志による企画であり、彫刻や建物ガイド、アートカードを使ったゲーム、英語ギャラリートークなどを実施し、来館いただいたお客様に美術鑑賞を楽しんでいただくとともに、ボランティア活動についても周知することができた。

多くのメンバーで安定した活動運営ができる一方で、一人当たりの活動の機会を確保することや、ガイドの質やレベルを平準化することが今後の課題となるが、美術館としては、ボランティアが安心して活動に積極的に取り組めるよう支援していくことが責務である。

### (1)ボランティア登録者(2019年3月31日現在)

第6期:伊藤えつ子、荻野知恵子、梶田清美、加藤枝里香、坂井千恵 ほか、計9名

第7期:池本せい子、今井康夫、遠藤明子、太田美奈、加藤久子、末原みとせ、蔦森敦子、中川和彦、平尾真実、三浦有美、三島悠、安原栄里、横井文代、吉川優実 ほか、計17名

第8期:伊藤蘭子、内海典子、川合幸代、神田初美、柴田順三、杉原和夫、杉山要、谷村満智子、都築祥子、道家千津子、中山越子、廣瀬千明、福田慶恵 ほか、計21名

第9期:伊藤和子、魚住千加子、可児理佳、北村滋規、近藤理恵、下田薫子、鈴木浩司、恒川明美、廣瀬典子、前澤真奈美、目加田頼子、吉村由紀江、米本有里、渡辺順子、渡會真奈美 ほか、計19名

第10期:池田裕子、太田美也子、各務初音、川合葉子、久野るみ子、高鷲民生、中島鋭夫、二宮由加里、野沢忠道、古居幸子ほか、計13名

### (2)定例会

定例会は原則として毎月第2土曜日の午前中に開催した。ボランティア間の連絡・調整の他に以下のような研修を行った。

日 時	時 間	内 容	講 師
4月14日	午前10時～正午	係活動の話し合い	ボランティア
5月12日	午前10時～正午	アアルトと近代デザイン—椅子を中心に	中村学芸員
6月9日	午前10時～正午	多様な来館者に向けた、言葉の使い方について	清家学芸員
7月14日	午前10時～正午	絵画と市場—画家、画商、オークション	深谷副館長
8月4日	午前10時～正午	「名古屋市美術館 開館30周年記念 ザ・ベスト・セレクション」展について	保崎学芸係長
9月8日	午後10時～正午	名品コレクション展Ⅲについて	井口学芸課長
10月13日	午前10時～正午	ボランティア交流会	ボランティア
11月10日	午前10時～正午	名品コレクション展Ⅳについて	角田学芸員
12月8日	午前10時～正午	コレクションについて—ヴンダーカンマーと美術館のはじまり	笠木学芸員
1月12日	午前10時～正午	北川民次とメキシコの教え子たち	竹葉学芸員
2月9日	午前10時～正午	名古屋市美術館のエコール・ド・パリコレクションとその周辺	森本学芸員
3月9日	午前10時～正午	2019年度名品コレクション展Ⅰについて	中村学芸員

### (3)ガイド活動

#### ①常設展ギャラリートーク

休館日を除く毎日(午前11時～・午後2時～)、一般を対象とした約1時間のガイドツアーを各日ボランティア2名が担当した。

活動日数 251日間  
参加数 延べ1,693名

#### ②特別展ギャラリートーク

特別展ギャラリートークは、ボランティアに参加の希望を募り、展覧会ごとに担当を分けて行く。ギャラリートークの開催日、開始時間、方法などは、担当ごとに選出するまとめ役を中心にした話し合いによって決定する。登録後2年を経過したボランティアのメンバーが活動している。一般を対象とした約1時間のガイドツアーであり、ボランティア2名が組となり、会

場入口で参加者を募りグループを編成して1日につき2回実施する。

**a) 真島直子 地ごく楽**

開催日 4月3日、5日、7日、8日(計4日)  
時間 午前10時30分～/午後1時30分～  
担当 5期:2名、6期:1名、7期:2名、8期3名 計8名  
参加数 延べ121名

**b) 名古屋市美術館開館30周年記念 モネ それからの100年**

開催日 5月13日、16日、23日、25日、29日、6月3日、5日、10日(計8日)  
時間 午前10時30分～/午後1時30分～  
担当 6期:1名、7期:3名、9期:1名 計5名  
参加数 延べ387名

**c) 名古屋市美術館開館30周年記念**

アルヴァ・アアルト—もうひとつの自然

開催日 12月15日、19日、21日、26日、28日、1月9日、11日、16日、18日、20日、22日、24日(計12日)  
時間 午前10時～/午後1時30分～  
担当 7期:4名、8期:3名、9期:1名 計8名  
参加数 延べ281名

**d) 名古屋市美術館開館30周年記念 辰野登恵子**

ON PAPERS: A Retrospective 1969-2012

開催日 3月2日、6日、10日、15日、17日、20日、21日、23日(計8日)  
時間 午前10時30分～/午後1時30分～  
担当 6期:1名、7期:1名、8期:1名、9期:2名 計5名  
参加数 延べ281名

## (4) サポート活動 系の活動

### 研修係

館内研修として12月16日に勉強会「トークスキルアップ研修」を実施した。館外研修は、8月30日に豊橋市美術博物館にて「岸田劉生展」を担当の丸地加奈子同館学芸員の講堂における解説と一部会場でのギャラリートークとともに鑑賞した。また、定例会におけるレクチャーのうち研修係企画として10月定例会において「ボランティア交流会」を企画実施し、主に新たに活動を開始した10期に向けて活動の経験を分かち合う機会とした。

### 資料係

常設展の展示替えごとにギャラリートークの参考となる資料を選別してボランティアに配布したり、特別展ギャラリートーク等で使用した図書資料やコレクション解析学等の展覧会の記録を収集し、後に参照しやすいよう整理して保存するなど、資料の管理全般に携わった。

### 体験活動係

年間を通して開催される「美術をたのしむプログラム」各活動の実施に際し、スタッフの募集や実施までの連絡調整、教材の下準備、参加者との対話を中心とした当日の運営サポート、実施後のボランティア定例会での活動報告を主に担当した。当日の円滑な事業運営や鑑賞対象となる作品への理解を深めるため、事前打ち合わせやギャラリートークの自主練習を行ったほか、実施後の記録や参加者から寄せられた感想や質問などの情報共有をもとに、次年度の活動内容の検討にも携わった。

### 団体対応係

学校団体等による常設展の鑑賞を円滑に進めるため、参加するボランティアの調整などの取りまとめを行った。また、2回の自主勉強会で学校団体を想定した模擬トークを実施し、小中学生を対象とした美術鑑賞について議論を深めた。勉強会や振り返りの場を通じて、各ボランティアの経験を共有するとともに、ギャラリートークの改善点などについて話し合った。

## (5) その他

### ボランティアによる名古屋まつり特別企画

日時 10月21日(日)  
場所 常設展示室1・2、屋外美術館敷地内など  
スタッフ ボランティア32名  
補佐 角田美奈子・保崎裕徳・清家三智(当館学芸員)  
内容 常設展が無料開放となる「名古屋まつり」の日程にあわせて、特別なイベントで来館者に美術と親しんでいただくと同時に、ボランティアによるギャラリートークをより多くの人に知っていただくという趣旨の企画。今年度は以下の3種類のイベントを実施した。各イベントとも事前申込は不要の自由参加とした。なお、常設展のギャラリートークも午前11時～正午と午後2時～午後3時に通常通り実施した。

①建物・彫刻ガイドツアー…黒川紀章設計の

建築の特徴のある箇所をめぐりながら、あわせてロビーや敷地内に設置されている彫刻を楽しむガイドトークを行った。午前10時30分～午前11時20分、午後1時30分～午後2時20分、午後2時30分～午後3時20分の3回実施した。参加ボランティアは11名、参加者は計63名。

②アートカードで遊ぼう…名古屋市美術館制作のアートカードを用いて、作品に親しむことを促す活動を行った。午前11時15分～正午、午後1時～午後1時45分、午後2時45分～午後3時30分の3回実施した。参加ボランティアは11名、参加者は計28名。

③英語ギャラリートーク…名古屋まつり開催時には比較的多くの外国人が来館することから、英語で常設展の作品を紹介するギャラリートークを実施した。午後0時15分～午後1時、午後3時15分～午後4時の2回実施した。参加ボランティアは10名（うち6名がトーク担当）、参加者は計12名。

### 特別展ガイド

所蔵作家と作品に直接関係しない内容の特別展は定例会での研修としないため、ギャラリートーク担当者には定例会終了後に別途時間を設けて当該の特別展担当学芸員より概要説明と質疑応答を内容とする研修を行っている。また、必要に応じて自主的な勉強会が行われている。

今年度は、入場者が予想以上であったことから、「モネ それからの100年」展でギャラリートーク実施最終日の実施を取り止め、「至上の印象派展 ビュールレ・コレクション」展は同様の理由で実施の困難が予測されたことから、当初実施を予定していたものを事前に取り止めることとした。

なお、開館30周年記念として収蔵作品を紹介する「ベストセレクション」展は、常設展ギャラリートークへの参加を入場者に促すため、当初からギャラリートークの実施を予定していない。

## 3 学生向け優待事業

### (1)美術館学生メンバーズ

#### ①趣旨

美術館と大学等との教育連携により、学生と美術との出会いを容易にし、学生生活をより豊かにする機会

を提供する。

#### ②対象

大学（短大、大学院）、専修学校、各種学校等の学校の生徒。オプションとして教職員の付加も可能。

#### ③事業概要

「ゆめ・プレミアムアートコレクション寄附金」に一定額以上の寄附を行った学校法人や団体に対して、その特典として、在籍する学生等がその年度の特別展や常設展を学生証等の呈示だけで無料で観覧できるようにするもの。

#### ④会員校(平成31年3月31日現在)

- ・名古屋大学
- ・名古屋芸術大学
- ・名古屋学院大学
- ・名古屋市立大学
- ・愛知県立芸術大学

### (2)高校生サポーター事業

#### ①趣旨

事業の実施により、高校生の美術に対する理解を深め、学校生活をより豊かにする機会を提供する。

#### ②対象

高等学校、中等教育学校（後期課程に限る。）又は高等専門学校生徒。

#### ③事業概要

2,000円の会費の納付により、納付から1年間の会員期間の間、サポーター証及び学生証の呈示により特典を受けられる。特別展は会員及び同行する高校生が4回を上限に無料で観覧でき、常設展は会員が何度でも無料で観覧できる。

## 4 協力会

名古屋市美術館協力は、美術館の活動等に協力するとともに、市民の美術に関する知識と教養の向上を図るために必要な事業を行い、芸術文化の振興発展に寄与することを目的に活動を行っています。

<会員数>	<新規・継続別> (平成31年3月31日現在)		
	新規	継続	計
特別会員 10名	特別会員 5名	5名	10名
一般会員 114名	一般会員 36名	78名	114名
ユース会員 20名	ユース会員 16名	4名	20名
家族会員 57名	家族会員 14名	43名	57名
(計) 201名	(計) 71名	130名	201名

### 平成30年度美術館協力会事業報告

- (1) 展覧会ギャラリー・トークの開催
  - 「モネ それからの100年」第1回  
平成30年5月13日(日) 62名参加
  - 「モネ それからの100年」第2回  
平成30年6月10日(日) 47名参加
  - 「至上の印象派展 ビュールレ・コレクション」  
平成30年8月5日(日) 81名参加
  - 「ザ・ベスト・セレクション」  
平成30年10月7日(日) 65名参加
  - 「アルヴァ・アアルト もうひとつの自然」  
平成30年12月9日(日) 56名参加
  - 「辰野登恵子 ON PAPERS: A Retrospective 1969-2012」  
平成31年3月3日(日) 52名参加
- (2) 美術館見学ツアーの実施
  - 春 平成30年6月24日(日) 47名参加  
京都文化博物館、京都国立近代美術館、泉屋博古館
  - 秋 平成30年11月17日(土)～11月18日(日) 23名参加  
福岡市博物館、吉野ヶ里遺跡、九州国立博物館、  
福岡アジア美術館、福岡県立美術館
- (3) 作家を囲む会
  - 「松本陽子さん」作家を囲む会  
平成30年5月20日(日) 23名参加
- (4) 美術館鑑賞ミニツアー
  - 「ボストン美術館の至宝展」名古屋ボストン美術館  
平成30年5月20日(日) 19名参加
  - 「フリーゲル展」豊田市美術館  
平成30年7月14日(土) 11名参加
  - 「長谷川利行展」碧南市藤井達吉現代美術館  
平成30年8月26日(日) 33名参加
  - 「ハピネス展」名古屋ボストン美術館  
平成30年9月16日(日) 33名参加
  - 「画僧 月僊」名古屋市博物館  
平成31年1月13日(日) 22名参加
  - 「佐藤玄々展」碧南市藤井達吉現代美術館  
平成31年2月17日(日) 17名参加
  - 「挑む浮世絵 国芳から芳年へ」名古屋市博物館  
平成31年3月24日(日) 22名参加

- (5) 協力会共催事業
  - 名古屋市美術館開館30周年記念共催事業  
特別講演会「エコール・ド・パリの画家たち」  
講師 山田五郎  
平成30年11月10日(土) 50名参加  
「ゆめ・プレミアムアートコレクション」  
藤田嗣治〈ベルギーの婦人〉絵はがき作成、配布  
「藤田嗣治〈ベルギーの婦人〉」常設展示のための解説  
パネル製作
- (6) ブログの運用  
平成30年度ブログ閲覧状況〔投稿64件、閲覧数18,530回、ユーザー数(延べ)8,904名〕
- (7) オリジナル・カレンダーの作成及び配付  
「松本陽子」の油彩、パステル 250部
- (8) 催しものの案内  
特別展、常設展、講演会など情報提供、年間展覧会案内、アートペーパーの配付
- (9) 作品の寄贈  
オリジナル・カレンダー1件1点  
平成31年1月21日の資料収集会議で決定
- (10) 総会の開催  
平成30年6月10日(日) 28名参加(委任状76名)

## 5 図書室

図書室の資料の充実を図るとともに、そのときどきの特別展に即した参考資料を揃えるなどして、利用者の多様なニーズに応えるよう努力しています。

### 図書資料分類別冊数一覧 (平成31年3月31日現在)

分類	和書	洋書
辞書、辞典、年鑑、図書目録	577(1)	225(0)
画集、美術全集、所蔵品目録	7,705(91)	3,581(10)
展覧会図録	13,486(245)	1,522(1)
研究書、技法書	388(2)	15(0)
年報、紀要、報告書	8,235(350)	23(0)
美術雑誌	13,094(84)	2,566(6)
その他(美術教科書、一般図書)	2,575(6)	1,095(0)
小計	46,060(779)	9,027(17)
総計	55,087(796)冊	

( )は今年度の受け入れ図書冊数

入室者数 15,656名

4月	933名	10月	718名
5月	2,735名	11月	877名
6月	3,758名	12月	770名
7月	471名	1月	1,297名
8月	1,847名	2月	478名
9月	1,473名	3月	299名

### 出版・制作物一覧

#### 美術館ニュース『アートペーパー』Nos.108、109、110

美術館の活動状況や美術・文化についての様々な情報を広報するものです。

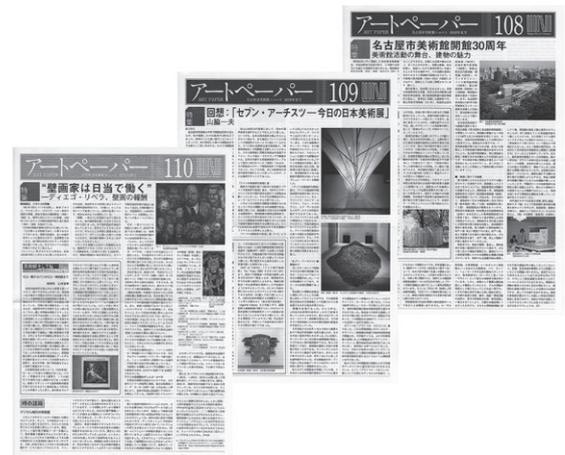
A 2判、各5000部、PDFデータを当館ウェブサイトに掲載

#### 特集記事

108号：名古屋市美術館開館30周年 美術館活動の舞台、建物の魅力

109号：回想「セブン・アーツソー今日の現代美術展」山脇一夫

110号：“壁画家は日当で働く”ーディエゴ・リベラ、壁画の報酬



#### 平成29年度名古屋市美術館年報

平成29年度の当館の活動の記録です。

A 4判、82頁、PDFデータを当館ウェブサイトに掲載



#### 令和元(平成31)年度年間案内

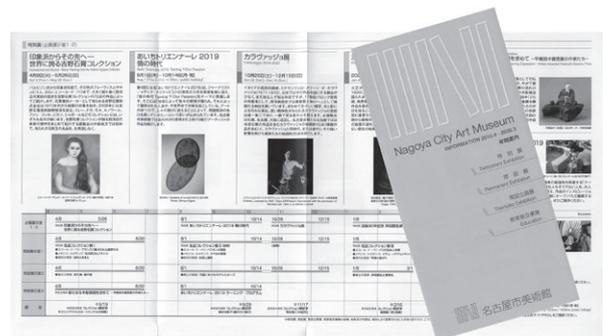
令和元(平成31)年度の展覧会情報と教育普及プログラムについて広報するものです。

A 3判、20,000部

#### 所蔵作品解説カードの増刷

常設展に展示中の作品について解説したカードです。

B 6判、増刷12種、計42,000枚、館内無料配布



平成30年度は、購入1点、受贈85点、受託257点の合計343点の作品を新たに受け入れました。

作品の収集にあたっては、厳しい財政事情もあり、近年は受贈や受託が中心になっていましたが、開館から30周年を迎えた今年度は、久しぶりに高額な作品を購入することができました。購入したのは、平成28年度に開催した特別展「藤田嗣治 東と西を結ぶ絵画」に出品されていた《ベルギーの婦人》です。この作品は、藤田が2年間にわたる中南米の旅を終えて日本に帰国した翌年の1934年に制作された作品です。当時藤田が懇意にしていた東京のベルギー大使館の関係者がモデルを務めたと推測され、流麗な線描と装飾的な背景が見事な調和をみせる傑作です。この作品を含め、当館の藤田作品は4点となりました。またこの作品の購入にあたっては、市民の皆様方からご寄付をいただいた「ゆめ・プレミアムアートコレクション」の基金を一部充当させていただきました。この場を借りて、あらためてお礼申し上げます。

次に受贈作品としては、メキシコ出身の現代美術作家ボスコ・ソディの作品が先ずあげられます。素焼きしたレンガ25個を積み上げたシンプルな作品ですが、このレンガは国境や人種など、我々の周囲を取り巻く様々な壁を意味しており、一人一人の努力によってその壁を取り除いて欲しいという作者の思いが込められています。コンセプチュアルでありつつ、レンガ独特の質感や表情によるモノとしての存在感もしっかりとある作品です。

地元作家の体系的な収集は地方美術館の大切な使命の一つですが、今年度は遠山清、富澤有為男、真野紀太郎の3作家の作品を個人の方からご寄贈いただきました。

平成29年度に開催した特別展「真島直子」は、郷土の現代作家の全貌を紹介した重要な展覧会でしたが、

その出品作品より作家ご本人から1点を寄贈、1点を寄託いただきました。

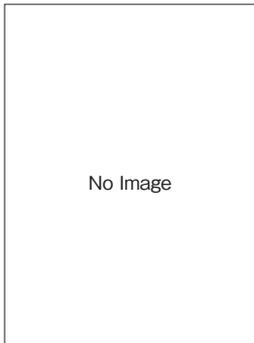
名古屋市美術館の協力が制作するオリジナル・カレンダーは、2006年以降14作目になりますが、今回は「モネ それからの100年」の出品作家でもある松本陽子氏に制作を依頼し、カレンダーとその原画の2点をご寄贈いただきました。

今年度の受贈作品の中心となるのが、メディア・アーティスト、山本圭吾の作品です。1988年に当館が開館した際に、美術館と市内2か所を結ぶ「ネットワーク・アート」を展開した山本は、その後も遠隔地をネットワークでつなぐパフォーマンスを繰り返していますが、今回の51点を数える受贈作品は、その活動の軌跡の記録として大変重要です。

受贈の最後は、名古屋、納屋橋にかつてあった料亭、得月楼に関連する資料です。得月楼は戦前の名古屋の文化サロンの存在で、多数の文人墨客が訪れていたこともあり、貴重な関連資料が残されています。絵葉書やスケッチ、硯箱など、いずれも小品ではありますが、当時の文化人の交流や、それぞれの作家の一面を知る上で貴重な資料です。

受託作品は国島征二、真島直子、赤瀬川原平という、いずれも地元の現代作家の作品ですが、特に重要なのが赤瀬川原平の「千円札裁判」関連の資料250点あまりです。赤瀬川原平に関しては当館で平成7年に特別展「赤瀬川原平の冒険」を開催していますが、今回の受託資料はその関連のものです。1970年に最高裁で有罪が確定した「千円札裁判」は、芸術の本質的な意味を問う事件でしたが、同時に赤瀬川原平という多彩な才能を持つ人物を知る上でも重要な手がかりを与えてくれます。この受託資料を詳細に分析することにより、赤瀬川芸術の本質をさらに明確にできるのではないかと考えています。

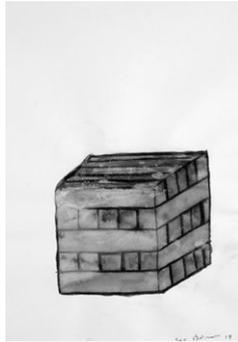
## (1)購入



1. 藤田嗣治  
(1886-1968)  
FUJITATSUGUharu  
《ベルギーの婦人》  
Belgian Woman  
1934年  
水彩、パステル・紙  
61.0×44.5cm

## (2)受贈

### ①資料



1. ボスコ・ソディ  
(1970-)  
Bosco SODI  
《Untitled(5×5)》  
Untitled(5×5)  
2018年  
水彩・紙  
28.9×20.5cm



2. ボスコ・ソディ  
(1970-)  
Bosco SODI  
《Untitled(6×5)》  
Untitled(6×5)  
2018年  
水彩・紙  
28.9×20.5cm



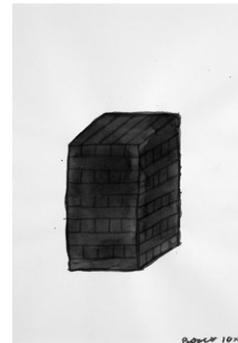
3. ボスコ・ソディ  
(1970-)  
Bosco SODI  
《Untitled(7×5)》  
Untitled(7×5)  
2018年  
水彩・紙  
28.9×20.5cm



4. ボスコ・ソディ  
(1970-)  
Bosco SODI  
《Untitled(8×5)》  
Untitled(8×5)  
2018年  
水彩・紙  
29.7×20.0cm



5. ボスコ・ソディ  
(1970-)  
Bosco SODI  
《Untitled(9×5)》  
Untitled(9×5)  
2018年  
水彩・紙  
28.2×20.5cm



6. ボスコ・ソディ  
(1970-)  
Bosco SODI  
《Untitled(10×5)》  
Untitled(10×5)  
2018年  
水彩・紙  
29.0×20.5cm



7. ボスコ・ソディ  
(1970-)  
Bosco SODI  
《立方体》  
Untitled  
2017年  
粘土  
50.0×50.0×50.0cm  
@h.10.0×w.10.0×d.50.0×25本



8. 遠山清  
(1903-1963)  
TOYAMA Kiyoshi  
《名古屋港》  
Port of Nagoya  
n.d.  
水彩、インク・紙  
26.0×33.9cm



9. 遠山清  
(1903-1963)  
TOYAMA Kiyoshi  
《中川水門》  
Nakagawa Sluice Gate  
n.d.  
水彩、インク、パステル・紙  
26.0×31.8cm



10. 遠山清  
(1903-1963)  
TOYAMA Kiyoshi  
《駅前ビル風景》  
The Front of Nagoya Station  
n.d.  
水彩、インク・紙  
26.2×33.8cm



11. 遠山清  
(1903-1963)  
TOYAMA Kiyoshi  
《八事興正寺五重塔》  
Five-storied Pagoda of  
Yagoto Koshō-ji Temple  
n.d.  
水彩、インク・紙  
26.1×33.8cm



12. 遠山清  
(1903-1963)  
TOYAMA Kiyoshi  
《八事興正寺》  
Yagoto Kosyo-ji Temple  
n.d.  
水彩、インク、パステル、鉛筆・紙  
23.9×32.0cm



13. 遠山清  
(1903-1963)  
TOYAMA Kiyoshi  
《熱田神宮》  
Atsuta-jingu Shrine  
n.d.  
水彩、インク・紙  
26.1×33.8cm



14. 遠山清  
(1903-1963)  
TOYAMA Kiyoshi  
《愛知県庁 名古屋市庁》  
Aichi Prefectural Government  
Office and Nagoya City Hall  
n.d.  
水彩、インク、パステル・紙  
23.9×29.2cm



15. 遠山清  
(1903-1963)  
TOYAMA Kiyoshi  
《名古屋城》  
Nagoya Castle  
n.d.  
水彩、インク・紙  
26.0×33.5cm



16. 遠山清  
(1903-1963)  
TOYAMA Kiyoshi  
《鶴舞公園》  
Tsuruma Park  
n.d.  
水彩、インク・紙  
25.9×33.7cm



17. 富澤有為男  
(1902-1970)  
TOMIZAWA Uio  
《[風景]》  
[Landscape]  
c.1929-30年  
油彩・キャンヴァス  
37.2×45.3cm



18. 真野紀太郎  
(1871-1958)  
MAKINO Kitaro  
《薔薇花》  
Rose  
1943年  
水彩、鉛筆・紙  
54.2×64.6cm



19. 真島直子  
(1944-)  
MAJIMA Naoko  
《地ごく楽 2000》  
Jigokuraku 2000  
2000年  
ミクストメディア  
80.0×46.0×22.0cm



20. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《Planet Lights No.1》  
Planet Lights No.1  
1992.8.  
顔料・キャンヴァス  
26.8×39.1cm



21. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《都市の歪み》  
Distortion of the City  
1999年  
顔料・キャンヴァス  
56.0×83.1cm



22. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《都市の水輪》  
Water Ring of the City  
1996年  
顔料・キャンヴァス  
56.1×86.1cm



23. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《水田に輝く炎》  
Shining Flames in the Paddy Field  
2017年  
顔料・キャンヴァス  
56.3×79.6cm



24. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《雲海を越えて》  
Over the Sea of Clouds  
1996年  
顔料・キャンヴァス  
27.6×40.6cm



25. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《メディアの神(川上御前)》  
Goddess of Media(Kawakami Gozen;  
Legend of Japanese Paper)  
1989年  
顔料・キャンヴァス  
56.1×73.2cm



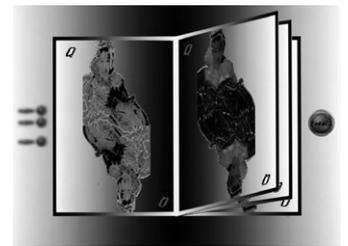
26. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《石段を登る名月》  
Harvest Moon climbing a Stone Stairway  
1995年  
顔料・キャンヴァス  
73.3×55.1cm



27. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《Apple Card "Birth"A》  
Apple Card "Birth"A  
1990年  
顔料・キャンヴァス  
28.3×40.0cm



28. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《(曙橋)仮想の窓 No.1》  
(Akebonobashi) Virtual window No.1  
1998年  
顔料・キャンヴァス  
56.2×79.2cm



29. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《Apple Card "Birth"B》  
Apple Card "Birth"B  
1990年  
顔料・キャンヴァス  
28.7×38.2cm



30. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《もう一つのゲート(浅草寺)》  
Another Gate(Senso-ji Temple)  
n.d.  
顔料・キャンヴァス  
56.0×75.2cm



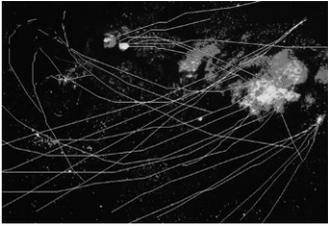
31. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《名月と亀と彼岸花》  
Famous Moon, Turtle and  
Cluster Amaryllis  
2000年  
顔料・キャンヴァス  
73.4×55.3cm



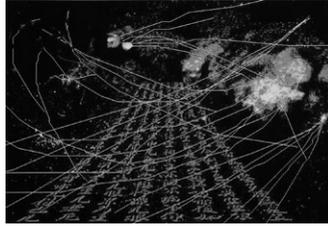
32. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《天からの贈り物》  
Gift From heaven  
1991年  
顔料・キャンヴァス  
56.1×78.3cm



33. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《永平寺の参道》  
Approch TO Eihei-ji Temple  
1998年  
顔料・キャンヴァス  
56.1×78.3cm



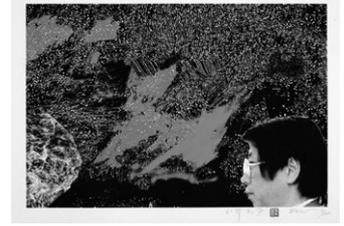
34. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《読経のひびき No.1》  
The Sound of Juha Chaning No.1  
1992年  
顔料・キャンヴァス  
56.3×81.8cm



35. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《読経のひびき No.2》  
The Sound of Juha Chaning No.2  
1992年  
顔料・キャンヴァス  
56.2×81.9cm



36. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《歩み》  
Step  
1990年  
顔料・キャンヴァス  
29.8×37.9cm



37. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《見つめる横顔》  
A Staring Profile  
1992年  
顔料・キャンヴァス  
27.2×39.8cm



38. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《都市の煙》  
Smoke of the City  
1992年  
顔料・キャンヴァス  
15.7×44.4cm



39. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《竹林の炎》  
Flame in the Bamboo Forest  
1992年  
顔料・キャンヴァス  
56.3×82.8cm



40. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《観月箱 No.1(手鏡の願い)》  
Moon-Viewing Box No.1  
: Hand Mirror Wish  
1992年  
顔料・キャンヴァス  
5.0×85.0cm



41. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《観月箱 No.2》  
Moon-Viewing Box No.2  
1992年  
顔料・キャンヴァス  
65.0×85.0cm



42. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《神の舞》  
Dance of Gods  
1996年  
顔料・キャンヴァス  
25.7×31.3cm



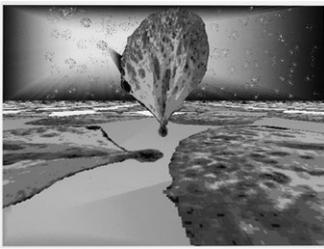
43. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《水滴:天からの贈り物 No.2》  
Water Drops : A Gift from Heaven No.2  
1998年  
顔料・キャンヴァス  
56.1×78.3cm



44. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《水滴:天からの贈り物 No.13》  
Water Drops : A Gift from Heaven No.13  
1998年  
顔料・キャンヴァス  
56.1×78.3cm



45. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《題不詳(ビルディングと経文)》  
Title unknown : Composition of Buildings  
and Sutra  
n.d.  
顔料・キャンヴァス  
20.0×40.5cm



46. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《紙と電子の樹》  
Paper and Electron Tree  
n.d.  
顔料・キャンヴァス  
27.9×37.2cm



47. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《Drop of Water No.3- Roof》  
Drop of Water No.3- Roof  
n.d.  
顔料・キャンヴァス  
56.1×75.4cm



48. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《天への叫び》  
Cry of Heaven  
n.d.  
顔料・キャンヴァス  
56.2×74.6cm



49. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《アールヌーボーと浮世絵の出会い》  
Encounter of Art Nouveau and Ukiyo-e  
1990年  
顔料・キャンヴァス  
27.9×37.2cm



50. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《水滴:天からの贈り物 No.1》  
Water Drops : A Gift from Heaven No.1  
1999年  
顔料・キャンヴァス  
25.4×35.0cm



51. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《都市の歪み》  
Distortion of the City  
1999年  
顔料・キャンヴァス  
55.9×83.2cm



52. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《人間はどこへ》  
Where are Humans  
1990年  
顔料・キャンヴァス  
29.6×38.7cm



53. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《水滴:天からの贈り物 No.12》  
Water Drops : A Gift from Heaven No.12  
1991年  
顔料・キャンヴァス  
27.5×36.8cm



54. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《哲学の間》  
Room of Philosophy  
2018年  
顔料・キャンヴァス  
46.4×70.3cm



55. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《情報の歪み 2》  
Distortion of Information  
1991年  
顔料・キャンヴァス  
56.1×74.8cm



56. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《新札幌のシンボル》  
New Symbol of Sapporo  
1992年  
顔料・キャンヴァス  
56.3×83.9cm



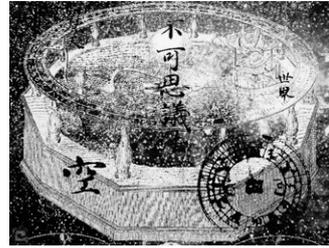
57. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《観月箱 No.4》  
Moon-Viewing Box No.4  
1992年  
顔料・キャンヴァス  
82.3×57.3cm



58. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《観月箱 No.3》  
Moon-Viewing Box No.3  
1992年  
顔料・キャンヴァス  
57.3×82.3cm



59. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《虹の大滝神社》  
Otaki Shrine in Rainbow Colored  
1989年  
顔料・キャンヴァス  
57.3×82.3cm



60. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《宇宙の構造 1》  
Structure of the Space  
1992年  
顔料・キャンヴァス  
27.9×37.3cm



61. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《天と地と》  
Heaven and Earth  
1996年  
顔料・キャンヴァス  
27.9×42.2cm



62. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《水滴:天からの贈り物 No.9  
農村の歪み-3》  
Water Drops : A Gift from Heaven No.9  
Distortion of Rural Village-3  
1993年  
顔料・キャンヴァス  
56.1×76.3cm



63. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《響き》  
Tone  
1991年  
顔料・キャンヴァス  
26.5×35.3cm



64. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《これが東京だ。》  
This is Tokyo  
1996年  
顔料・キャンヴァス  
27.6×36.8cm



65. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《虹の庭》  
Rainbow Garden  
1992年  
顔料・キャンヴァス  
27.7×40.2cm



66. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《窓の水滴》  
Water Drops on the Window  
1990年  
顔料・キャンヴァス  
27.4×38.4cm



67. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《影との対話 No.1》  
Dialogue with the Shadow No.1  
2005年  
顔料・キャンヴァス  
56.2×66.3cm



68. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《影との対話 No.2》  
Dialogue with the Shadow No.2  
2005年  
顔料・キャンヴァス  
56.1×85.4cm



69. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《影との対話 No.3》  
Dialogue with the Shadow No.3  
2005年  
顔料・キャンヴァス  
56.1×82.4cm

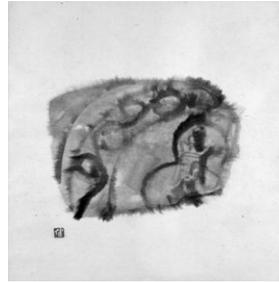
## ②特別資料



70. 山本圭吾  
(1936-)  
YAMAMOTO Keigo  
《水滴:天からの贈り物 No.9  
農村の歪み-3》  
Water Drops : A Gift from Heaven No.9  
1993年  
顔料・キャンヴァス  
56.1×76.3cm



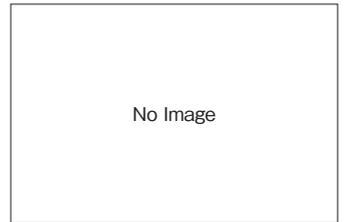
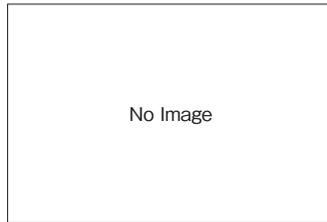
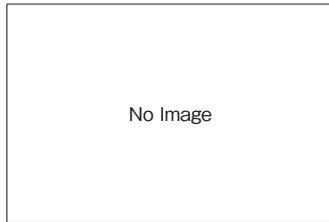
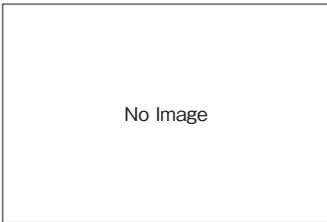
1. 杉本健吉  
(1905-2004)  
SUGIMOTO Kenkichi  
《[奈良博の仏像]》  
[Statue of Buddha in  
National Museum]  
n.d.  
油彩・紙  
26.0×36.0cm



2. 杉本健吉  
(1905-2004)  
SUGIMOTO Kenkichi  
《[石仏]》  
[Stone Figure of Buddha]  
n.d.  
墨、顔彩・和紙  
46.5×47.5cm

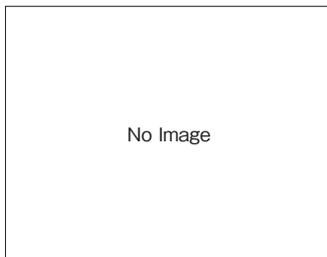
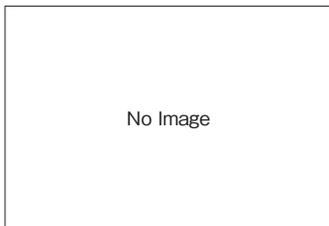
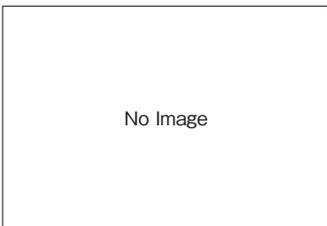


3. 杉本健吉  
(1905-2004)  
SUGIMOTO Kenkichi  
《麒麟童子》  
[Bady with the Qilin]  
1950年  
墨、顔彩・和紙  
41.5×26.5cm  
額56.5×41.5cm



4. 坪内節太郎  
(1905-1979)  
TSUBOUCHI Setsutaro  
《[法界坊]》  
[The Villainous Priest "Hokaibo"]  
n.d.  
墨・紙  
24.0×16.0cm

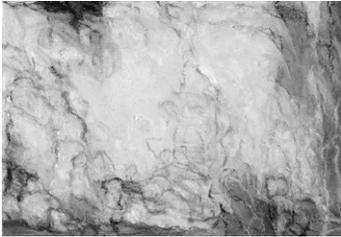
5. 前田青邨  
(1885-1977)  
MAEDA Seison  
《豌豆之花図桐砂子硯箱》  
Writing Box with Pea Flowers  
1923年  
岩絵具、砂子・桐箱、筆2本、紙切り小刀、千枚通し、硯、文箱  
18.5×23.5×6.0cm



6. 前田青邨  
(1885-1977)  
MAEDA Seison  
《豌豆之花図料紙箱》  
Writing Paper Box with Pea Flowers  
1923年  
岩絵具、砂子・桐箱  
27.0×35.0×11.0cm

7. 前田青邨  
(1885-1977)  
MAEDA Seison  
《はがき》  
[Postcard]  
1942年  
墨・紙(はがき)  
9.2×13.8cm

9. 松本陽子  
(1936-)  
MATSUMOTO Yoko  
《私的光景(名古屋市美術館協力会  
カレンダー2019)》  
Private Landscape (Original Painting of  
the Nagoya City Art Museum Membership  
Calendar 2018  
2018年  
印刷・紙  
42.0×29.7cm



10. 松本陽子  
(1936-)  
MATSUMOTO Yoko  
《私的光景(名古屋市美術館協力会  
カレンダー2019原画)》  
Private Landscape (Original Painting of  
the Nagoya City Art Museum Membership  
Calendar 2019  
2018年  
油彩、パステル、木炭・綿キャンヴァス  
15.9×22.8cm



11. 宮田重雄  
(1900-1971)  
MIYATA Shigeo  
《大同石窟 微笑佛》  
[Buddha with Archaic Smile  
Datong Stone Cave]  
n.d.(c.1938~41年)  
水彩・紙  
19.0×36.0cm



12. 宮田重雄  
(1900-1971)  
MIYATA Shigeo  
《百瓜果》  
[Hundreds of Fruits]  
1942年  
墨、顔彩・和紙  
46.0×39.0cm



13. 宮田重雄  
(1900-1971)  
MIYATA Shigeo  
《[中国風景]》  
[Chinese Landscape]  
n.d.(c.1938~41年)  
油彩・板  
26.3×20.7cm



14. 宮田重雄  
(1900-1971)  
MIYATA Shigeo  
《花巻鹿踊り》  
[Hanamaki "Shishiodori"  
(the deer dance)]  
n.d.  
墨、水彩・色紙  
24.2×27.3cm



15. 宮田重雄  
(1900-1971)  
MIYATA Shigeo  
《はがき(山と水辺)》  
[Postcard]  
1963年  
ペン、顔彩・紙(はがき)  
8.8×13.9cm



16. 宮田重雄  
(1900-1971)  
MIYATA Shigeo  
《はがき(祇園舎)》  
[Postcard]  
1963年  
ペン、水彩・紙(はがき)  
8.8×13.9cm



17. 宮田重雄  
(1900-1971)  
MIYATA Shigeo  
《年賀状(辰)》  
[Postcard]  
1964年  
墨、水彩・紙  
9.0×14.0cm



18. 宮田重雄  
(1900-1971)  
MIYATA Shigeo  
《はがき(春雪大阪)》  
[Postcard]  
1964年  
墨、水彩・紙  
9.0×14.0cm



19. 宮田重雄  
(1900-1971)  
MIYATA Shigeo  
《はがき(かしかけ)》  
[Postcard]  
1964年  
ボールペン、水彩・紙  
8.8×13.9cm



20. 宮田重雄  
(1900-1971)  
MIYATA Shigeo  
《はがき(北大エルム)》  
[Postcard]  
1964年  
墨、水彩・紙  
9.0×14.0cm



21. 宮田重雄  
(1900-1971)  
MIYATA Shigeo  
《年賀状(巳)》  
[Postcard]  
1965年  
水彩・紙  
8.8×14.0cm



22. 宮田重雄  
(1900-1971)  
MIYATA Shigeo  
《年賀状(午)》  
[Postcard]  
1966年  
コンテ、水彩・紙  
9.2×14.0cm



23. 宮田重雄  
(1900-1971)  
MIYATA Shigeo  
《年賀状(申)》  
[Postcard]  
1968年  
墨、顔彩・紙  
10.1×14.7cm



24. 宮田重雄  
(1900-1971)  
MIYATA Shigeo  
《年賀状(酉)》  
[Postcard]  
1969年  
墨、顔彩・紙  
10.1×14.7cm



25. 宮田晨哉  
(1925-2009)  
MIYATA Shinya  
《[フランス風景]》  
[French Landscape]  
n.d.  
リトグラフ・紙  
30.0×22.2cm

p.64～72で、著作権の関係上、画像を掲載できないものについては、「No Image」と表示している。

### (3)資料収集状況一覧

#### 年度別

年度	分類	日本画など	洋画など	水彩素描など	版画など	写真	彫刻など	特別資料	総計
58年度		0	26	2	0		1		29
59年度		3	32	50	1		0		86
60年度		4	25	67	20		2		118
61年度		5	23	33	6		1		68
62年度		12	38	0	360		15		425
63年度		0	15	8	13		6		42
元年度		3	7	2	275		1		288
2年度		7	4	2	17		1		31
3年度		1	3	2	122		0		128
4年度		2	10	15	126		3		156
5年度		0	13	4	0		3		20
6年度		0	7	0	1		2		10
7年度		1	27	2	195		0		225
8年度		0	7	0	2		3		12
9年度		0	2	0	17		2		21
10年度		2	8	0	21		0		31
11年度		2	10	0	0		1		13
12年度		0	9	0	0		0		9
13年度		0	8	0	※ △83	※ 83	1	0	9
14年度		1	0	0	167	0	0	0	168
15年度		0	1	0	0	8	2	0	11
16年度		0	0	8	0	0	2	0	10
17年度		0	2	10	0	4	0	0	16
18年度		0	9	0	0	0	0	0	9
19年度		0	2	0	0	0	1	0	3
20年度		0	1	0	0	0	1	0	2
21年度		0	1	7	3	0	0	0	11
22年度		0	1	0	0	0	0	0	1
23年度		0	1	0	0	0	0	0	1
24年度		0	0	0	0	0	2	0	2
25年度		0	0	0	0	2	0	0	2
26年度		0	0	0	0	0	0	0	0
27年度		2	1	0	0	3	0	0	6
28年度		0	1	0	0	3	0	0	4
29年度		0	0	0	0	0	△1	0	△1
30年度		0	1	0	0	0	0	0	1
購入総計		45	(1) 295	212	1,263	103	49	0	(1) 1,967
保管転換		16	41	31	35	3	3	1	(0) 130
受贈		83	(2) 343	(16) 948	530	(51) 497	(2) 30	(14) 1,834	(85) 4,265
受入変更		0	0	0	0	2	0	0	(0) 2
総計		(0) 144	(3) 679	(16) 1,191	(0) 1,828	(51) 605	(2) 82	(14) 1,835	(86) 6,364

#### 収集方針別

分類	日本画など	洋画など	水彩素描など	版画など	写真	彫刻など	特別資料	総計
エコーラ・ド・パリ		(1) 30	3	478	0	2	3	(1) 516
メキシコ・ルネサンス		36	41	391	60	4	0	(0) 532
現代の美術	5	(1) 138	(15) 97	282	(51) 63	(1) 63	(1) 11	(69) 659
郷土の美術	139	(1) 475	(1) 1,050	677	482	(1) 13	(13) 1,821	(16) 4,657
総計	(0) 144	(3) 679	(16) 1,191	(0) 1,828	(51) 605	(2) 82	(14) 1,835	(86) 6,364

( )内の数字は平成30年度収集分 ※分類変更による増減

### 中村正義 《自画像》

1962年 紙本着彩 161.6×129.4cm

#### 【損傷状態】

厚い絵の具層に亀裂、層間剥離、剥落が生じていた。また、絵具層全体に擦れ傷、引っ掻き傷が認められた。画面、裏面に埃が吸着し、裏面の中棧には割れが生じていた。また、付着物や接着剤の痕跡がみられた。

#### 【修復処置】

絵具層を接着し、余剰分の接着剤を除去した。また、画面と裏面をドライクリーニングし、中棧の割れ部分を接着・充填。付着物を処置。額縁にスペーサーを入れて作品を保護し、ステンレス製T字金具を装着、吊り金具も交換した。

### 西村千太郎 《虎の檻》

1935年 油彩・キャンヴァス 112.0×246.0cm

#### 【損傷状態】

画面右下と右上に凹み変形、画面左上には張り皺が生じていた。絵具層全体に細かい剥落があり、層間剥離も認められた。また、カビの生成が認められた。画面と裏面には埃の吸着が見られた。

#### 【修復処置】

絵具層の浮き上がり、剥落部分を接着。変形部分に蒸気を当てて修正した。画面を精製水にて洗浄し、裏面のドライクリーニングを行った。側面に亜麻布の補強材を接着、亜麻布を張り込んだ上に作品を張り込み。カビ部分を殺菌。剥落部分の充填・整形と補彩を行った。

### ディエゴ・リベラ 《赤軍の行進》

1928年 木炭・紙 48.0×65.0cm

#### 【損傷状態】

額装の状態として、アンダーマット、中性紙、しっかりとした裏板の装着がなく、作品が不安定な状態にあった。

#### 【修復処置】

上記の点を改善するため、アンダーマット、中性紙、ポリカーボネイト裏板を装着し、アクリル、吊り金具を交換した。

### 屋外彫刻キャプション

#### 【状態】

下記の屋外彫刻3点のキャプションが劣化・摩耗して見づらくなっていた。

黒川紀章 《EXPO'70 東芝・IHI館 テトラユニット》

新宮晋 《風のまつり》

セバスティアン 《椰子 (パルマス)》

#### 【処置】

新しいキャプションを作成し、従来のものと交換した。

### カーペット

#### 【状態】

ジョナサン・ポロフスキー 《ハンマリングマン》足元のカーペットが劣化していた。

#### 【処置】

新しいカーペットに張り替えた。

作品を収集にあたっては、サイズ・材質・形状、作品の状態などの作品に即したデータの採取のほか、作者・作品名・制作年・出品歴・所蔵歴などの作品に係わる歴史・文献的な情報の調査も行っている。これらの情報は、作品研究の基礎となるものであるが、収蔵時にすべてが明らかにできない作品もある。このような作品は、収蔵後も機会あるごとに追跡調査や情報収集を行って、不明な事項や新しい事実を明らかにするように努めている。

(1)作家の生没年の変更

作家の逝去により改定：

浜田 知明 (1917-2018)

収蔵資料貸出（平成30年度）

作家名	作品名	貸出期間・貸出先	展覧会名・展示期間
シャガール	二重肖像	H29.9.2～H30.5.20 東京ステーションギャラリー 名古屋市美術館 青森県立美術館	「シャガールー三次元の世界」 H29.9.16～12.3 H29.12.14.～H30.2.18. H30.3.10～5.6
熊谷守一	秋	H29.11.17～H30.7.1 東京国立近代美術館	「没後40年 熊谷守一 生きるよろこび」 H29.12.1～H30.3.21 H30.4.14～6.17
熊谷守一	山椿	愛媛県美術館	
真島直子	密林にて	H30.2.17～7.15 名古屋市美術館 足利市美術館	「真島直子 地ごく楽」 H30.3.3～4.15 H30.4.24～7.1
長谷川利行	大根の花	H30.3.10～H31.1.7 福島県立美術館 府中市美術館 碧南市藤井達吉現代美術館 久留米市美術館 足利市美術館	「長谷川利行展」 H30.3.24～4.22 H30.5.19～7.8 H30.7.21～9.9 H30.9.22～11.4 H30.11.13～12.24
池田龍雄	ストリップ・ミル	H30.4.12～7.1 練馬区立美術館	「戦後美術の現在形 池田龍雄展」 H30.4.26～6.17
池田龍雄	街		
池田龍雄	虫類図譜シリーズA		
池田龍雄	虫類図譜シリーズB		
池田龍雄	虫類図譜シリーズE		
池田龍雄	はじぎ(玩具世界シリーズ)		
岸田劉生	菊(君子独居)	H30.7.7～11.1 豊橋市美術博物館 ふくやま美術館	「開館30周年記念 岸田劉生展」 H30.7.21～9.2 H30.9.15～11.4
岸田劉生	寒山拾得		
岸田劉生	なわとびの図		
藤田嗣治	風景	H30.7.17～12.28 東京都美術館 京都国立近代美術館	「没後50年—藤田嗣治展」 H30.7.31～10.8 H30.10.19～12.16
片岡球子	潮	H30.8.31～11.28 井原市立田中美術館	「没後10年 片岡球子—情熱の日本画」 H30.9.14～11.4
スーテン	農家の娘	H30.4.21～10.1 ランス美術館	H30.5.5～9.17
赤瀬川原平	押収品・模型千円札Ⅲ梱包作品(かばん)	H30.8.30～H31.4.7 千葉市美術館 北九州市立美術館分館 静岡県立美術館	「1968年 激動の時代の芸術」 H30.9.19～11.11 H30.12.1～H31.1.27 H31.2.10～3.24
赤瀬川原平	押収品・模型千円札Ⅲ梱包作品(かなづち)		
赤瀬川原平	押収品・模型千円札Ⅲ梱包作品(ボトルI)		
千円札事件懇談会	法廷における大博覧会1(中西夏之《男子総カタログ》)		
千円札事件懇談会	法廷における大博覧会3(赤瀬川原平《復讐の形態学》など)		

中村宏	「トロッキー選集全巻完結記念講演会」ポスター		
中村宏	D53264機にのる友達ピオレット・ノジエイルの方へつねに遠のいてゆく風景 PACIFIC231機にのる舞踏嬢羊子	H30.8.30～H31.4.7 千葉市美術館 北九州市立美術館分館 静岡県立美術館	「1968年 激動の時代の芸術」 H30.9.19～11.11 H30.12.1～H31.1.27 H31.2.10～3.24
中村宏	『夢野久作全集』箱絵原画		
中村宏	『夢野久作全集』ポスター		
下郷羊雄旧蔵資料	『Abstraction Creation Art Non Figuratif』 no.4, 1935	H30.10.6～H31.1.5 三重県立美術館	「横光利一誕生120年 川端康成コレクション 川端康成と横光利一」 H30.10.27～12.16
下郷羊雄旧蔵資料	『Abstraction Creation Art Non Figuratif』 no.5, 1936		
河原温	《カム・オン・マイ・ハウス》		
中村宏	《乗物畫絵・表紙》		
中村宏	《乗物畫絵・キャタピラ》		
中村宏	《乗物畫絵・飛行機》		
中村宏	《乗物畫絵・船》	H30.12.10～H31.3.31 兵庫県立美術館	「Oh!マツリゴト 昭和・平成の日本のヒーロー &ピーポー展」H31.1.12～3.17日
中村宏	《乗物畫絵・モノレール》		
中村宏	《F601機》		
中村宏	《少女舟》		
中村宏	《少女列車》		
中村宏	《少女トロッコ》		
【特別資料】 櫻井一郎『亞東印画輯』 複写プリント	『亞東印画輯』複写プリントより、50点	H30.10.1～12.28 吉野作造記念館(宮城県)	「写真展 櫻井一郎が見た満洲」 H30.10.7～12.9
フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	H31.2.15～R1.6.28 ボストン美術館	「フリーダ・カーロとメキシコの民芸」 H31.2.27～R1.6.19

(1)名称

ゆめ・プレミアムアートコレクション寄附金事業

(2)趣旨

開館30周年の節目となる平成30年に、記念となる優れた美術品を収集するため、寄附金を集めるもの。

(3)寄附金の概要

1口1,000円以上。特典として、5,000円以上の個人の寄附者には、常設展1年間定期観覧券（大人1,200円）を進呈。

(4)目標額

平成30年度末までに30,000,000円。（学生向け優待制度の一部金額も含む）

(5)寄附金受入状況(平成31年3月31日現在)

平成30年度： 33件、 1,587,000円

累 計：198件、14,665,222円

(6)寄附金の活用

寄附金13,000,000円を活用し、開館30周年記念作品として、藤田嗣治《ベルギーの婦人》を購入した。

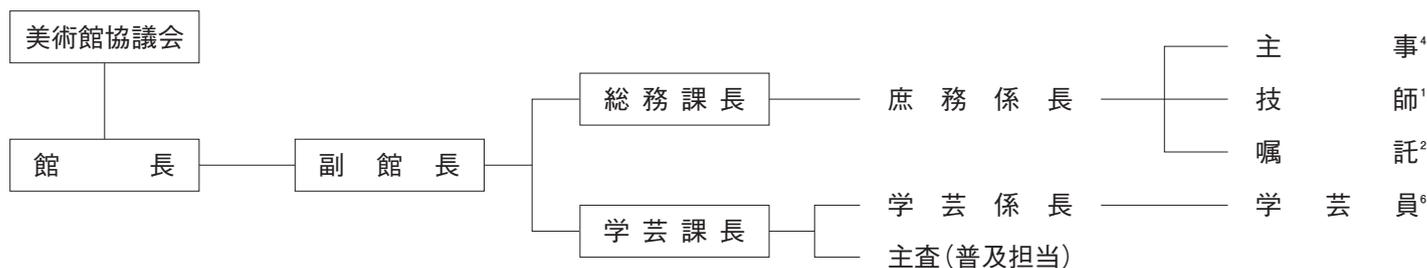
# 入館者一覽 VISITOR

展 覧 会 名	開催期間	開催 日数 (日)	有 料			無 料			入場者 総 数 (名)	
			一般	高大生	有料小計	招待券等	中学生以下	無料小計		
常 設 展	平成30年 4月1日(日)～ 平成31年 3月31日(日)	252	3,519	1,117	4,636	179,364	2,191	181,555	186,191	
特 別 展	真島直子 地ごく楽	平成30年 3月3日(土)～ 平成30年 4月15日(日)	13	932	105	1,037	1,071	112	1,183	2,220
	名古屋市美術館開館30周年記念 モネ それからの100年	平成30年 4月25日(水)～ 平成30年 7月1日(日)	60	116,819	6,035	122,854	18,408	7,874	26,282	149,136
	名古屋市美術館開館30周年記念 至上の印象派展 ビュールレ・コレクション	平成30年 7月28日(土)～ 平成30年 9月24日(月)	52	166,063	7,662	173,725	21,041	18,899	39,940	213,665
	名古屋市美術館開館30周年記念 ザ・ベスト・セレクション	平成30年 10月6日(土)～ 平成30年 11月25日(日)	44	11,999	1,095	13,094	4,683	1,741	6,424	19,518
	名古屋市美術館開館30周年記念 アルヴァ・アアルト もうひとつの自然	平成30年 12月8日(土)～ 平成31年 2月3日(日)	45	11,015	1,369	12,384	4,146	1,874	6,020	18,404
	名古屋市美術館開館30周年記念 辰野登恵子展	平成31年 2月16日(土)～ 平成31年 3月31日(日)	38	3,223	423	3,646	3,068	709	3,777	7,423
特 別 展 小 計		252	310,051	16,689	326,740	52,417	31,209	83,626	410,366	
合 計			313,570	17,806	331,376	231,781	33,400	265,181	596,557	
									教育普及事業参加者 (展示室内参加者を除く)	26,897
									総 計	623,454

## 〈年度別入館者数等〉

区 分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	累 計	
展 覧 会	常 設 展	開催日数	248	251	192	252	8,644
		入場者数	65,984	111,444	77,850	186,191	4,152,371
	特 別 展	開催日数	218	241	192	252	6,664
		入場者数	70,673	182,863	121,970	410,366	8,272,260
入 場 者 小 計		136,657	294,307	199,820	596,557	12,424,631	
教育普及事業参加者		14,856	20,044	17,471	26,897	717,445	
入 館 者 合 計		151,513	314,351	217,291	623,454	13,142,076	

## 1 組織図



## 2 美術館協議会

### (1)名古屋市美術館協議会委員

名古屋市立笹島小学校・中学校長	伊藤 久仁	愛知県私学協会文化部長	佐々木泰裕
愛知県立旭丘高等学校長	杉山 賢純	公益財団法人名古屋市文化振興事業団専務理事兼事務局長	柵木 厚
名古屋市立大学大学院人間文化研究科准教授	宮下さおり	名古屋市地域女性団体連絡協議会会計	田澤 悦子
名古屋市立小中学校PTA協議会理事	石原加奈子	公募委員	笹岡克比人
愛知県立芸術大学美術学部教授	小西 信之	名古屋商工会議所文化・観光委員会副委員長	滝 茂夫
愛知県美術館長	南 雄介	名古屋造形大学准教授	濱田 樹里
名古屋芸術大学芸術学部教授	高橋 綾子	株式会社JTB常務執行役員	松本 博

### (2)名古屋市美術館協議会開催状況

日 時	場 所	協 議 題
第1回定例会 平成30年10月26日(金) 午前10時～正午	美術館講堂	○平成29年度事業実施結果について ○平成30年度事業実施状況について
第2回定例会 平成31年2月28日(木) 午後2時～午後4時	美術館講堂	○平成30年度事業実施状況について ○平成31年度事業計画案について ○平成32年度特別展企画案について

## 3 職 員

館 長	早瀬 弘親	学芸課長	井口 智子
副 館 長	深谷 克典	学芸係長	保崎 裕徳
総務課長	橘 弘子	主査(普及)	佐藤 由直
庶務係長	梶田 富子	学 芸 員	角田美奈子
主 事	高木 忠明		竹葉 丈
	布施 英彦		中村 暁子
	木村 進也		笠木日南子
	長谷川千加		清家 三智
技 師	小川 和秀		森本 陽香
嘱 託	赤尾 重雄		
	千田 智治		

## 4 運営予算

総予算費	内 訳	
291,560千円	特別展関係費	141,305千円
	常設展運営費	18,957千円
	資料関係費	15,552千円
	教育普及事業費	7,095千円
	調査研究費	1,143千円
	管 理 費	107,508千円

平成30年度名古屋市美術館年報

発行日  
令和元年9月

編集・発行  
名古屋市美術館  
〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番25号  
(芸術と科学の杜・白川公園内)

TEL 052-212-0001

FAX 052-212-0005

# 名古屋市美術館

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番25号

Tel.052-212-0001 Fax.052-212-0005